BUFFALO™

Wi-Fiルーター
WSR-5400AX6シリーズ

ユーザーマニュアル

https://www.buffalo.jp/

35022044-06
2024.06

はじめに

本製品の特長

ネット脅威ブロッカー ベーシックに対応(別途、ライセンスの購入が必要)

「ネット脅威ブロッカー」は、ご家庭のネット家電をサイバー攻撃から守るセキュリティー機能です。不正な遠隔操作やパソコン内のデータ、防犯カメラ映像など個人情報の外部流出を防ぎ、さらにご家庭の機器が踏み台にされて他者の機器をDoS攻撃することも防ぎます。

メモ:

- ネット脅威ブロッカーについての詳細は、「インターネットに接続する機器を脅威から守る(ネット脅威ブロッカー)」(P.46)を参照してください。
- すべての機能を使用する場合は、AirStationアプリ※(スマートフォン用アプリ)が必要です。

  ※バージョン3.0以降、アプリ名称を「StationRadar」から「AirStationアプリ」に変更しています。本書では、AirStationアプリを使用した例を説明しています。

大容量・多台数通信に強いWi-Fi 6(11ax)に対応

高画質な動画配信サービスなど大きなデータを扱うコンテンツや、たくさんの端末との同時通信に強い、Wi-Fi 6(11ax)に対応しています。

EasyMeshに対応

EasyMesh対応のWi-Fiルーターと組み合わせて、メッシュネットワークを構築することができます。
メッシュネットワークでは、ネットワークの管理を行うコントローラとエージェントが連携し情報共有することで、最適なWi-Fiネットワークを自動構築します。また、メッシュネットワーク内のより安定した接続先を検知し、端末に切替を促すことが可能なので、家の中を移動しながらでも快適にWi-Fiをご利用いただけます。
詳しくは、「EasyMeshとは」(P.11)を参照してください。

日本の主要なIPv6サービスに対応

アクセス集中による影響が少ないIPv6高速インターネットをご利用いただけます。
動作確認済みサービスは、当社ホームページ(https://www.buffalo.jp/support/other/network-ipv6.html)を参照してください。

TWT(Target Wake Time)に対応

TWT(Target Wake Time)は、本製品から機器へのデータ通信タイミングを調整し、信号受信待機の必要がないときに、機器の通信機能をスリープ状態へ移行させることで消費電力を抑え、バッテリーを長持ちさせる機能です。

メモ:

- 本製品のTWTは常に有効に設定されています。無効にできません。
- 機器側もTWTに対応している必要があります。

ビームフォーミング/ビームフォーミングEXに対応

ビームフォーミング/ビームフォーミングEXは、機器にめがけて集中的に電波を送信する機能です。
機器の位置や距離を判別し、電波を適切に届けることができます。

メモ:

- ビームフォーミングは、常に有効に設定されています。無効にできません。
- ビームフォーミングEXは、工場出荷時は有効に設定されています。通常はそのままご使用ください。
  無線通信が途切れたり不安定になる場合は、無効にしてください。無効にする場合は、「2.4GHz(11ax/n/g/b)」(P.122)および「5GHz(11ax/ac/n/a)」(P.126)のビームフォーミングEXで、「使用する」のチェックマークを外してください。
- ビームフォーミングは、ビームフォーミングに対応した機器に対して使用できます。
  ビームフォーミングEXは、ビームフォーミングに対応していない機器に対しても使用できます。

802.11ax MU-MIMOに対応

MU-MIMOは、空間多重によってMU-MIMOに対応した複数の機器と同時に通信できる機能です。
本製品では、最大4台の機器が同時通信できます。

メモ:

- 工場出荷時は有効に設定されています。通常はそのままご使用ください。
  通信速度が安定しなかったり、通信速度が低下する場合は、無効にしてください。無効にする場合は、「2.4GHz(11ax/n/g/b)」(P.122)および「5GHz(11ax/ac/n/a)」(P.126)の802.11ax MU-MIMOで、「使用する」のチェックマークを外してください。
- 機器側も802.11ax MU-MIMOに対応している必要があります。

動作環境

Wi-Fiルーター本体とWi-Fi接続するときの対応機器

Wi-Fi機能に対応したパソコン、Mac、スマートフォン、タブレット、ゲーム機など

Wi-Fiルーターを設定変更するときの対応機器・対応OS・対応ブラウザー

＜対応機器＞
パソコン、Mac、スマートフォン※1、タブレット※1
＜対応OS＞
Windows 11/10※2/8.1※2
OS X 10.10以降
iOS 10以降
iPadOS 14以降
Android 4.4以降
＜対応ブラウザー＞
Microsoft Edge、Chrome、Firefox、Safari

※1　標準搭載のブラウザーを使った初期設定(インターネット接続設定)のみ対応しています。
※2　64ビットと32ビットに対応しています。

本製品の設定・利用時に使用するソフトウェア

以下ダウンロードページの記載を確認してください。
https://www.buffalo.jp/product/detail/software/wsr-5400ax6-mb.html

電波に関する注意

- 本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、工事設計認証を受けています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本製品は、日本国内でのみ使用できます。
- 本製品は、工事設計認証を受けていますので、以下の事項をおこなうと法律で罰せられることがあります。
  - 本製品を分解/改造すること
  - 本製品に貼ってある証明ラベルをはがすこと
- 電波法により、W52、W53は屋外利用禁止です(法令により許可された場合を除く)。
- 本製品は、次の場所で使用しないでください。
  電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところ、2.4GHz付近の電波を使用しているものの近く(環境により電波が届かない場合があります。)
- 本製品の使用する無線チャンネル(2.4GHz帯の1〜13チャンネル)は、以下の機器や無線局と同じ周波数帯を使用します。
  - 産業・科学・医療用機器
  - 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
    (1) 構内無線局(免許を要する無線局)
    (2) 特定小電力無線局(免許を要しない無線局)
- 本製品を使用する際は、上記の機器や無線局と電波干渉する恐れがあるため、以下の事項に注意してください。
  - 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
  - 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合は、速やかに本製品の使用周波数を変更して、電波干渉をしないようにしてください。
  - その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、当社サポートセンターへお問い合わせください。

使用周波数	2.4GHz
変調方式	OFDM方式/DS-SS方式
想定干渉距離	40m以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内無線局」「特定小電力無線局」帯域を回避可能

- 「新4K8K 衛星放送」と本製品は、相互に電波干渉を引き起こすことがあります。
  シールド性能の高い衛星放送用受信設備を使用してください。
  詳しくは、総務省のホームページ「4K 放送・8K 放送　情報サイト」(https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/housou_suishin/4k8k_suishin/radio-frequency-interference.html)を参照してください。

Wi-Fi(無線LAN)製品ご使用時におけるセキュリティーに関する注意

Wi-Fi(無線LAN)製品では、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどとWi-Fiアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁など)を越えてすべての場所に届くため、セキュリティーに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、IDやパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報、メールの内容などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

不正に侵入される
- 悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す(情報漏洩)
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)
- コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)

などの行為をされてしまう可能性があります。
本来、Wi-Fi(無線LAN)製品は、セキュリティーに関する仕組みを持っていますので、その設定を行って製品を使用することで、上記問題が発生する可能性は少なくなります。
セキュリティーの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティーに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

社団法人　電子情報技術産業協会(JEITA)
「無線LANのセキュリティに関する注意事項」より

本製品は、工場出荷時に無線LAN通信を暗号化するための暗号化キーを設定済みのため、通常はこのままご利用いただけます。本製品の設定画面より下記の設定を有効にすると、より強固なセキュリティーを設定できます。本製品の用途にあわせてご利用ください。

- 「ほかの機器から本製品を検索できなくする(ANY接続拒否設定)」(P.71)
- 「アクセスできる機器を制限する(MACアクセス制限)」(P.72)
- 「機器同士の無線通信を禁止する(プライバシーセパレーター)」(P.75)

操作方法について

本書では、パソコンでご利用になる場合を想定した操作方法を説明しています。タブレットをお使いの場合は、「クリック」を「タップ」と読み替えるなどして、本書をご活用ください。

目次

はじめに 1

本製品の特長 1

動作環境 2

電波に関する注意 3

Wi-Fi（無線LAN）製品ご使用時におけるセキュリティーに関する注意 4

操作方法について 4

第１章　本製品の基本的な無線設定 11

電波の範囲を広げるには 11

Wi-Fi EasyMesh™でメッシュネットワークを構築する場合 11

メッシュネットワークを構築しない場合 17

MACアクセス制限を使用している環境で中継機として使用する 27

MACアクセス制限下での注意事項 27

設定に必要な機器 27

設定のながれ 27

設定手順 27

端末を無線接続するには 33

WPA3で接続する方法 33

暗号化キーを使って接続する方法（手動設定） 34

QRコードを使って接続する方法（QRsetup） 35

AOSSで接続する方法 36

WPSで接続する方法 37

第２章　本製品の各種設定 38

本製品の設定を変更するには.....38
スマートフォン･タブレットをお使いの場合.....38
Windowsをお使いの場合.....39
Macをお使いの場合.....43
インターネットに接続する機器を脅威から守る（ネット脅威ブロッカー）.....46
ネット脅威ブロッカーとは.....46
スマートフォンやタブレットでライセンスを購入する.....47
パソコンでライセンスを購入する.....49
詳細な設定を行う.....51
ライセンスを更新する.....51
インターネットに接続できる時間を制限する（キッズタイマー）.....52
端末の登録と基本的な設定を行う.....52
端末の接続制限を一時的に解除する.....54
インターネット有害サイトへのアクセスを制限する（「i-フィルター」）.....55
管理パスワードを変更する.....59
本製品のファームウェアバージョンを確認する.....60
本製品のファームウェアを更新する.....60
自動的に更新する場合.....60
手動で更新する場合.....61
WPA2を無効にして、WPA3（Wi-Fiの新しい暗号化設定）だけを使用する.....62
節電する.....63
来訪者向け無線設定を行う（ゲストポート設定）.....65
来訪者がかんたんに接続できるように設定する場合.....65

高度な設定を行う場合 66
無線チャンネルを変更する 67
端末との電波強度と対応バンドをチェックして、最適なバンドに自動的に接続できるようにする（バンドステアリングLite）..... 69
AOSS接続を解除する 70
ほかの機器から本製品を検索できなくする（ANY接続拒否設定）..... 71
アクセスできる機器を制限する（MACアクセス制限）..... 72
機器同士の無線通信を禁止する（プライバシーセパレーター）. 75
ポートを開放する（ポート変換設定）..... 76
ネットワークゲームや各種サーバーを公開する場合など、あらかじめ利用するポート番号が分かっている場合 76
利用するポート番号が不明な場合 78
本製品のIPアドレスを変更する 79
Windowsをお使いの場合 79
Macをお使いの場合 85
フレッツ回線向けの設定をする（PPPoEマルチセッション）... 89
ルーター機能を停止する 92
本製品の設定を保存する・復元する 93
設定の保存 93
設定の復元 94

第３章　設定画面の詳細情報 95

かんたん設定と詳細設定について 95
かんたん設定画面 96
トップ画面 96
無線LAN（ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ）..... 98

AOSS/WPS 100
ゲストポート（ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ）100
i-フィルター（ルーターモード時のみ） 101
キッズタイマー 101
デバイスコントロール（ルーターモード時のみ） 104
EasyMesh 108
中継機能（中継動作時のみ） 110
詳細設定画面 111
注意ボタンについて 111
Internet 111
PPPoE 113
Dynamic DNS 115
アドレス変換 116
IPv6 117
LAN 119
DHCPリース 120
経路情報 121
2.4GHz（11ax/n/g/b） 122
5GHz（11ax/ac/n/a） 126
バンドステアリングLite 130
EasyMesh/中継機能（WB） 132
WPS 135
AOSS 136
MACアクセス制限 138
マルチキャスト制御 139
ゲストポート 140
無線引っ越し機能 142
セキュリティー基本設定 143
キッズタイマー 144
ファイアウォール 145

IPフィルター 147
IPv6フィルター 148
パススルー 149
ポート変換 150
DMZ 151
UPnP 151
i-フィルター 152
QoS 153
スケジュール 154
システム設定 156
ログ 158
設定管理/再起動 159
ファームウェア更新 160
システム 162
ログ 163
通信パケット 164
診断 165

第4章　困ったときは 166

IPv4 over IPv6通信サービスを契約しても、インターネット接続方式が切り替わらない 166
インターネットにつながらない 168
無線接続が切れる/不安定 168
無線でつながらない 169
設定画面が表示できない 170
無線での通信が遅い 170
設定を出荷時の状態に戻したい 170

付録 171

製品仕様 171

各部の名称 172

初期設定一覧 174

参考情報 179

Windows 11の場合の設定 179

Windows 10の場合の設定 180

Windows 8.1の場合の設定 181

Macの場合の設定 181

壁面への取り付けについて 182

取り付け時のご注意 182

取り付け方 183

本書について 186

免責事項 186

商標・登録商標 186

第１章　本製品の基本的な無線設定

電波の範囲を広げるには

本製品は、別売の中継機や中継機能のあるWi-Fiルーターと組み合わせて使用することで、Wi-Fi接続できる電波の範囲を広げることができます。
電波の範囲を広げる方法には次の2種類があります。

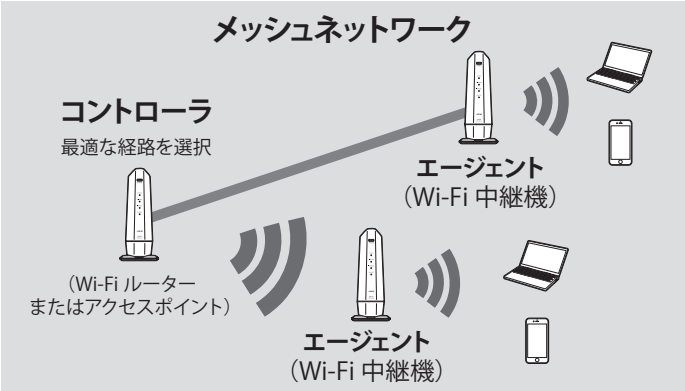
- 「Wi-Fi EasyMesh™でメッシュネットワークを構築する場合」(P.11)
- 「メッシュネットワークを構築しない場合」(P.17)

メモ: EasyMeshに対応していない中継機やWi-Fiルーターでは、メッシュネットワークを構築することはできません。EasyMeshに対応していないWi-Fi機器と組み合わせて使用する場合は、「メッシュネットワークを構築しない場合」(P.17)を参照してください。

Wi-Fi EasyMesh™でメッシュネットワークを構築する場合

EasyMeshとは

「Wi-Fi CERTIFIED EasyMesh®」とはWi-Fi Alliance の認定規格であり、EasyMeshに対応していれば異なるメーカー製品間でもメッシュネットワークを構築できます。
メッシュネットワークでは、ネットワークの管理を行う「コントローラ(Wi-Fiルーターまたはアクセスポイント)」と「エージェント(Wi-Fi中継機)」が連携し情報共有することで、最適なWi-Fiネットワークを自動構築します。また、メッシュネットワーク内のより安定した接続先を検知し、端末に切替を促すことが可能なので、家の中を移動しながらでも快適にWi-Fiをご利用いただけます。



EasyMeshには、次の特長があります。

- 一度LANケーブルで接続するだけでコントローラ(Wi-Fiルーター)とエージェント(Wi-Fi中継機)として使用できます。従来のAOSSボタンやWPSボタンを使用する方法よりも簡単に中継設定できます。
- コントローラが経路を自動で最適化するので、接続や通信が安定して使用できます。

EasyMeshでの注意事項

メッシュネットワークを利用するには、下記条件が必要です。

- コントローラおよびエージェントとして使用する「Wi-Fiルーター、アクセスポイント、Wi-Fi中継機(まとめてWi-Fi機器と表記します)」が、すべてEasyMesh に対応していること
- EasyMesh対応するためにファームウェアの更新が必要な場合があります。

- ネットワーク内にあるWi-Fi機器の1台が、コントローラとして設定されていること（コントローラは2台以上設置することはできません）
- ネットワーク内にあるWi-Fi機器が、エージェントとして設定されていること（エージェントは複数台設置することができます）
- コントローラとWi-Fi接続しているエージェントは、ほかのエージェントと有線接続していないこと
- EasyMesh機能非対応のファームウェアバージョンから対応のバージョンにファームウェアを更新した製品では、EasyMesh機能の設定が無効になっています。設定画面から、[詳細設定]－[無線設定]－[EasyMesh]の[EasyMesh機能]を[使用する]を選択し、EasyMesh機能を有効にしてください。

EasyMeshを使うための設定方法

設定手順は、2つ方法があります。

- 「A.本製品をコントローラに設定する方法」(P.12)
- 「B.本製品をエージェントに設定・設置する方法」(P.14)

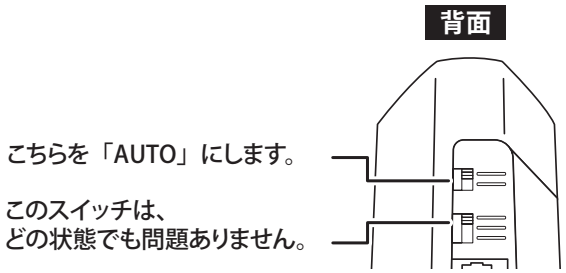
メモ: すでに設定完了済みの状態の本製品を使用する場合は、本製品の設定を初期化してください。初期化方法については、「設定管理/再起動」(P.159)を参照してください。

A.本製品をコントローラに設定する方法

ここでは、本製品をコントローラに設定し、エージェントと接続する手順を説明しています。
エージェントの操作手順については、エージェント付属の取扱説明書を参照してください。

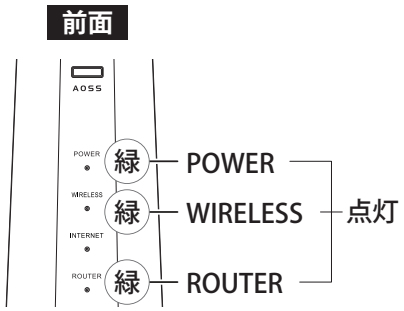
1 **エージェントの電源を入れ、あらかじめエージェントの設定を初期化します。**

2 **本製品のAUTO/MANUALスイッチを「AUTO」にします。**



3 **エージェントの電源が入っているか確認し、本製品にACアダプターを接続し、電源をONにします。**

4 **約1分後、本製品前面のランプ（POWER、WIRELESS、ROUTER）が緑色に点灯していることを確認します。**



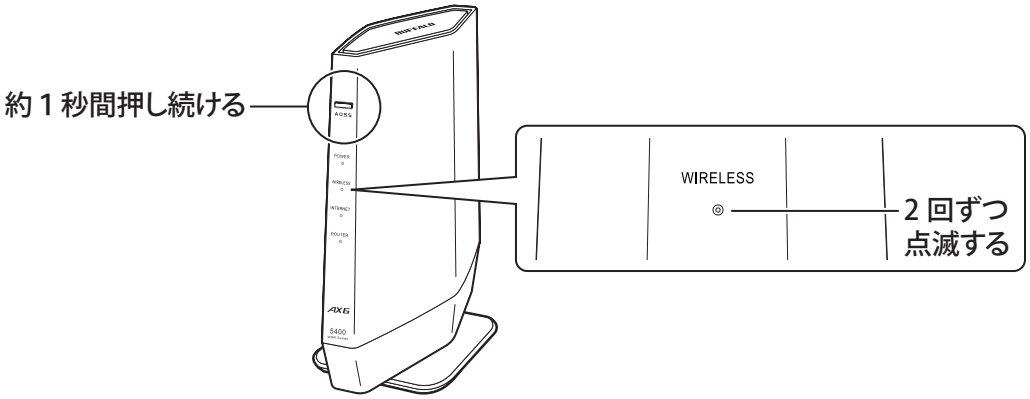
5 **本製品のLAN端子と、エージェントのLAN端子をLANケーブルで接続します。**

6 **本製品との接続完了は、エージェントで確認してください。**

以上で完了です。

メモ: LANケーブルを使用せずに、AOSSボタンを使って本製品をコントローラとして設定するときは、次のように行います。

(1) 本製品のAUTO/MANUALスイッチを「AUTO」にします。
(2) エージェントの電源が入っているか確認し、本製品にACアダプターを接続し、電源をONにします。
(3) 約1分後、本製品前面のランプ（POWER、WIRELESS、ROUTER）が緑色に点灯していることを確認します。
(4) Wi-Fi中継機のAOSSボタンまたはWPSボタンを押します（製品によって操作は異なります）。
(5) 本製品のAOSSボタンを、WIRELESSランプが2回ずつ連続点滅するまで（約２秒間）長押しします。



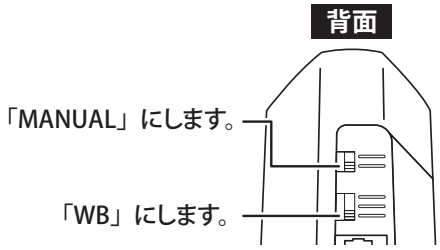
(6) 正常に接続できると、本製品のWIRELESSランプが緑色に点灯します。
WIRELESSランプが緑色に高速で連続点滅しているときは、正しく接続できていません。手順(1)からもう一度やり直してください。

以上で設定は完了です。

B.本製品をエージェントに設定･設置する方法

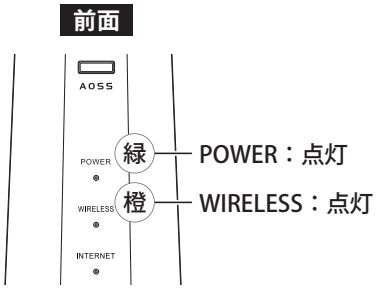
ここでは、本製品をエージェントに設定し、コントローラと接続する手順を説明しています。
コントローラの操作手順については、コントローラ付属の取扱説明書を参照してください。

1 本製品のAUTO/MANUALスイッチを「MANUAL」、ROUTER/AP/WBスイッチを「WB」にします。

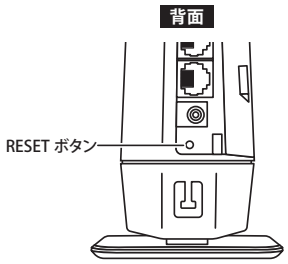


2 コントローラの電源が入っているか確認し、本製品にACアダプターを接続し、電源をONにします。

3 約1分後、本製品前面のランプの点灯を確認します。



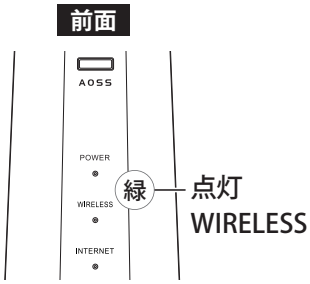
4 クリップを伸ばした先などで本製品のRESETボタンを約3秒間押して、本製品を初期化します。



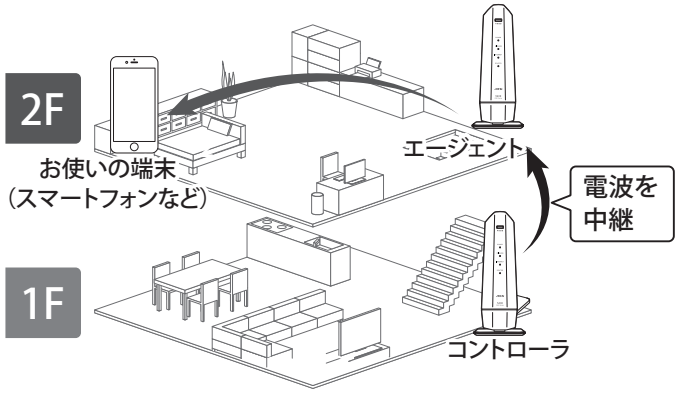
5 本製品のLAN端子と、コントローラのLAN端子をLANケーブルで接続します。

6 約20秒後、本製品のWIRELESSランプが緑色に点灯していれば、コントローラとの接続は完了です。

メモ: WIRELESSランプが橙色に高速で連続点滅しているときは、正しく接続できていません。本製品のACアダプターを取り外し、手順2からもう一度やり直してください。



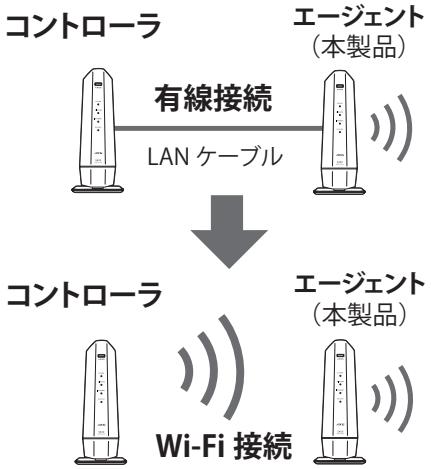
7 コントローラと、お使いの端末を利用する場所の中間付近に本製品を設置し直します。



以上で完了です。

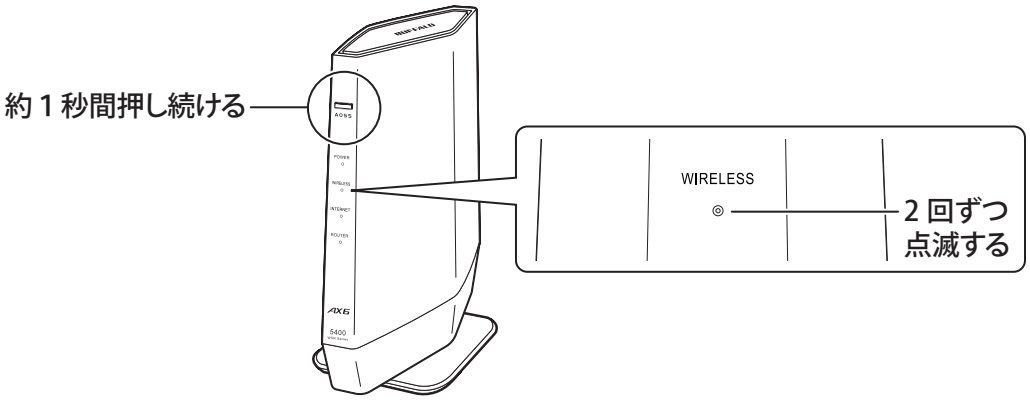
メモ: 接続完了後は、LANケーブルを外して使用することもできます。

LANケーブルを外し、約2分後、本製品のWIRELESSランプが緑色に点灯していれば、コントローラとのWi-Fi接続は完了です。
WIRELESSランプが緑色に点灯していないときは、本製品のACアダプターを取り外し、手順2からもう一度やり直してください。
その後、コントローラと、お使いの端末を利用する場所の中間付近にエージェントを設置し直してください。



メモ: LANケーブルを使用せずに、AOSSボタンを使って本製品をエージェントとして設定するときは、次のように行います。

(1) 本製品のROUTER/AP/WBスイッチを「WB」に切り替えます。
(2) コントローラの電源が入っているか確認し、本製品にACアダプターを接続し、電源をONにします。
(3) 約1分後、本製品前面のランプ（POWER、WIRELESS、ROUTER）が緑色に点灯していることを確認します。
(4) 本製品のAOSSボタンを、WIRELESSランプが緑色に2回ずつ連続点滅するまで（約２秒間）長押しします。



(5) コントローラのAOSSボタンまたはWPSボタンを押します（製品によって操作は異なります）。
(6) 正常に接続できると、本製品のWIRELESSランプが緑色に点灯します。
WIRELESSランプが緑色に高速で連続点滅しているときは、正しく接続できていません。手順(1)からもう一度やり直してください。

以上で設定は完了です。

メッシュネットワークを構築しない場合

中継機を本製品に接続する方法

中継機を本製品に接続する場合は、中継機の取扱説明書を参照して接続をしてください。

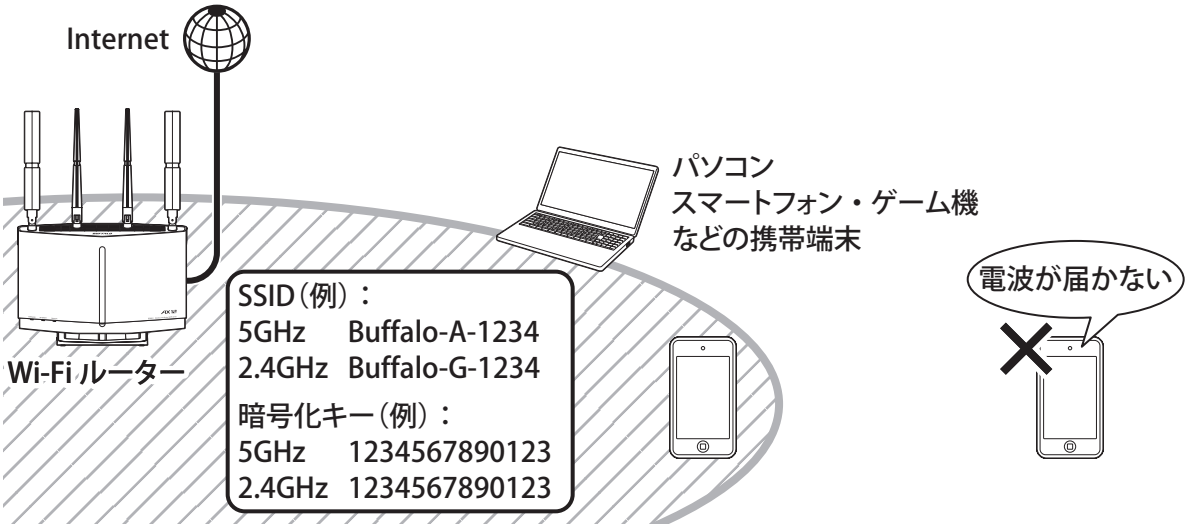
本製品を中継機として使用する方法

本製品を中継機として使用する方法は、以下の3つの方法があります。

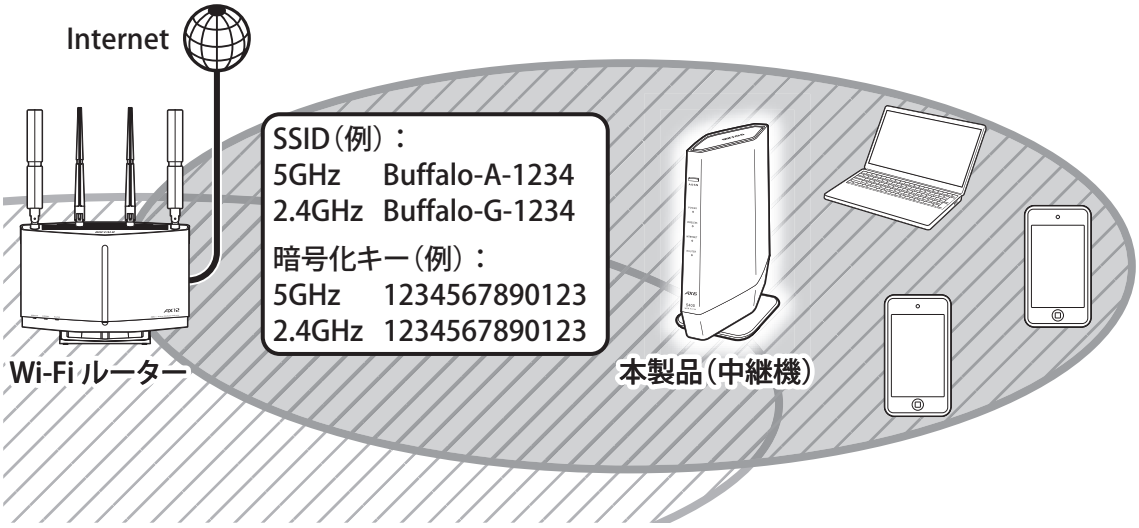
- 「本体のボタンを押して設定する（AOSS/WPSプッシュボタン式）」（P.18）
- 「Wi-Fiルーターの暗号化キーを入力して設定する（手動設定）」（P.19）
- 「WPS（PINコード式）で設定する」（P.23）

ご利用イメージ

中継機導入前



中継機導入後



- 上記の「中継機導入後」の図において、パソコンや携帯端末をWi-Fiルーターに近づけた場合、それらの端末は本製品からWi-Fiルーターへ接続を自動的に切り替え（ローミングを行い）ます。

- 本書に記載の手順で設定を行うと、本製品はWi-Fiルーターの設定（SSIDや暗号化キー）を引き継ぎますので、ご利用中の端末（パソコンや携帯端末など）の設定を変更することなくお使いいただけます。
- Wi-FiルーターにMACアクセス制限設定をしている場合は、「MACアクセス制限を使用している環境で中継機として使用する」（P.27）を参照して設定してください。

本体のボタンを押して設定する（AOSS/WPSプッシュボタン式）

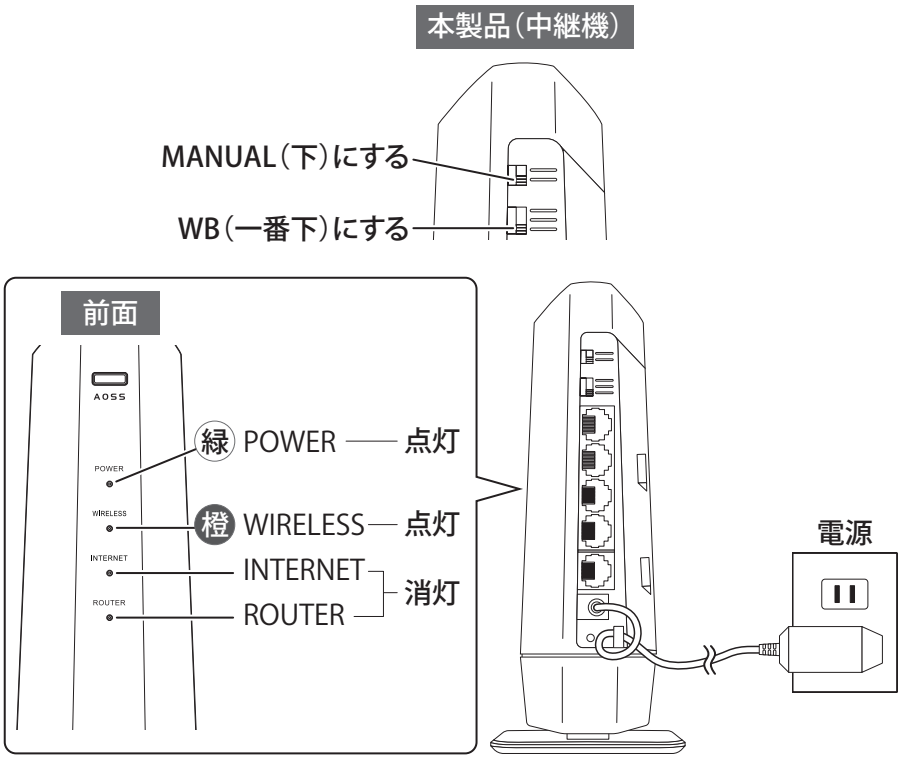
ここでは、本体のボタンを押して設定する手順（AOSS/WPSプッシュボタン式）を説明します。

1 すでに設置済みのWi-Fiルーターに、お使いの端末（パソコンや携帯端末など）を接続してインターネットに接続できることを確認します。

メモ: インターネットに接続できない場合、Wi-Fiルーターの説明書を参照して設定を行い、インターネットに接続できることを確認してください。

2 本製品（中継機）の背面のスイッチを「MANUAL」（下）、「WB」（一番下）にして、電源を入れます。

約1分後、前面ランプが以下の状態になっていることを確認します。
本製品のランプが以下の状態でない場合は、本製品のRESETボタンをPOWERランプが緑色に点灯するまで（約3秒間）押して初期化してください。



3 本製品（中継機）のAOSSボタンを、WIRELESSランプが2回周期で緑色に点滅するまで（約1秒間）押し続けます。

2回周期で点滅したら、ボタンから手を離します。

4 Wi-FiルーターのAOSS/WPSボタンを押して、AOSS/WPS接続を開始します。

ボタンを押す間隔は、お使いのWi-Fiルーターによって異なります。

5 約2分後、本製品（中継機）のWIRELESSランプが緑色に点灯していることを確認します。

メモ:

- 本製品のWIRELESSランプが緑色に点滅している場合、2分程度待ってからもう一度ランプの状態を確認してください。
- その後もWIRELESSランプの点滅が続いている場合は、手順3〜4をもう一度行ってください。

以上で中継機の設定は完了です。

Wi-Fiルーターの暗号化キーを入力して設定する（手動設定）

ここでは、Wi-Fiルーターに設定されている暗号化キーを使って設定する手順（手動設定）を説明します。

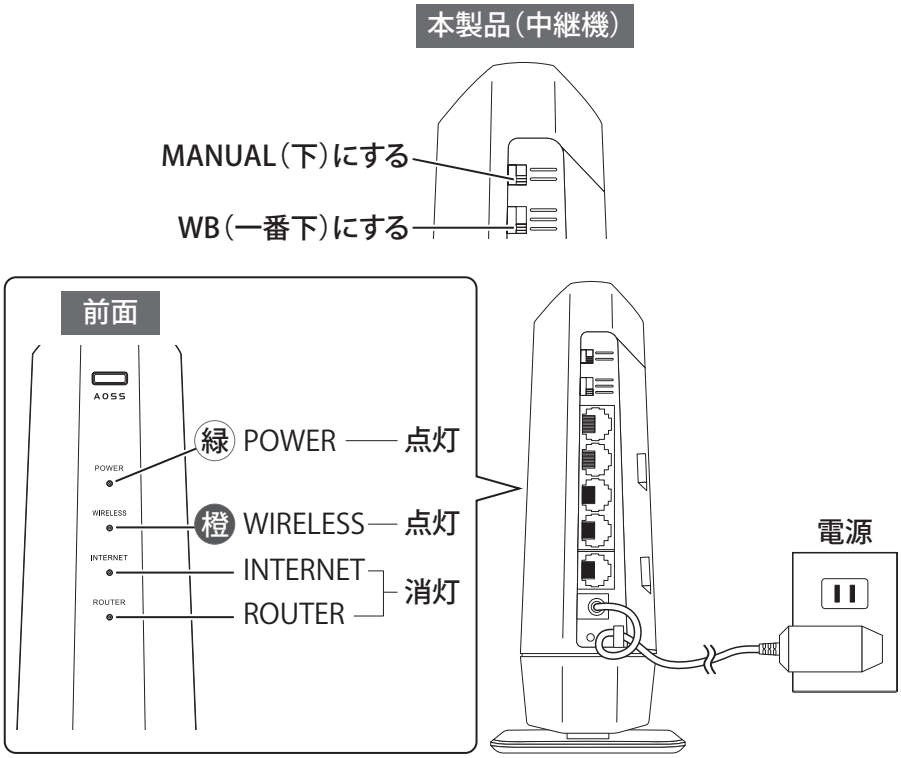
メモ: 中継機の設定画面を表示し、中継機の接続設定をするために、LAN端子を持つパソコンが必要です。

1 すでに設置済みのWi-Fiルーターに、お使いの端末（パソコンや携帯端末など）を接続してインターネットに接続できることを確認します。

メモ: インターネットに接続できない場合、Wi-Fiルーターの説明書を参照して設定を行い、インターネットに接続できることを確認してください。

2 背面のスイッチを「MANUAL」（下）、「WB」（一番下）にして、電源を入れます。

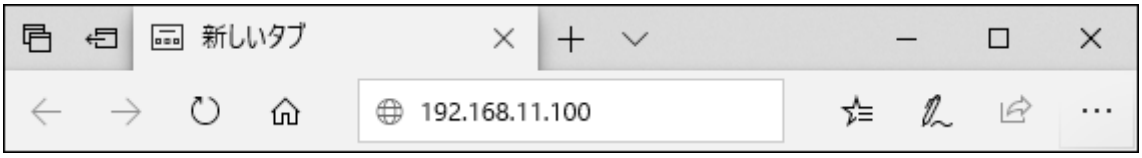
1分程度して、前面ランプが以下の状態になっていることを確認します。
本製品のランプが以下の状態でない場合は、本製品のRESETボタンをPOWERランプが緑色に点滅するまで（約3秒間）押して初期化してください。



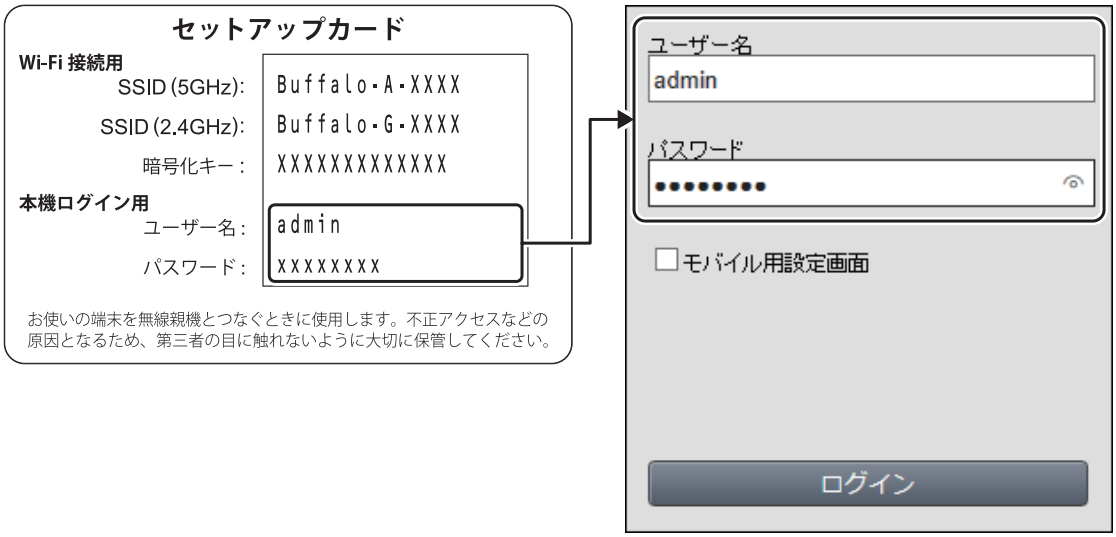
3 「参考情報」（P.179）を参照して、設定用パソコンのIPアドレスを192.168.11.xxx（例：192.168.11.135）に固定します。

4 中継機と設定用パソコンをLANケーブルで接続します。

5 **ブラウザー（Internet Explorerなど）を起動し、アドレス欄に「192.168.11.100」と入力します。**



6 **セットアップカードに記載されているユーザー名とパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。**



メモ: パスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力してください。

7 **「詳細設定」－「無線設定」－「EasyMesh/中継機能（WB）」をクリックします。**

8「手動接続をする」をクリックします。

9 接続先のWi-Fiルーターを選択し、[選択]をクリックします。

10 **接続先のWi-Fiルーターの暗号化キーを入力し、[決定]をクリックします。**

11 **手順3で固定した設定用パソコンのIPアドレスを「自動取得」に戻します。**

以上で中継機の設定は完了です。

WPS（PINコード式）で設定する

ここでは、中継機を接続する際に、PINコードを使って設定する手順を説明します。

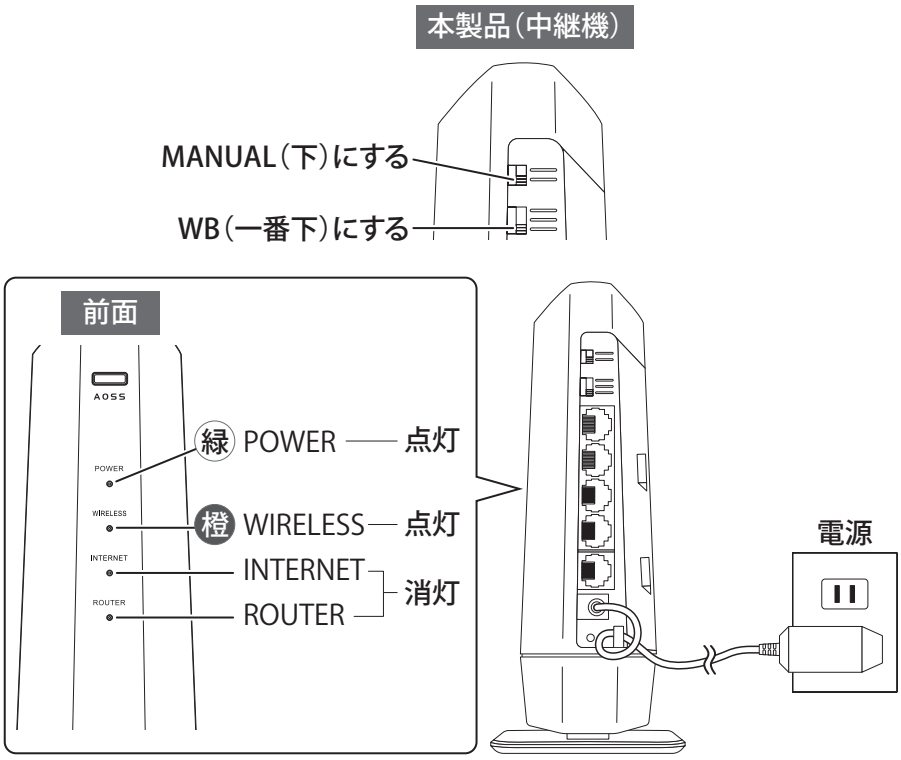
メモ: 中継機の設定画面を表示し、中継機の接続設定をするために、LAN端子を持つパソコンが必要です。

1 すでに設置済みのWi-Fiルーターに、お使いの端末（パソコンや携帯端末など）を接続してインターネットに接続できることを確認します。

インターネットに接続できない場合、Wi-Fiルーターの説明書を参照して設定を行い、インターネットに接続できることを確認してください。

2 背面のスイッチを「MANUAL」（下）、「WB」（一番下）にして、電源を入れます。

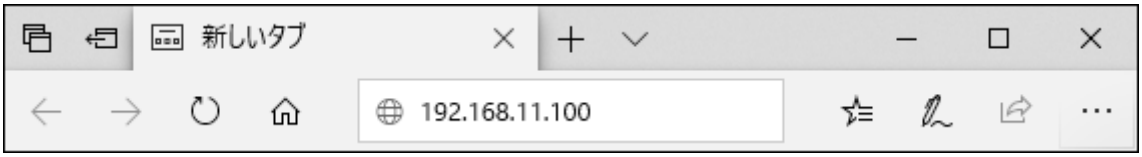
1分程度して、前面ランプが以下の状態になっていることを確認します。
本製品のランプが以下の状態でない場合は、本製品のRESETボタンをPOWERランプが緑色に点滅するまで（約3秒間）押して初期化してください。



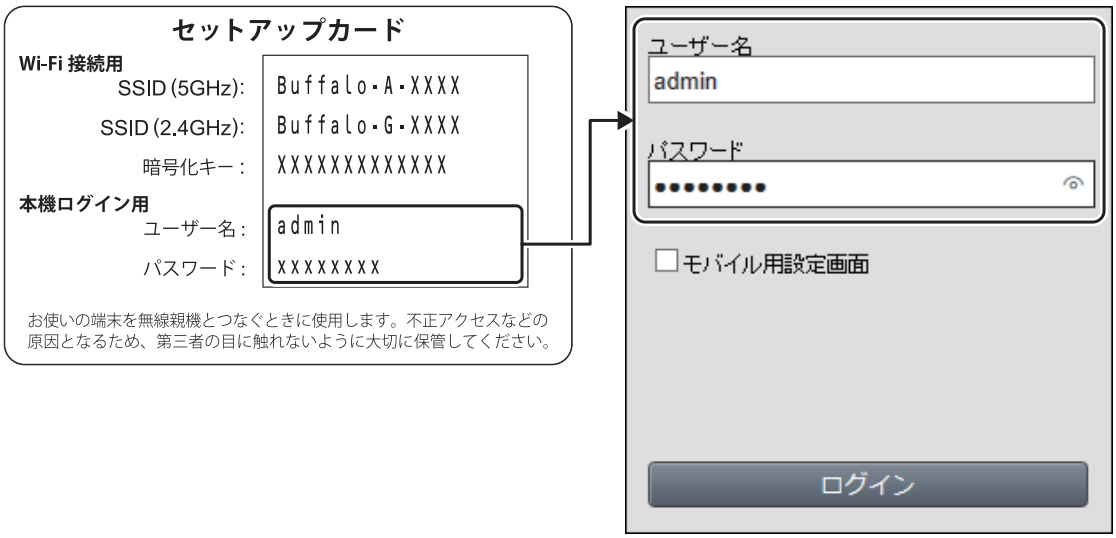
3 「参考情報」（P.179）を参照して、設定用パソコンのIPアドレスを192.168.11.xxx（例：192.168.11.135）に固定します。

4 中継機と設定用パソコンをLANケーブルで接続します。

5 ブラウザー（Internet Explorerなど）を起動し、アドレス欄に「192.168.11.100」と入力します。



6 **セットアップカードに記載されているユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン]をクリックします。**



メモ: パスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力してください。

7 **「詳細設定」－「無線設定」－「EasyMesh/中継機能(WB)」をクリックします。**

8 「PINを使用したWPSを開始する」をクリックします。

9 画面上部に表示されている「PINコード」を控え、接続先のWi-Fiルーターを選択し、[PIN実行]をクリックします。

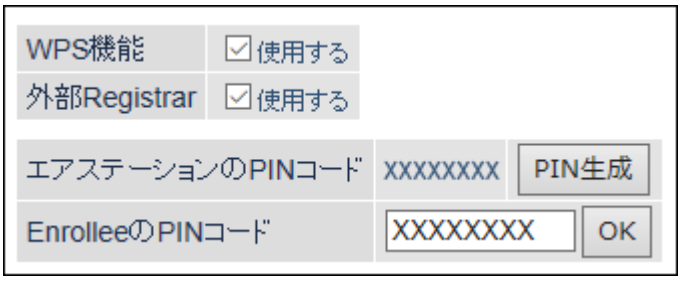
メモ: [PIN実行]をクリックすると、「WPSを実施しています。」と表示されますので、2分以内に手順10～12を完了させてください。

10 別のパソコンなどを使って、接続先のWi-Fiルーターの設定画面を表示します。

11 **WPS設定の画面を表示します。**

メモ: Wi-Fiルーターが当社のエアステーションシリーズである場合は、無線設定ページにあるWPSの画面を表示します。

12 **手順9で控えたPINコードを登録します。**



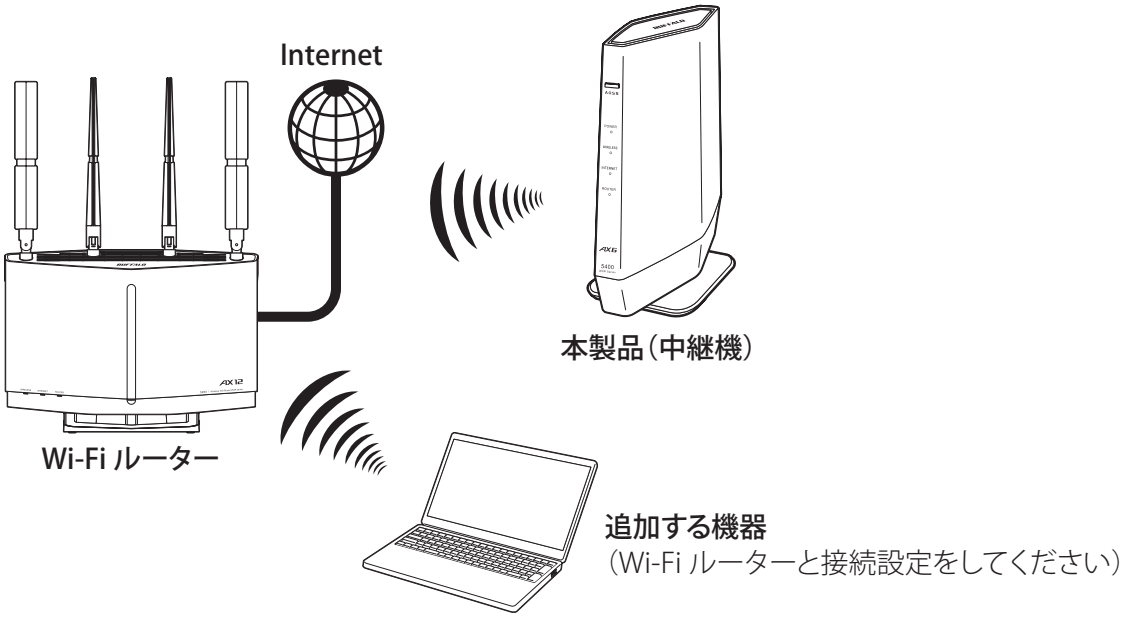
メモ: Wi-Fiルーターが当社のエアステーションシリーズである場合は、「EnrolleeのPINコード」にPINコードを入力してください。

13 **手順3で固定した設定用パソコンのIPアドレスを「自動取得」に戻します。**

以上で中継機の設定は完了です。

端末を追加する場合

ここで設定した環境に端末を追加する場合は、お使いのWi-Fiルーターの取扱説明書を参照し、Wi-Fiルーターと各端末を接続してください。



メモ: 中継機とパソコンなどの各端末間は、直接接続設定を行うことはできません（Wi-Fiルーターと接続設定を行うことで、中継機にも接続できるようになります）。

MACアクセス制限を使用している環境で中継機として使用する

MACアクセス制限を使用している環境で、本製品を中継機として設置する方法を説明します。

MACアクセス制限下での注意事項

通常、MACアクセス制限を行う場合は、お使いの端末のMACアドレスをWi-Fiルーターに登録し、制限をかけます。
一方、中継機を経由した通信にMACアクセス制限を行う場合には、中継機の無線MACアドレスをWi-Fiルーターに登録し、その中継機に接続する端末のMACアドレスを中継機に登録する必要があります（端末がWi-Fiルーターに直接接続する可能性がある場合は、Wi-Fiルーターにも登録します）。
中継機の無線MACアドレスがWi-Fiルーターに登録されていない場合、中継機からWi-Fiルーターへの通信が制限されてしまい、中継機に接続している端末からは、中継機を経由した通信ができません。
以下の手順に従って、設定を行ってください。

設定に必要な機器

- **中継機（本製品）**
- **インターネットに接続済みのWi-Fiルーター**
  ここでは例として、Wi-FiルーターにもWSR-5400AX6を使用しています。
- **LAN端子を持つパソコン**
  中継機の設定を行う際に必要です。パソコンにLAN端子がない場合は、USB接続用のLANアダプターなどを別途ご用意ください。

設定のながれ

設定は以下のながれで行います。

ステップ１　端末のMACアドレスを中継機（本製品）、Wi-Fiルーターに登録する
ステップ２　中継機（本製品）のMACアドレスをWi-Fiルーターに登録する

それぞれのステップにおける手順は、以下の「設定手順」（P.27）を参照してください。

設定手順

ステップ１　端末のMACアドレスを中継機（本製品）、Wi-Fiルーターに登録する

MACアクセス制限後は、ここで登録していない端末は、中継機（本製品）およびWi-Fiルーターに無線接続できなくなりますのでご注意ください。

1 **端末のMACアドレスを中継機（本製品）に登録します。「アクセスできる機器を制限する（MACアクセス制限）」（P.72）を参照して設定を行ってください。**

2 Wi-Fiルーター側にMACアクセス制限が設定されている場合は、一時的にWi-FiルーターのMACアクセス制限を無効にします。

メモ: ここで無効にしたMACアクセス制限は、ステップ 2でもう一度有効にします。

端末が中継機（本製品）にのみ接続する（Wi-Fiルーターに直接接続しない）場合は、以下の手順は不要です。ステップ 2に進んでください。

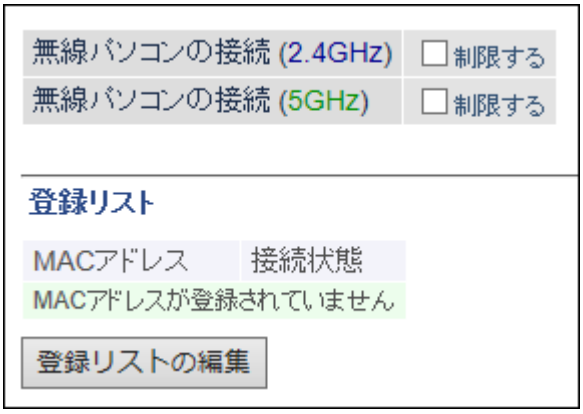
3 端末のMACアドレスをWi-Fiルーターに登録します。Wi-Fiルーターに直接接続する可能性がある端末を、いったんWi-Fiルーターに無線接続します。接続方法は、お使いの機器の取扱説明書を参照してください。

4 Wi-Fiルーターの設定画面を表示します。Wi-FiルーターがWSR-5400AX6の場合は、「本製品の設定を変更するには」（P.38）を参照してください。

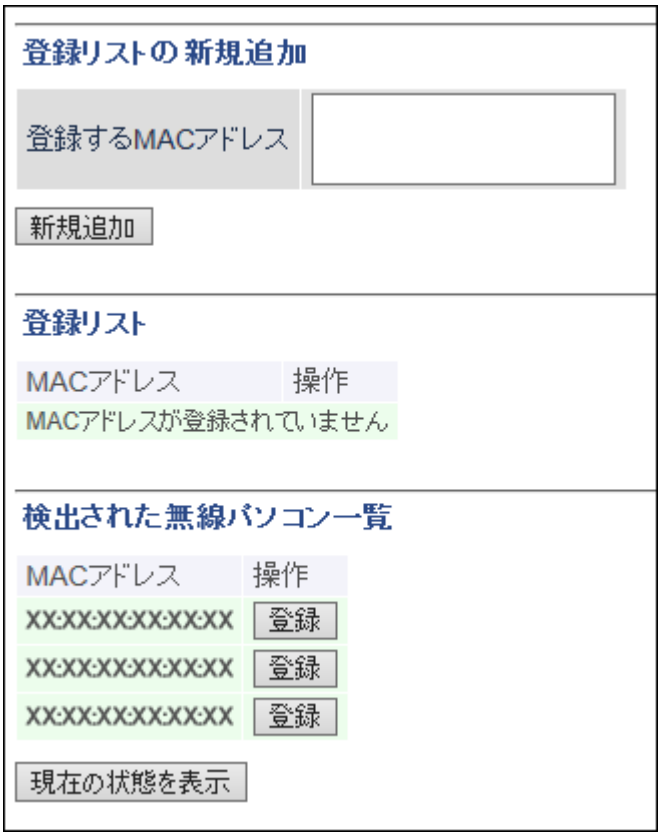
以下の手順・画面は、Wi-FiルーターがWSR-5400AX6の場合の例です。異なるWi-Fiルーターをご利用の場合は、Wi-Fiルーターの取扱説明書に従ってください。

5 「詳細設定」－「無線設定」－「MACアクセス制限」をクリックします。

6 「登録リストの編集」をクリックします。



7 「検出された無線パソコン一覧」欄で、手順3で接続した端末のMACアドレスすべてに対して［登録］をクリックします。



メモ: ここではMACアドレスをWi-Fiルーターに登録するだけです。制限を有効にはしません。

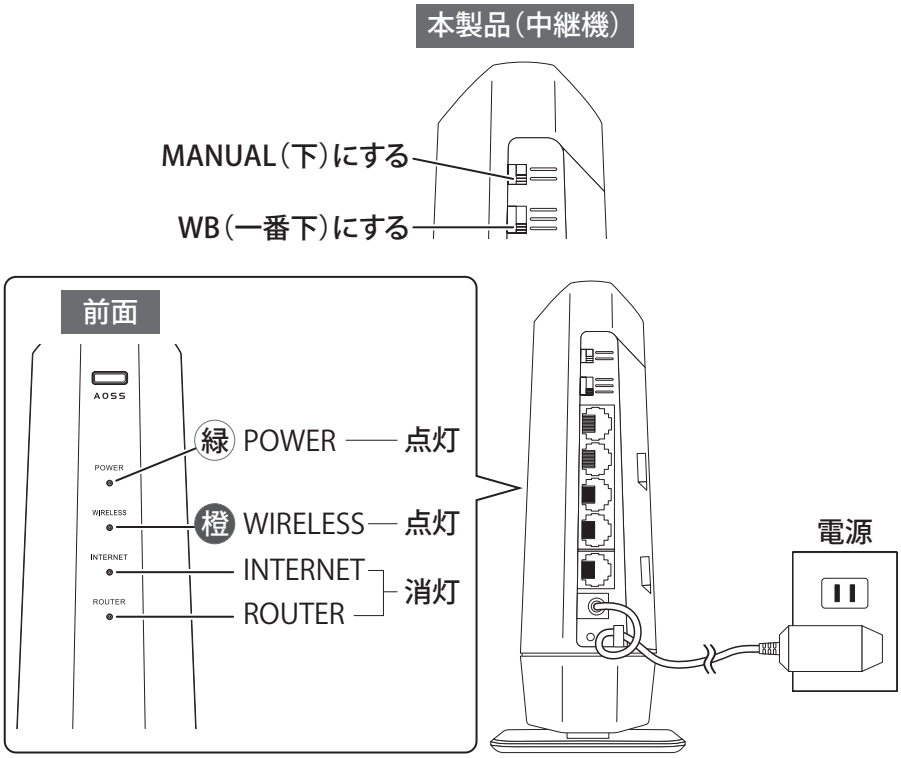
続いてステップ 2へ進みます。

ステップ２　中継機（本製品）のMACアドレスをWi-Fiルーターに登録する

中継機（本製品）の設定画面を表示するために、LAN端子を持つパソコンが必要です。

1 中継機（本製品）の背面のスイッチを「MANUAL」（下）、「WB」（一番下）にして、電源を入れます。

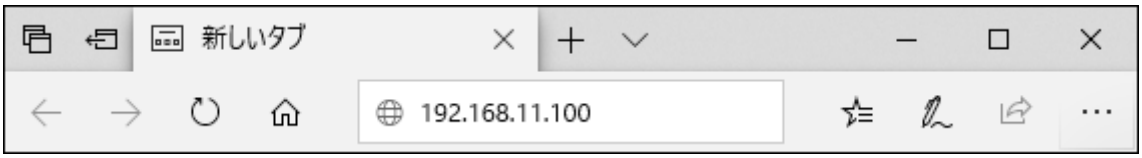
約1分後、前面ランプが以下の状態になっていることを確認します。
本製品のランプが以下の状態でない場合は、本製品のRESETボタンをPOWERランプが緑色に点灯するまで（約3秒間）押して初期化してください。



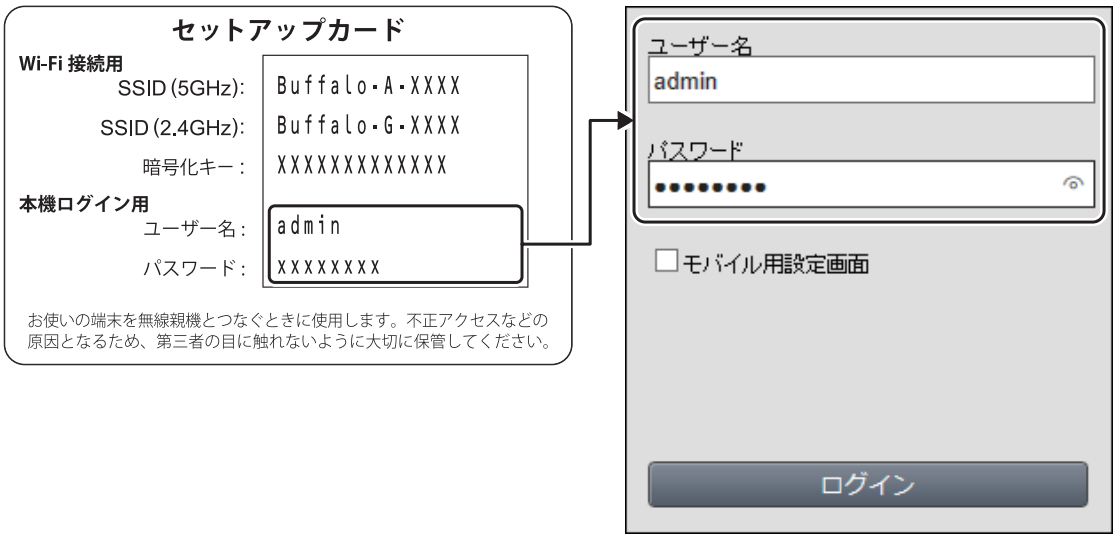
2 「参考情報」（P.179）を参照して、設定用パソコンのIPアドレスを192.168.11.xxx（例：192.168.11.135）に固定します。

3 中継機と設定用パソコンをLANケーブルで接続します。

4 ブラウザー（Internet Explorerなど）を起動し、アドレス欄に「192.168.11.100」と入力します。



5 **セットアップカードに記載されているユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン]をクリックします。**



メモ: パスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力してください。

6 **「詳細設定」－「ステータス」－「システム」をクリックします。**

7 **「中継機能」に記載されているMACアドレスをメモなどに控えます。**

WB	SSID	Buffalo-A-XXXX
	認証方式	WPA2 Personal
	暗号化	AES
	無線チャンネル	52(5GHz)
	MACアドレス	XX:XX:XX:XX:XX:XX

8 **画面右上の「ログアウト」をクリックします。**

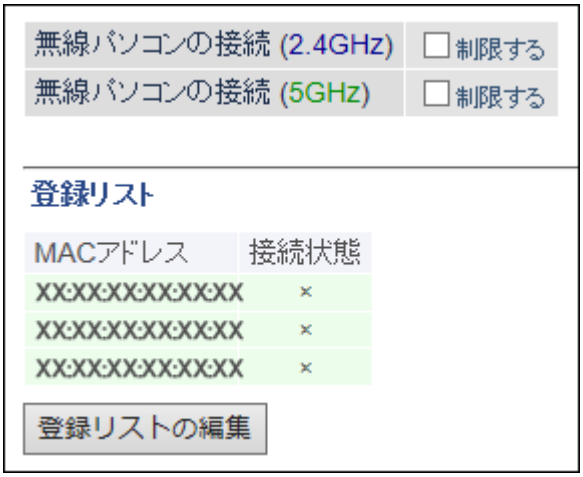
9 **設定用パソコンからLANケーブルを取り外し、手順2で固定したIPアドレスを自動取得に戻します。**

10 **設定用パソコンをWi-Fiルーターに接続し、設定画面を表示します。**

以下の手順・画面は、Wi-FiルーターがWSR-5400AX6の場合の例です。異なるWi-Fiルーターをご利用の場合は、Wi-Fiルーターの取扱説明書に従ってください。

11 **「詳細設定」－「無線設定」－「MACアクセス制限」をクリックします。**

12 「登録リストの編集」をクリックします。



13 「登録するMACアドレス」欄に、手順7でメモしたMACアドレスを入力して［新規追加］をクリックします。

14 ［編集を終了して前の画面に戻る］をクリックした後、「無線パソコンの接続」を「制限する」に設定し、［設定］をクリックします。

メモ: 2.4GHz、5GHz両方とも「制限する」に設定してください。

15 設定が反映されていることを確認し、Wi-Fiルーターからログアウトします。

以上でMACアドレスの登録は完了です。
「本製品を中継機として使用する方法」(P.17)を参照して、中継機をWi-Fiルーターに接続してください。

端末を無線接続するには

WPA3で接続する方法

本製品はWPA3（Wi-Fiの新しい暗号化設定）に対応しています。
WPA3に対応した端末をお使いで、WPA3を使って本製品に接続したい場合は、以下の手順で設定してください。

メモ:

- 2024年6月現在、「QRコードを使って接続する方法（QRsetup）」（P.35）や「AOSSで接続する方法」（P.36）、「WPSで接続する方法」（P.37）は、WPA3に対応していません。
- お使いの端末やOSによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。

1 本製品に設定されているSSIDや暗号化キーを確認します。

本製品ご購入時のSSIDや暗号化キーは、セットアップカードで確認できます。

メモ:

- 本製品ご購入時のWPA3用のSSIDは、セットアップカードに記載のSSID末尾に「-WPA3」を加えたものです（例：Buffalo-A-XXXX-WPA3、Buffalo-G-XXXX-WPA3など）。
- 本製品ご購入時のWPA3用の暗号化キーは、セットアップカードに記載の暗号化キーと同一です。

2 お使いの機器から本製品を検索します。

お使いの機器でWi-Fiの設定画面を表示し、手順1で確認したWPA3用のSSIDを選択してください。

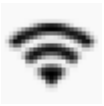
3 本製品の暗号化キーを入力します。

入力画面が表示されたら、手順1で確認したWPA3用の暗号化キーを入力してください。

メモ: 暗号化キーは、お使いの機器によっては、「パスワード」や「ネットワークセキュリティキー」と表示されます。

4 しばらくして、お使いの機器の画面にWi-Fiアイコンが表示されたら、接続は完了です。

Wi-Fiアイコンが表示されない場合は、手順1からやり直してください。

メモ: Wi-Fiアイコンは、お使いの機器によって異なります（例：  、 、 ）。

暗号化キーを使って接続する方法（手動設定）

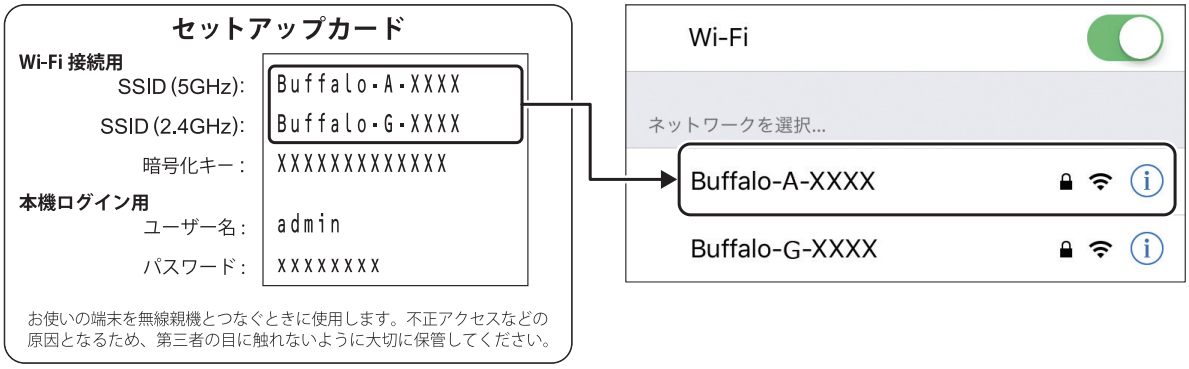
本製品に設定されている暗号化キー（機器によっては、「パスワード」や「ネットワークセキュリティキー」と表示されます）を使って接続する方法です。
設定は以下のながれで行います。

1 本製品に設定されているSSIDや暗号化キーを確認します。

本製品ご購入時のSSIDや暗号化キーは、セットアップカードで確認できます。

2 お使いの機器から本製品を検索します。

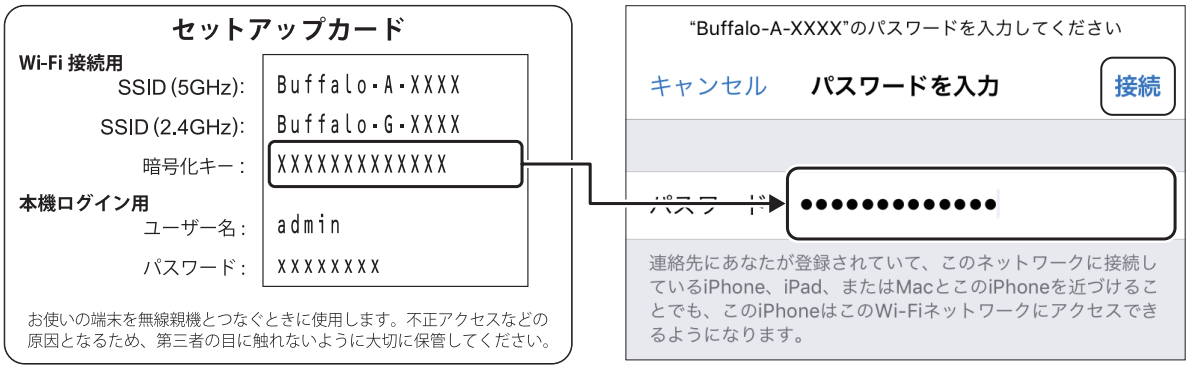
お使いの機器でWi-Fiの設定画面を表示し、手順1で確認した本製品のSSIDを選択してください。



メモ: 上の画面は一例です。お使いの機器によって異なります。

3 本製品の暗号化キーを入力します。

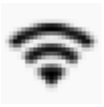
入力画面が表示されたら、手順1で確認した暗号化キーを入力してください。



メモ: 上の画面は一例です。お使いの機器によって異なります。

4 画面に従って設定を行います。

しばらくして、お使いの機器の画面にWi-Fiアイコンが表示されたら、接続は完了です。
Wi-Fiアイコンが表示されない場合は、手順1からやり直してください。

メモ: Wi-Fiアイコンは、お使いの機器によって異なります（例：  、 、 ）。

QRコードを使って接続する方法（QRsetup）

QRsetup（専用アプリ）を使って接続する方法です。
QRsetupが利用できる機器は以下のとおりです。

- QRsetupをインストールしたiPod touch/iPhone/iPad
- QRsetupをインストールしたAndroid機器

メモ: QRsetupは、App StoreまたはGoogle Playからダウンロードできます。

設定は以下のながれで行います。

1 お使いの機器でQRsetupを起動し、QRコードの読み取り画面を表示します。

カメラや位置情報へのアクセス許可を求める画面が表示された場合は、許可してください。

2 セットアップカードに記載されているQRコードを読み取ります。

3 以降は画面の指示に従って設定を進めます。

設定中にパスコードの入力画面が表示された場合は、お使いの機器に設定しているパスコードを入力してください。

AOSSで接続する方法

お使いの機器のAOSS機能（AirStation One-Touch Secure System）を使って接続する方法です。
AOSSが利用できる機器は以下のとおりです。

- 「AOSS」アプリをインストールしたAndroid機器（機器単体でAOSSに対応している場合も含む）
- 「クライアントマネージャV」をインストールしたWindowsパソコン
- その他、AOSSに対応した機器（プリンター、ゲーム機など）

メモ:

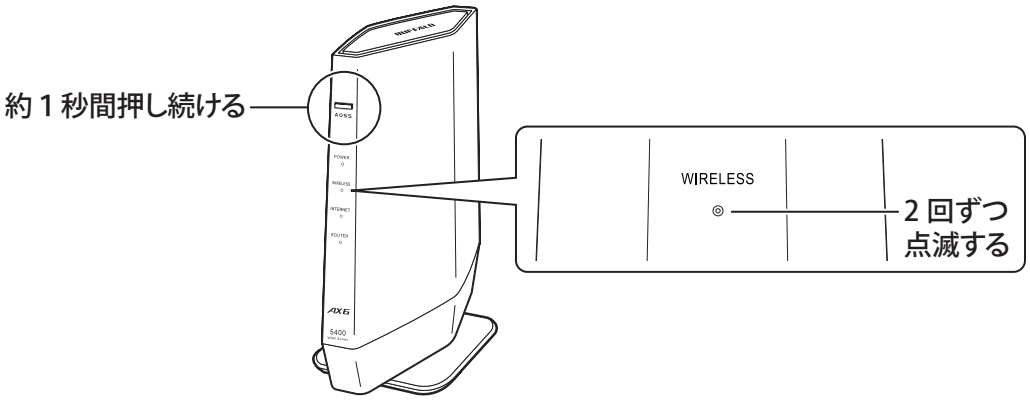
- Android用「AOSS」アプリは、Google Playからダウンロードできます。
- 「クライアントマネージャV」は、下記当社ホームページからダウンロードできます。
  「クライアントマネージャV」ダウンロードページ

設定は以下のながれで行います。

1 お使いの機器でAOSS接続を開始します。

AOSSボタンがある機器をお使いの場合は、AOSSボタンを押してください。
Android機器やWindowsパソコン、Macの場合は、アプリからAOSSを実行してください。

2 本製品のAOSSボタンを、WIRELESSランプが2回ずつ点滅するまで（約1秒間）押し続けます。



3 約2分後、本製品のWIRELESSランプが点灯したら、接続は完了です。

高速点滅している場合は、手順1からやり直してください。

WPSで接続する方法

お使いの機器のWPS機能（Wi-Fi Protected Setup）を使って接続する方法です。
WPSが利用できる機器は以下のとおりです。

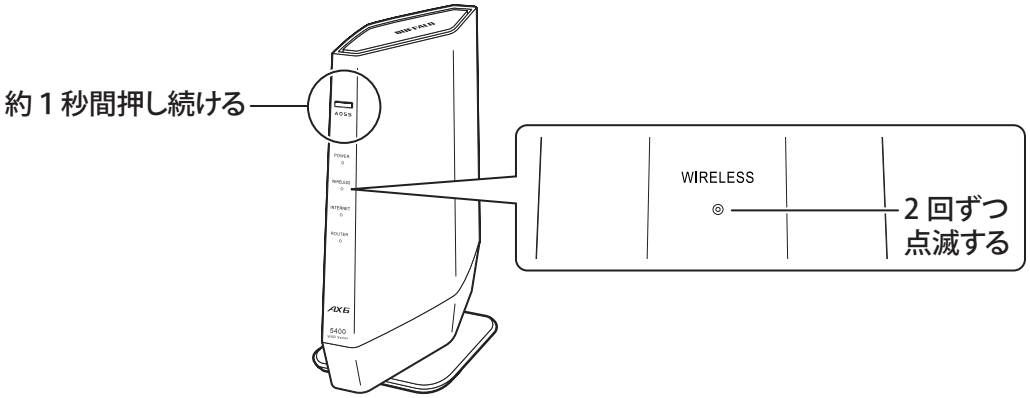
- WPSに対応したAndroid機器
- WPSに対応したWindowsパソコン
- WPSに対応した機器（プリンター、ゲーム機など）

設定は以下のながれで行います。

1 お使いの機器でWPS接続を開始します。

メモ: WPS接続の開始方法は、お使いの機器によって異なります。詳細はお使いの機器の取扱説明書を参照してください。

2 本製品のAOSSボタンを、WIRELESSランプが2回ずつ点滅するまで（約1秒間）押し続けます。



3 約2分後、本製品のWIRELESSランプが点灯したら、接続は完了です。

高速点滅している場合は、手順1からやり直してください。

第 2 章　本製品の各種設定

本章では、本製品の各種設定について説明します。

本製品の設定を変更するには

スマートフォン・タブレットをお使いの場合

「AirStationアプリ」を使って本製品の設定画面にアクセスし、本製品を設定します。

メモ:

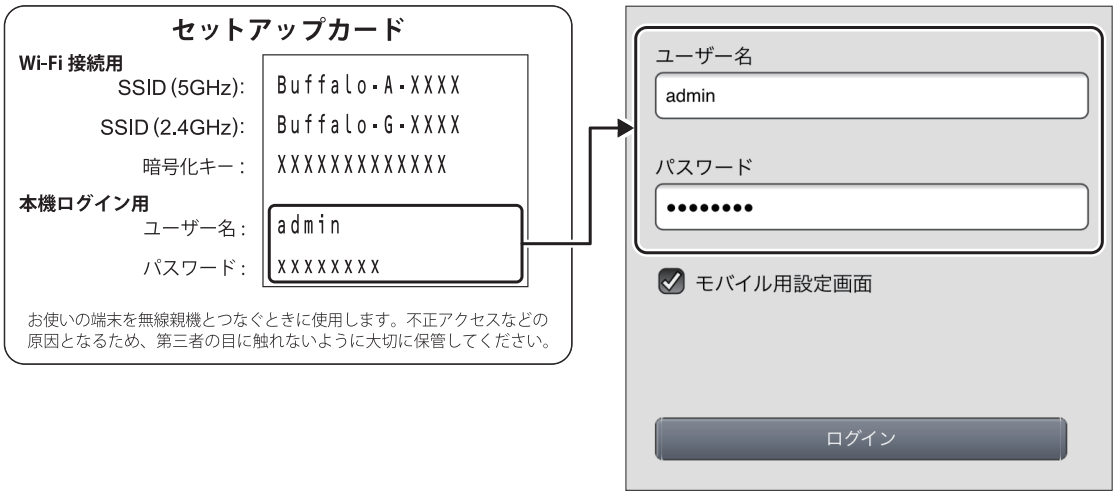
- AirStationアプリは、App StoreまたはGoogle Playでダウンロードできます。
- スマートフォンやタブレットを本製品に接続した状態で使用してください。

1 AirStationアプリ を起動します。

メモ: はじめて起動したときは、「このアプリでできること」が表示されます。このようなときは、[次へ]をタップして画面を進めてください。

2 AirStationアプリを起動すると、自動的に検索が始まります。本製品が見つかったら、本製品の製品名をタップし、[設定画面を開く]をタップします。

3 ブラウザーが起動するので、セットアップカードに記載されているユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン]をタップします。



メモ: パスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力してください。

4 本製品の設定画面が表示されたら、設定を行います。

メモ: 本製品の各種設定方法は、本章に記載しています。

Windowsをお使いの場合

「エアステーション設定ツール」を使って本製品の設定画面にアクセスし、本製品を設定します。

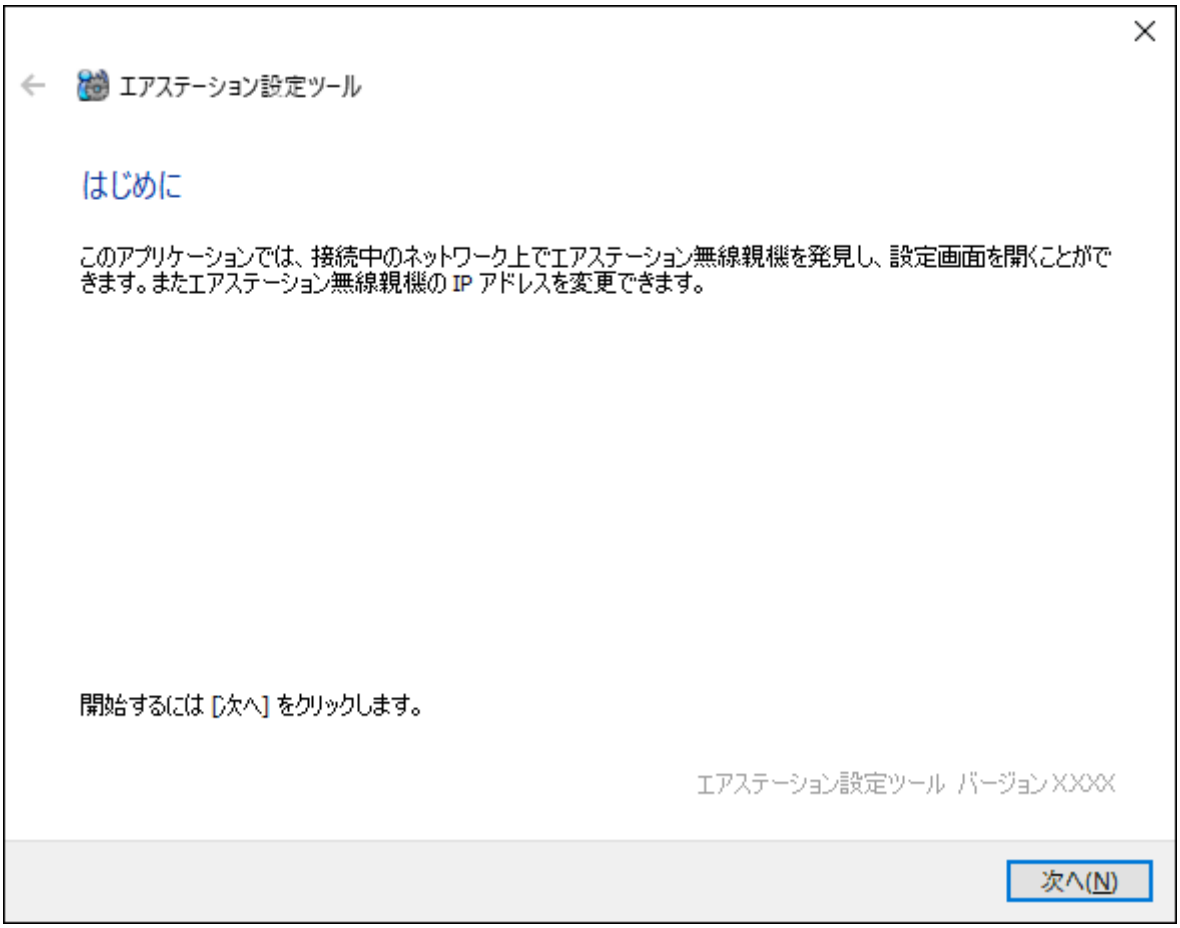
メモ:

- エアステーション設定ツールは、当社ホームページ(https://86886.jp/airset/)でダウンロードできます。
- パソコンを本製品に接続した状態で使用してください。

1 エアステーション設定ツールを起動します。

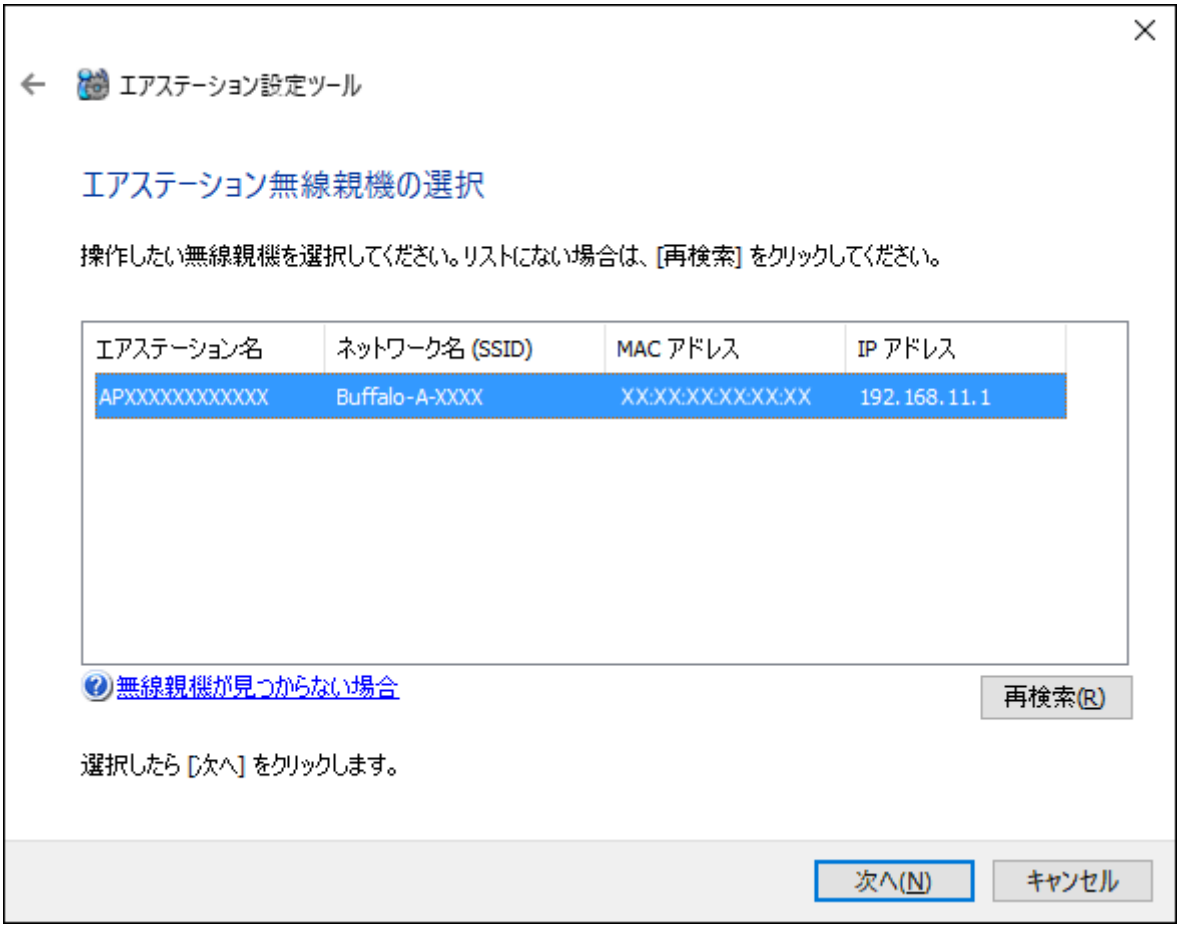
インストール時にデスクトップ上に作られた「エアステーション設定ツール」のショートカットをダブルクリックします。

2 [次へ]をクリックします。



メモ: パソコンに複数のネットワークアダプターが搭載されている場合、「2つ以上のネットワーク接続がつながっています」というメッセージが表示されます。その場合は、使用していないネットワークアダプターを取り外すか無効にしてから[再実行]をクリックしてください。

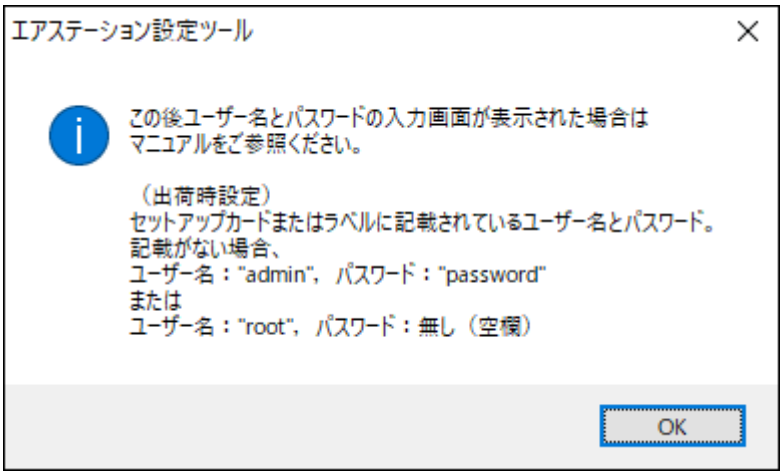
3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、[次へ]をクリックします。



メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

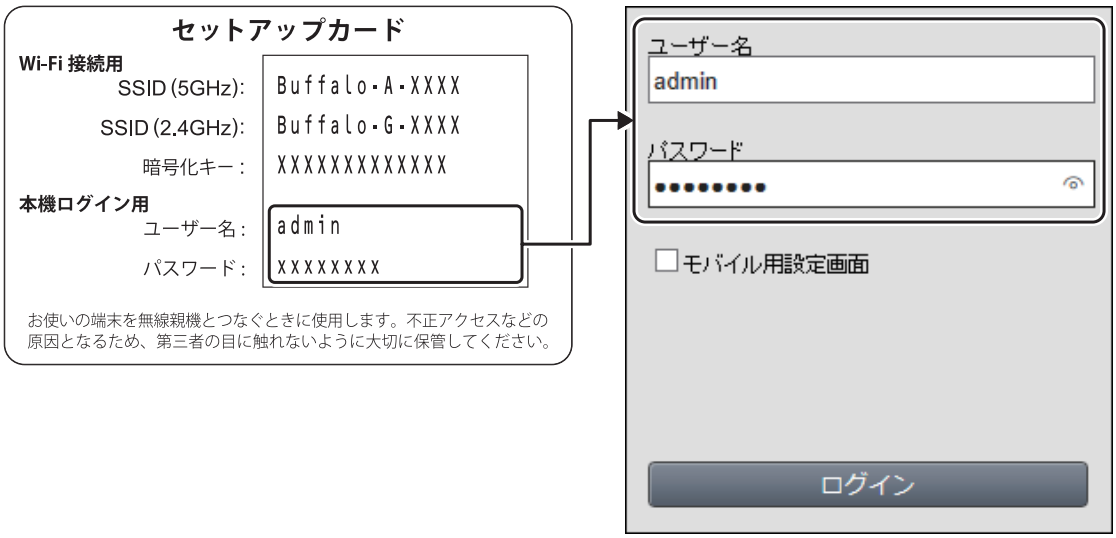
4 ［設定画面を開く］をクリックします。

5 ［OK］をクリックします。



本製品とパソコンのIPセグメントが異なる場合は、「IPアドレス設定」画面が表示されます。
その場合は、［このパソコンのIPアドレスを設定する］をクリックし、「DHCPサーバーからIPアドレスを自動的に取得する」をクリックしてください。しばらくすると、パソコンに新しいIPアドレスが設定され、手順6の画面が表示されます。「ユーザーアカウント制御」の画面が表示されたときは、「はい」をクリックしてください。

6 **セットアップカードに記載されているユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン]をクリックします。**



メモ: パスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力してください。

7 **本製品の設定画面が表示されたら、設定を行います。**

メモ:

- 本製品の各種設定方法は、本章に記載しています。
- 設定画面のウィンドウの下に、「無線親機の設定画面を開きました」という画面が表示されています。[完了]をクリックして、画面を閉じてください。

Macをお使いの場合

「エアステーション設定ツール」を使って本製品の設定画面にアクセスし、本製品を設定します。

メモ:

- エアステーション設定ツールは、当社ホームページ(https://86886.jp/airset/)でダウンロードできます。
- Macを本製品に接続した状態で使用してください。

1 エアステーション設定ツールを実行します。

2 [続ける]をクリックします。

3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、[続ける]をクリックします。

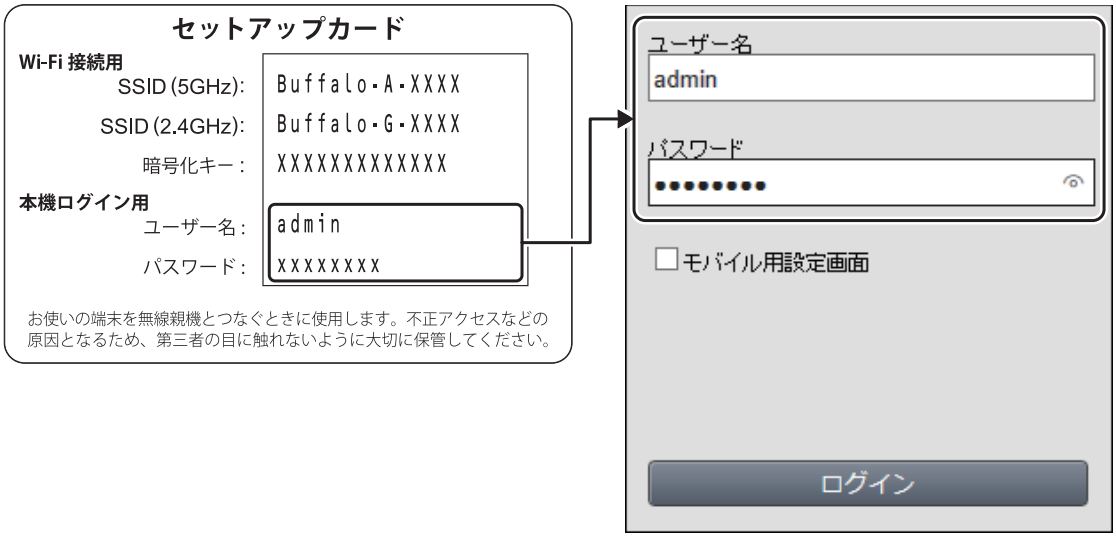
メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

4 [設定画面を開く]をクリックします。

5 [OK]をクリックします。

本製品とMacのIPセグメントが異なる場合は、「IPアドレス設定」画面が表示されます。その場合は、「このMacのIPアドレスを設定する」をクリックし、「DHCPサーバーからIPアドレスを自動的に取得する」をクリックしてください。Macのパスワードを要求された場合はパスワードを入力して[OK]をクリックします。しばらくするとMacに新しいIPアドレスが設定され、「設定完了」画面が表示されます。[親機選択画面に戻る]をクリックし、もう一度手順3から行ってください。

6 セットアップカードに記載されているユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン]をクリックします。



メモ: パスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力してください。

7 本製品の設定画面が表示されたら、設定を行います。

メモ:

- 本製品の各種設定方法は、本章に記載しています。
- 設定画面のウィンドウの下に、「無線親機の設定画面を開きました」という画面が表示されています。[完了]をクリックして、画面を閉じてください。

インターネットに接続する機器を脅威から守る（ネット脅威ブロッカー）

ネット脅威ブロッカーとは

本製品は、「ネット脅威ブロッカーベーシック」（以降は、「ネット脅威ブロッカー」と記載します）に対応しています。
ネット脅威ブロッカーは、セキュリティーソフトなどによるセキュリティー対策が難しいスマート家電に代わり、ルーターが中心となりネットワークを守るサービスです。本製品にバンドルされているライセンスを有効にすることで、悪質サイトブロック・情報漏洩ブロックなどの機能（本製品が通信内容を常に監視し、危険な通信と判断した場合は、自動的に通信をブロックする機能）を使用できます。
本製品にバンドルされているライセンスを有効にすることで、次の機能を使用できます。

メモ:

- ネット脅威ブロッカーを使用するには、別途、ライセンスを購入する必要があります。
- 初回のライセンス認証方法は、「スマートフォンやタブレットでライセンスを購入する」（P.47）および「パソコンでライセンスを購入する」（P.49）を参照してください。
- ライセンスの更新方法は、「ライセンスを更新する」（P.51）を参照してください。
- 本製品の設定画面を使って設定できる機能は一部だけです。すべての機能を使用する場合は、AirStationアプリ（スマートフォン用アプリ）が必要です。
- 完全なセキュリティーを保証するものではありません。

機能名	詳細	AirStationアプリで設定できる機能	設定画面で設定できる機能
悪質サイトブロック・情報漏洩ブロック	本製品が通信内容を常に監視し、危険な通信と判断した場合は、自動的に通信をブロックする機能です。	○	○
危険UPnPブロック	UPnPによるポート開放要求を常に監視し、危険なポートが開放されようとした場合は、自動的にブロックする機能です。	○	×
インターネット通信ブロック	指定したMACアドレスの機器をインターネットに接続できなくする機能です。	○	×

スマートフォンやタブレットでライセンスを購入する

あらかじめスマートフォンやタブレットにAirStationアプリをインストールしてから以下の手順を行ってください。

1 **AirStationアプリは、App StoreまたはGoogle Playでダウンロードできます。AirStationアプリをインストールしたスマートフォンやタブレット端末を本製品に接続します。**

2 **AirStationアプリ** **を起動します。**

3 **一覧に表示された「WSR-5400AX6」をタップします。**

4 **表示された画面に、セットアップカードに記載されているユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン]をタップします。**

5 **画面下部にある、[セキュリティー]をタップします。**

6 **[OK]をタップします。**

7 **表示された画面に、メルコIDとパスワードを入力して、[ログイン]をタップします。**

8 **ログイン後、画面に表示される手順に従ってライセンスを購入します。**

9 **ライセンス購入後、パソコンで本製品の設定画面を表示します。**

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.38)を参照してください。

10 **「詳細設定」のパネルをクリックします。**

11 **「ネット脅威ブロッカー」－「セキュリティー基本設定」をクリックします。**

12 「悪質サイトブロック･情報漏洩ブロック」の「使用する」にチェックマークを付け、[設定]をクリックします。

以上でライセンス認証は完了です。

パソコンでライセンスを購入する

1 本製品の設定画面を表示します。

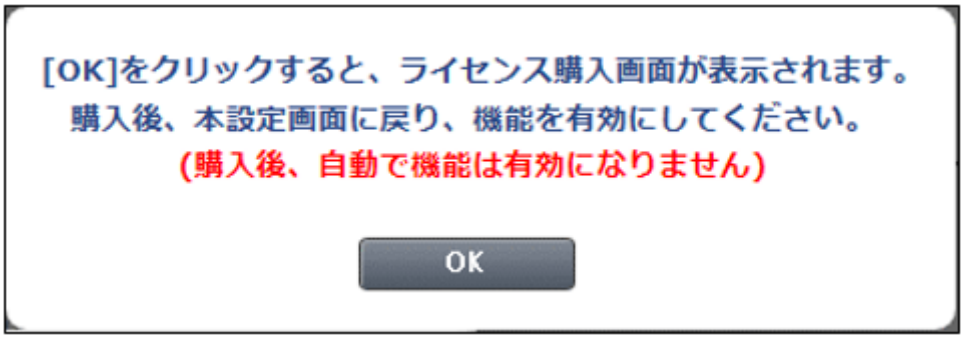
メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.38)を参照してください。

2「詳細設定」のパネルをクリックします。

3「ネット脅威ブロッカー」－「セキュリティー基本設定」をクリックします。

4［ライセンスの購入する］をクリックします。

5［OK］をクリックします。



6 表示された画面に、メルコIDとパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。

7 ログイン後、画面に表示される手順に従ってライセンスを購入します。

8 ライセンス購入後、本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.38)を参照してください。

9 「詳細設定」のパネルをクリックします。

10 「ネット脅威ブロッカー」－「セキュリティー基本設定」をクリックします。

11 「悪質サイトブロック・情報漏洩ブロック」の「使用する」にチェックマークを付け、[設定]をクリックします。

以上でライセンス認証は完了です。

詳細な設定を行う

コンテンツフィルターPlusやプッシュ通知の設定を行う場合は、当社ホームページに掲載の「AirStationアプリ ヘルプ」を参照してください。
https://86886.jp/airstation_app_m/

メモ: 設定方法は、AirStationアプリのバージョンアップなどにより予告なく変更になることがあります。必ず最新版の「AirStationアプリ ヘルプ」を参照してください。

ライセンスを更新する

ライセンスの有効期限は、ライセンスカードに記載されています。ライセンスを更新する場合は、以下の画面で行ってください。

AirStationアプリから更新する場合

ライセンスの有効期限が1か月未満になったり、有効期限を超えたりすると、AirStationアプリのセキュリティー画面にライセンス購入を促すメッセージが表示されます。メッセージの案内に従ってライセンスを購入してください。
詳細は、当社ホームページ(https://86886.jp/airstation_app_m/)に掲載の「AirStationアプリ ヘルプ」を参照してください。

本製品の設定画面から更新する場合

「セキュリティー基本設定」(P.143)の画面で、[ライセンスを追加購入する]をクリックし、画面の指示に従ってライセンスを購入してください。

インターネットに接続できる時間を制限する（キッズタイマー）

キッズタイマー機能を使用すると、本製品に接続できる時間を端末ごとに制限できます。

メモ:

- 本製品のファームウェアがバージョン1.02以前の場合、キッズタイマーの対象は、本製品に無線接続している端末のみです。有線（LANケーブル）で接続している端末は、対象外です。
- キッズタイマーとMACアクセス制限は同時に使用できません。MACアクセス制限を使用している場合は、以下の設定を行う前に無効にしてください。

端末の登録と基本的な設定を行う

端末の登録と基本的な設定は以下の手順で行います。

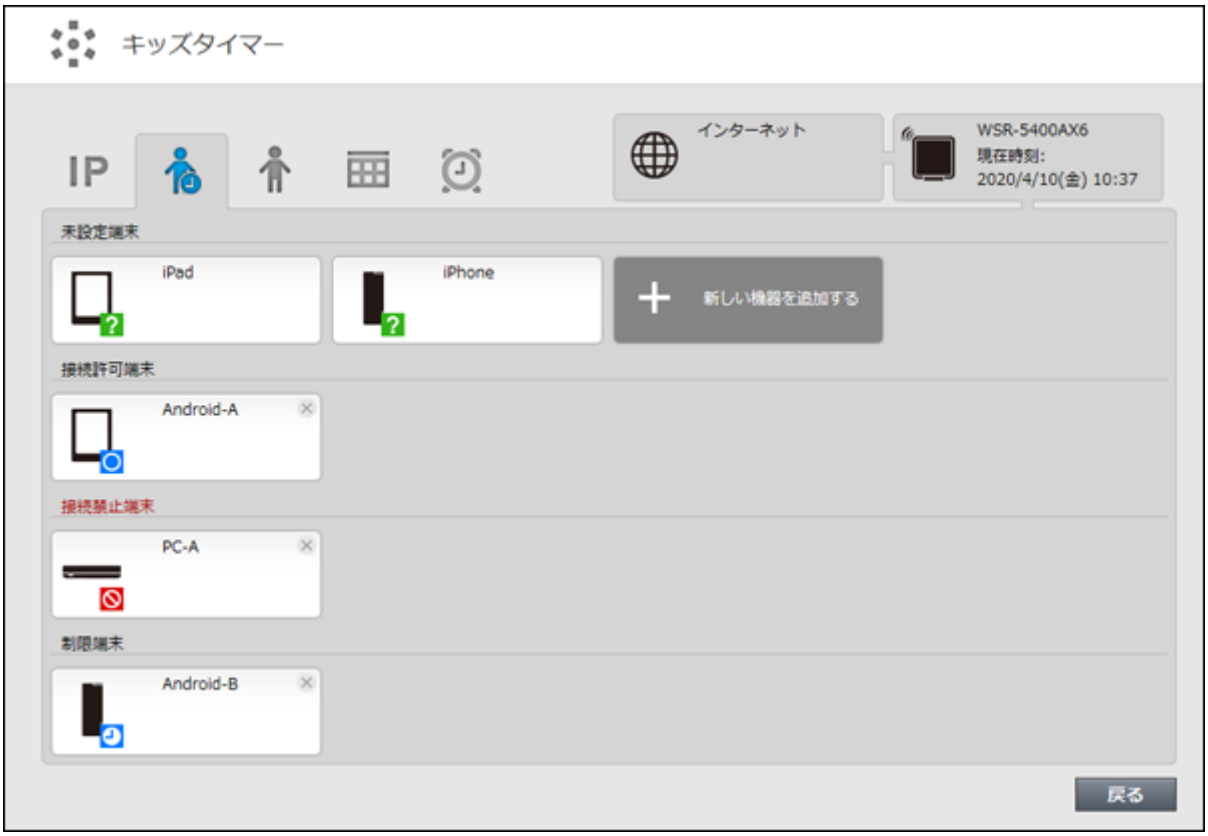
1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」（P.38）を参照してください。

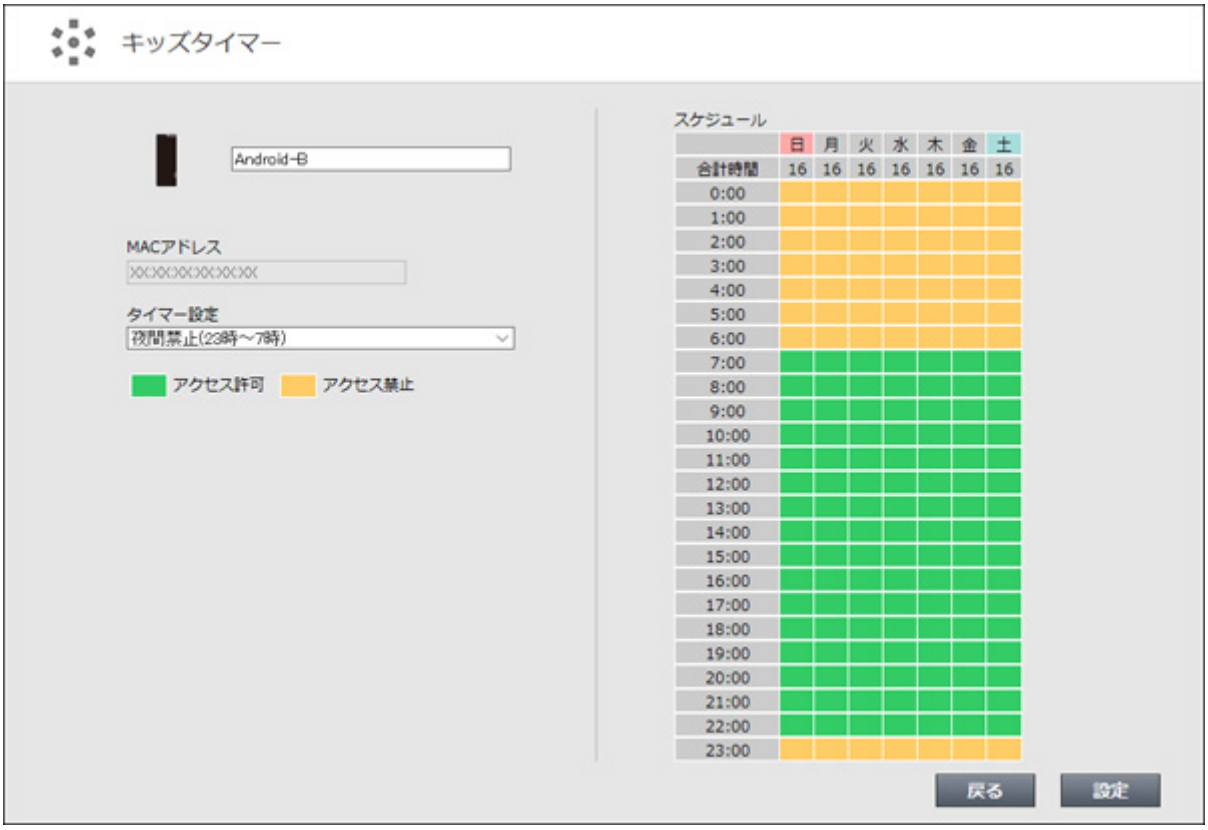
2 「キッズタイマー」のパネルをクリックします。

3 キッズタイマーの対象にする端末を登録します。

本製品に接続している端末を登録する場合は、「未設定端末」欄に表示されている端末をクリックします。
本製品に接続していない端末を登録する場合は、「新しい機器を追加する」をクリックします。



4 **端末名、タイマー設定、スケジュールなどを設定し、[設定]をクリックします。**



メモ:

- 端末名は半角英数字記号で64文字まで設定できます。
- MACアドレス欄には、キッズタイマーの対象にする端末のMACアドレスを入力します。手順3で「未設定端末」に表示されている端末を選択した場合は、その端末のMACアドレスが表示されます。
- タイマー設定の仕様は以下のとおりです。

項目	説明
制限しない	選択すると、スケジュールをすべてアクセス許可に設定します。
接続禁止	選択すると、スケジュールをすべてアクセス禁止に設定します。
夜間禁止（23時～7時）	選択すると、23:00～7:00をアクセス禁止、そのほかをアクセス許可に設定します。
手動設定	スケジュールを自由に設定したい場合に選択します。
＜端末名＞と同じ設定	選択すると、＜端末名＞に選んだ端末のスケジュールを反映します。

- 「＜端末名＞と同じ設定」に表示される端末名は、「手動設定」で設定した端末が対象です。
- スケジュールは、マウスのクリック/ドラッグ操作やスマートフォンのタップ操作で設定できます。

以上で設定は完了です。

端末の接続制限を一時的に解除する

キッズタイマーで「制限端末」に設定された端末の接続制限を一時的に解除したい場合は、以下の手順で設定します。

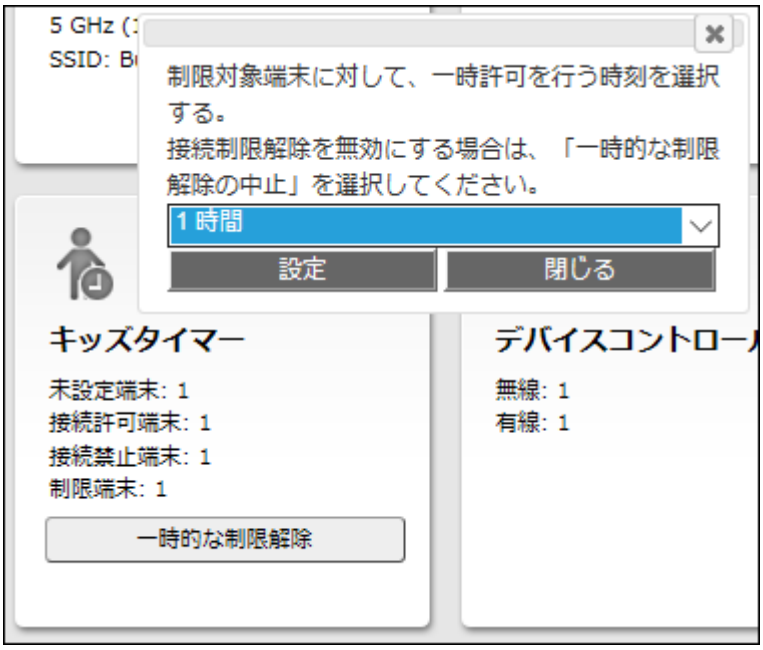
メモ: 以下の設定を行っても、「接続禁止端末」に設定されている端末の接続制限は継続されます。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.38)を参照してください。

2 「キッズタイマー」のパネルの[一時的な制限解除]をクリックします。

3 接続制限を解除する時間を選択して、[設定]をクリックします。



以上で設定は完了です。

インターネット有害サイトへのアクセスを制限する（「i-フィルター」）

「i-フィルター」機能を使用して、インターネット有害サイトへのアクセスを制限する方法を説明します。

メモ:

- 「i-フィルター」機能を使用するには、ユーザー登録が必要です。初回登録時、トライアル期間として60日間無料で使用できます。
- トライアル期間終了後、継続して使用する場合は、「i-フィルター」サービスページで継続契約（有料）してください。

- 「i-フィルター」は、IPv4通信にのみ対応しています。IPv6通信では使用できません。
- 「i-フィルター」機能は、本製品がルーターとして動作している場合にのみご利用いただけます。
- 「i-フィルター」はデジタルアーツ株式会社の登録商標です。

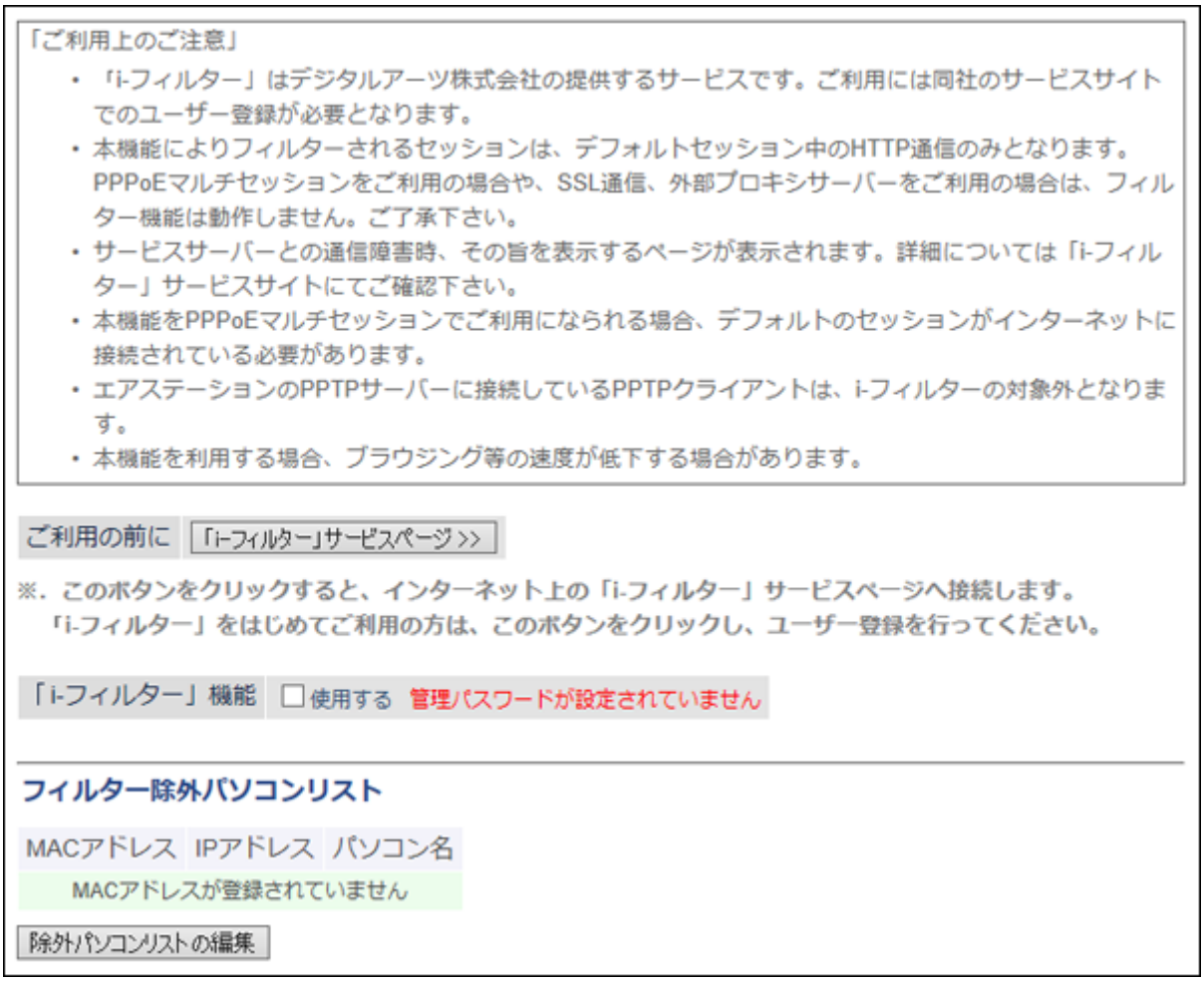
1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」（P.38）を参照してください。

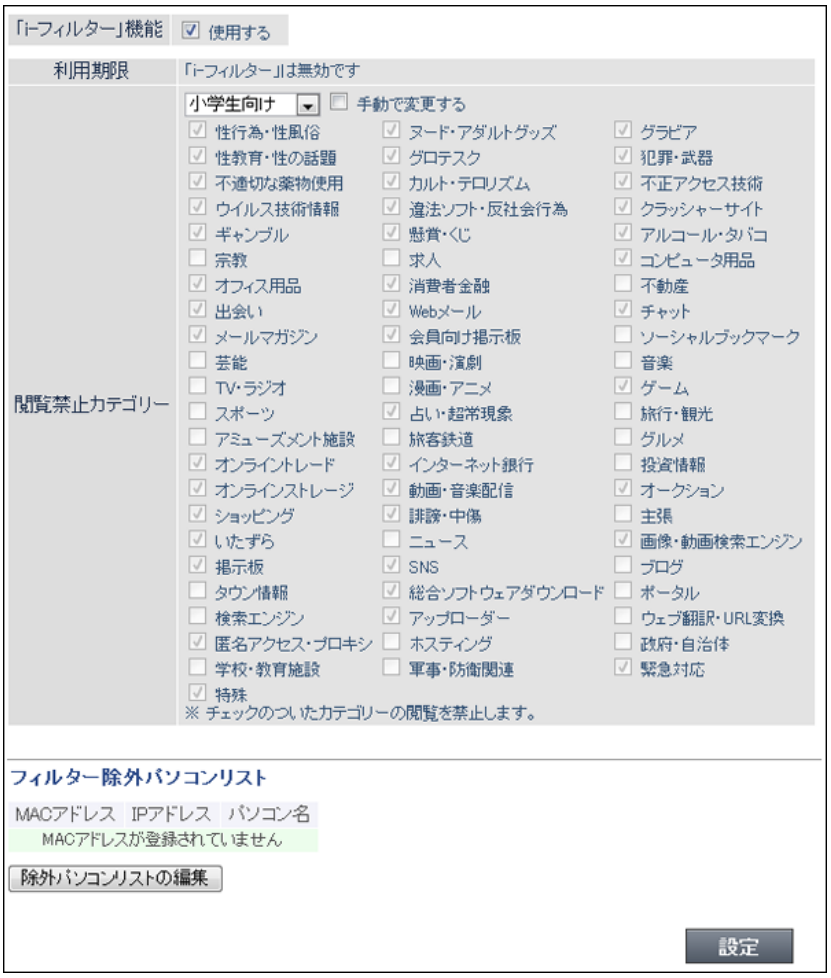
2 「詳細設定」のパネルをクリックします。

3 「セキュリティー」－「i-フィルター」をクリックします。

4 [「i-フィルター」サービスページ>>]をクリックすると、ユーザー登録画面が表示されます。画面に従ってユーザー登録を行ってください。



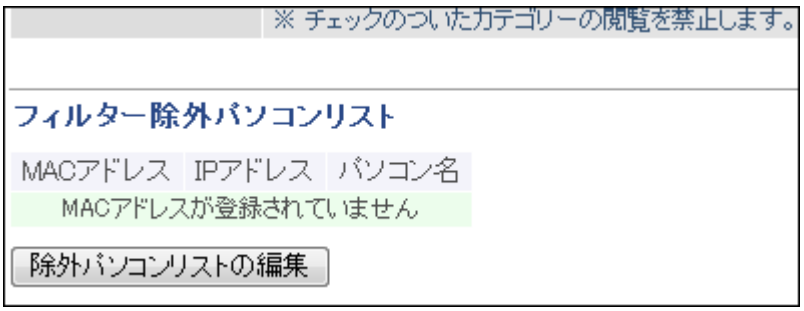
5 「「i-フィルター」機能」の「使用する」にチェックを入れ、「閲覧禁止カテゴリー」を設定し、[設定]をクリックします。



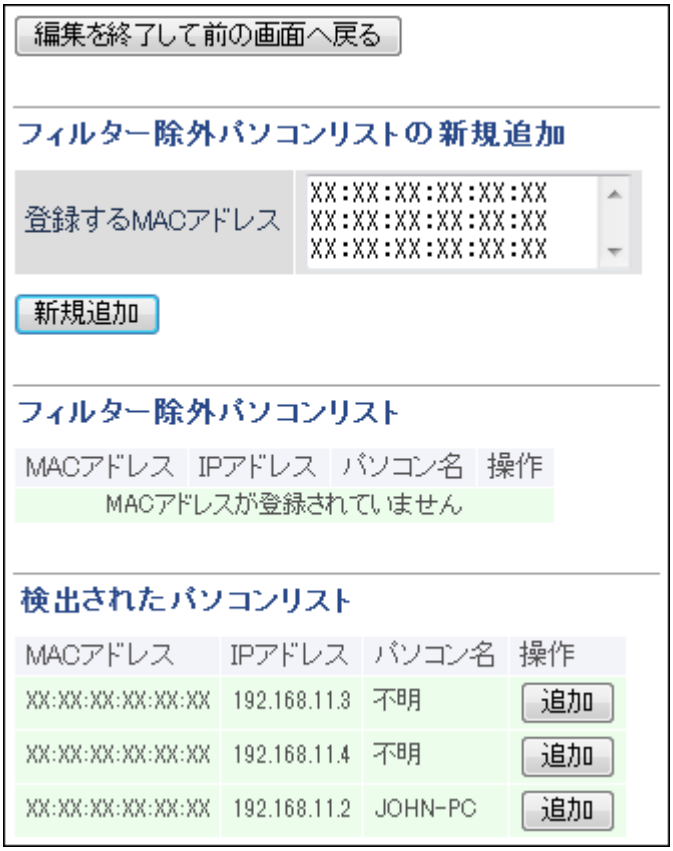
メモ:

- 「「i-フィルター」機能」の「使用する」のチェックを外すには、管理者パスワードを設定する必要があります。「詳細設定」－「管理」－「システム設定」から設定してください。
- 「有効期間」は、「「i-フィルター」機能が有効」かつ「ユーザー登録後、契約期間が取得済み」の場合に表示されます。

6 「i-フィルター」機能を適用しないパソコンがある場合は、[除外パソコンリストの編集]をクリックします。



7 「登録するMACアドレス」を入力して、[新規追加]をクリックします。



メモ:

- MACアドレスは2桁ずつ、コロン(:)で区切って入力します。
- 複数のMACアドレスを入力する場合は、スペースで区切って入力します。
- 「検出されたパソコンリスト」に「i-フィルター」を適用しないパソコンがある場合は、[追加]をクリックして追加できます。

8 [編集を終了して前の画面へ戻る]をクリックします。

以上で設定は完了です。

管理パスワードを変更する

管理パスワード(設定画面のパスワード)は、出荷時設定では製品ごとに固有のパスワード(セットアップカードに記載されている「本機ログイン用パスワード」)が設定されています。
管理パスワードを変更したい場合は、以下の手順で設定してください。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.38)を参照してください。

2 「詳細設定」－「管理」－「システム設定」をクリックします。

3 「管理パスワード」に新しいパスワードを入力し、[設定]をクリックします。

管理パスワードは、半角英数字と「_」で、1～8文字で設定します。
変更した管理パスワードを忘れると設定画面を表示できなくなりますので、必ず控えをとってください。

メモ:

- 生年月日や名前など、第三者から類推されやすい単語は管理パスワードに設定しないでください。
- 管理パスワードを忘れた場合は、本製品のRESETボタンを約3秒間押して、本製品の設定を初期化してください。その場合、パスワード以外の設定(インターネット設定や無線接続設定など)も初期化されます。

以上で設定は完了です。

本製品のファームウェアバージョンを確認する

本製品のファームウェアのバージョンは、以下の手順で確認できます。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.38)を参照してください。

2 「詳細設定」をクリックします。

3 ファームウェアのバージョンを確認します。

製品名	XXX-XXXXXXX Ver. XXX(RXXX/BXXX)
エアステーション名	APXXXXXXXXXXXX

メモ: 製品名欄の「Ver.X.XX」の部分がファームウェアのバージョンです。

本製品のファームウェアを更新する

自動的に更新する場合

新しいファームウェアが公開された際に自動的に更新する場合は、以下の手順で設定を行ってください。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.38)を参照してください。

2 「詳細設定」－「管理」－「ファームウェア更新」をクリックします。

3 ファームウェア自動更新機能で「常に最新版に更新する」と更新時刻を設定し、[設定]をクリックします。

メモ:

- 本製品の時刻設定が正しくない場合(画面に が表示されている場合)は、「管理」－「システム設定」の画面でNTP機能を「使用する」に設定してください。
- ファームウェア更新中は、再起動などにより、本製品に接続している機器が一時的に切断されます。そのため、更新時刻は、本製品を使用していない時間帯に設定することをおすすめします。

- 故障の原因となるため、ファームウェアの更新中（前面のPOWERランプが橙色と緑色に交互に点滅中）は、本製品の電源をOFFにしないでください。

以上で設定は完了です。
設定後に新しいファームウェアがリリースされた場合、上記で設定した時間帯に更新が行われます。

手動で更新する場合

本製品をお使いの方が、お好みのタイミングでファームウェアを更新したい場合は、以下の手順で設定を行ってください。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」（P.38）を参照してください。

2 「詳細設定」－「管理」－「ファームウェア更新」をクリックします。

3 ファームウェアを更新します。

ファームウェアファイルがある場合は、[参照]をクリックしてファームウェアファイルを選択し、[更新実行]をクリックします。
ファームウェアファイルがない場合は、「オンラインバージョンアップ」を選択し、[更新実行]をクリックして画面の指示に従ってください。

メモ: 故障の原因となるため、ファームウェアの更新中（前面のPOWERランプが橙色と緑色に交互に点滅中）は、本製品の電源をOFFにしないでください。

以上で設定は完了です。

WPA2を無効にして、WPA3（Wi-Fiの新しい暗号化設定）だけを使用する

本製品ご購入時は、WPA2を使用するSSIDとWPA3を使用するSSIDの2つが有効になっています。
ここでは例として、WPA2用のSSID（SSID1）を無効にして、WPA3専用で動作させる方法を説明します。

メモ:

- 2024年6月現在、「QRコードを使って接続する方法（QRsetup）」（P.35）や「AOSSで接続する方法」（P.36）、「WPSで接続する方法」（P.37）は、WPA3に対応していません。
- お使いの端末やOSによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、下記の設定は行わずWPA2で接続してください。

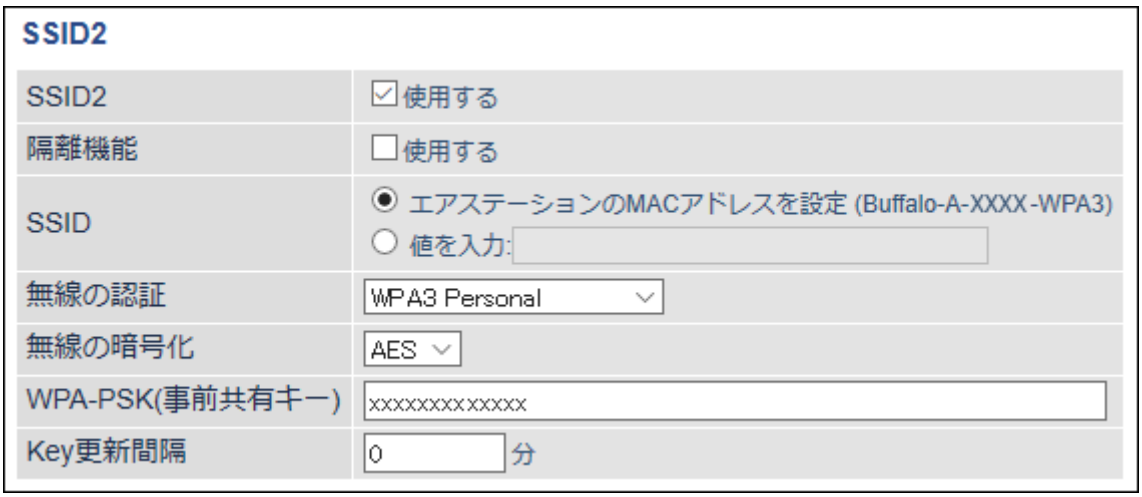
1 **「本製品の設定を変更するには」（P.38）****を参照して、本製品の設定画面を表示します。**

2 **「詳細設定」－「無線設定」－「2.4GHz（11ax/n/g/b）」または「詳細設定」－「無線設定」－「5GHz（11ax/ac/n/a）」をクリックします。**

メモ: 本設定は無線の周波数帯ごとに設定できます。

3 **SSID1の「使用する」のチェックを外します。**

4 **SSID2の「使用する」にチェックマークが付いており、無線の認証が「WPA3 Personal」になっていることを確認して［設定］をクリックします。**



以上で設定は完了です。

節電する

節電機能は、あらかじめ登録したスケジュールに従って、本製品を省電力状態にすることで、消費電力を抑える機能です。設定は以下の手順で行います。

メモ:

- 節電機能は、ランプ（通常動作/オフ）、LAN側有線（通常動作/低速動作/オフ）、LAN側無線（通常動作/オフ）の動作を切り替えることにより電力消費を抑えます。ただし、ランプを「オフ」に設定しても、POWERランプは消灯しません（点灯したままとなります）。
- 本製品の状態が切り替わる際、通信が一時的に切断されます。また、ユーザー定義でLAN側有線やLAN側無線のどちらかを有効（または低速動作）に設定していても、通信が一時的に切断されますので、通信中の場合はご注意ください。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」（P.38）を参照してください。

2 「詳細設定」－「管理」－「システム設定」をクリックします。

3 NTP機能に「使用する」、NTPサーバーに「ntp.jst.mfeed.ad.jp」と表示されていることを確認します。

メモ:

- NTP（Network Time Protocol）とは、正しい時刻に時計を修正・同期する仕組みです。任意のNTPサーバーを設定することもできますが、特に問題ない限りは初期設定（ntp.jst.mfeed.ad.jp）をご使用ください。
- 節電機能の設定を行うには、NTP設定を有効にする必要があります（出荷時設定では有効になっています）。
- アクセスポイントモード（ルーター機能オフ）時は、本製品の設定画面の「詳細設定」－「LAN」－「LAN」でデフォルトゲートウェイとDNS（ネーム）サーバーアドレスの設定※が必要です。
  ※ご使用中のルーター（ルーター内蔵モデムを含む）やCTUのIPアドレスと同じ値を設定してください。

4 「詳細設定」－「アプリケーション」－「スケジュール」をクリックします。

5 省電力で「使用する」にチェックを入れ、ユーザー定義モードを設定して［設定］をクリックします。

ここでは例として、以下のように設定します。
設定例：
ランプ-オフ　※「オフ」に設定しても、POWERランプは消灯しません（点灯したままとなります）。
LAN側有線-エコ（低速動作）
LAN側無線-オフ

6 スケジュールを登録して［新規追加］をクリックします。

ここでは例として、以下のように設定します。
設定例：
動作モード-ユーザー定義
開始時間-0:00
終了時間-6:00
曜日-月、火、水、木、金
※本製品に登録できるスケジュールは1つだけです。登録済みのスケジュールを変更したい場合は、新しいスケジュールで上書きしてください。

以上で設定は完了です。

来訪者向け無線設定を行う（ゲストポート設定）

本製品では、通常のネットワークから隔離された別の無線ネットワーク（ゲストポート）を設定できます。このゲストポートを活用することで、自宅のネットワークのセキュリティーを保ちつつ、来訪者に対してインターネット環境を提供できます。

メモ:

- ゲストポートは、インターネットにのみ接続できるネットワークです。ゲストポート側からほかのネットワークにアクセスすることはできません。
- ゲストポートに接続した機器は、IPv6通信できません。
- EasyMeshでメッシュネットワークを構築している場合、コントローラのゲストポート設定は、エージェントに引き継がれません（エージェントをゲストポートとして使用できません）。コントローラとWi-Fi接続できる範囲で、コントローラのゲストポートに接続してお使いください。

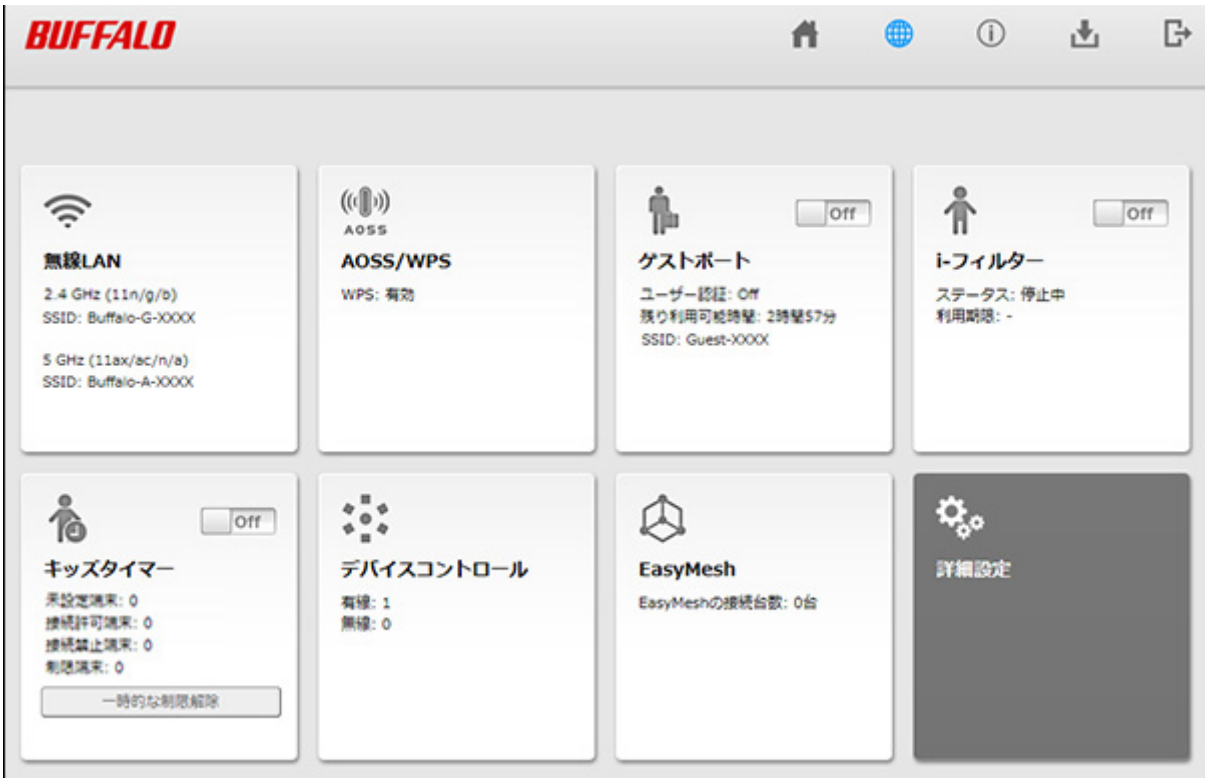
来訪者がかんたんに接続できるように設定する場合

ここでは例として、かんたんにゲストポートを有効にする手順を説明します。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」（P.38）を参照してください。

2 「ゲストポート」をOnに切り替えます。



ゲストポートをOnに切り替えることで、以下の設定が行われます。
ユーザー認証-Off
利用可能時間-3時間
SSID-Guest-XXXX（MACアドレスの下4桁）
暗号化設定-なし

メモ:

- 暗号化設定を行ったり、利用可能時間を変更したい場合は、上記の画面で「ゲストポート」のパネルをクリックしてください。

- 高度な設定を行いたい場合は、以下の「高度な設定を行う場合」(P.66)を参照してください。

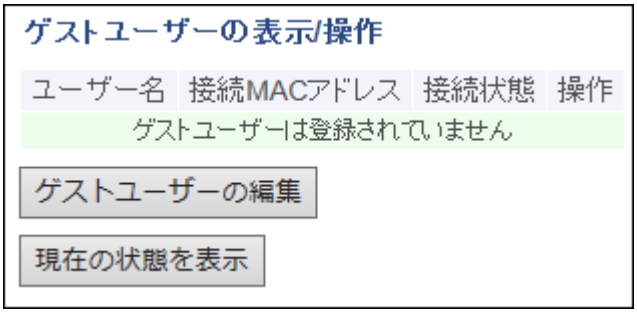
高度な設定を行う場合

1 本製品の設定画面を表示します。

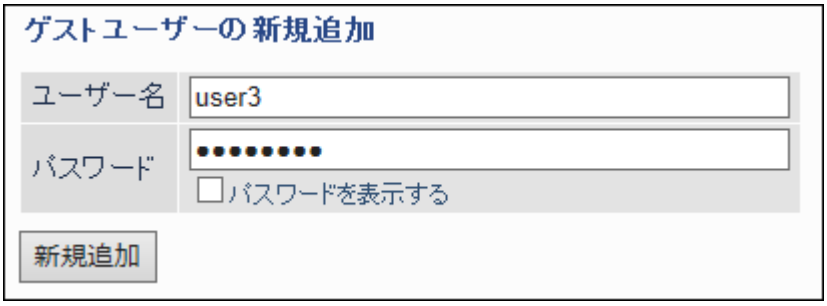
メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.38)を参照してください。

2 「詳細設定」－「無線設定」－「ゲストポート」をクリックします。

3 [ゲストユーザーの編集]をクリックします。



4 ゲストユーザーを設定し、[新規追加]をクリックします。



メモ: ゲストユーザーは5人まで登録できます。

5 [編集を終了して前の画面へ戻る]をクリックします。

6 ゲストポート機能とゲストユーザー認証機能を「使用する」に設定し[設定]をクリックします。

メモ: 来訪者がネットワークに接続すると、ユーザー名とパスワードが求められますので、手順4で設定したユーザー名とパスワードを入力してください。

以上で設定は完了です。

無線チャンネルを変更する

本製品は、電波混雑防止機能によりほかの機器が使用していないチャンネルを検索して自動的に割り当てるため、通常はチャンネルを設定する必要はありません。ただし、周囲に多くの無線機器がある場合、チャンネルが正しく設定されず、電波干渉が発生して転送速度が低下してしまうことがあります。
その場合は、以下の手順でチャンネルを設定してください。

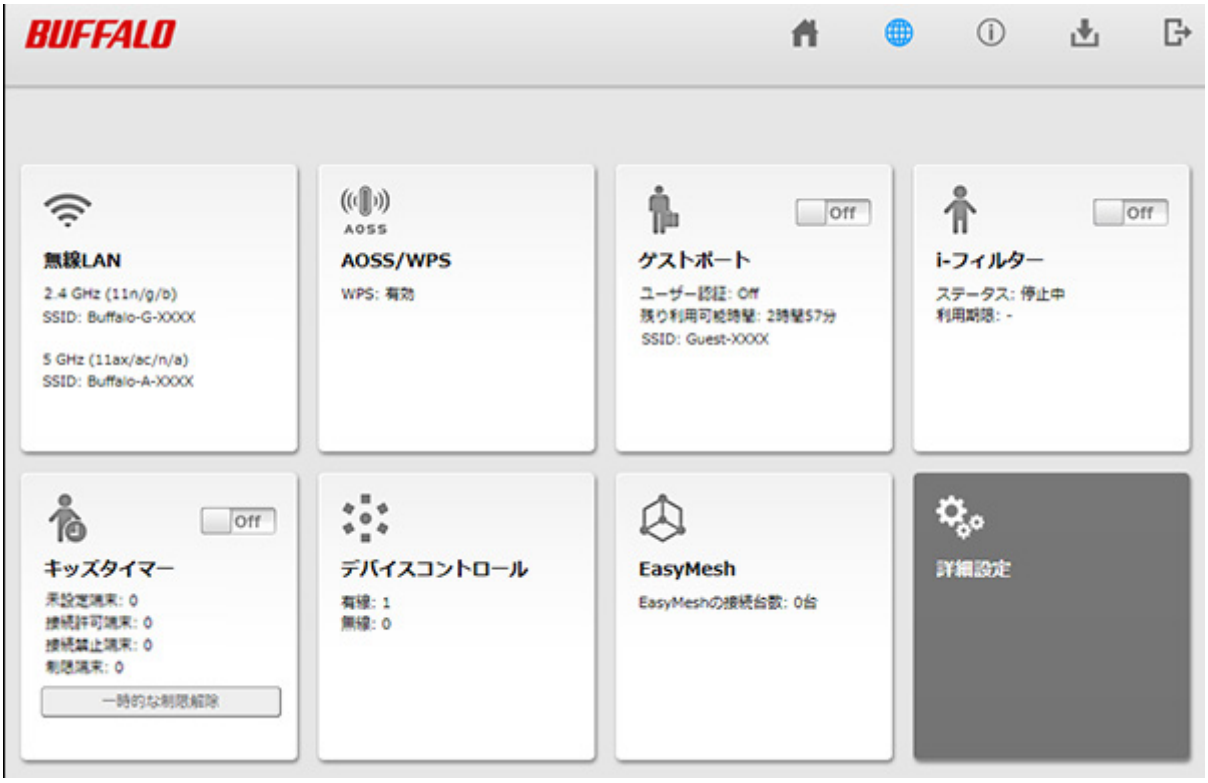
メモ:

- 設定するチャンネルによっては、ほかの無線機器と電波干渉を起こすことがあります。
- 隣接する無線機器に異なるチャンネルを設定するとき、隣りあったチャンネルなどの近い周波数では、互いに干渉し転送速度が低下してしまうことがあります。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.38)を参照してください。

2 「無線LAN」をクリックします。



3 **無線チャンネルを選択して[設定]をクリックします。**

メモ:

- 本設定は無線の周波数帯(2.4GHzまたは5GHz)ごとに設定できます。
- 5GHzのチャンネルで52チャンネル以上を設定した場合、本製品が気象レーダーなどを感知すると、自動的にほかの無線チャンネルへ変更されます。その際、1分程度無線通信ができなくなります。
- W52(36/40/44/48チャンネル)およびW53(52/56/60/64チャンネル)は、電波法により屋外で使用することが禁止されています。
- 2.4GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。
- 無線機器から設定を行っている場合、本製品との接続が一時的に切断されますが、しばらくすると自動的に本製品に再接続され通信できるようになります。

以上で設定は完了です。

端末との電波強度と対応バンドをチェックして、最適なバンドに自動的に接続できるようにする（バンドステアリングLite）

バンドステアリングLite機能を使用すると、端末との電波強度と対応バンド（帯域）をチェックして、最適なバンドに自動的に接続できるように端末を誘導します。

メモ:

- 本機能を使用すると、本製品に無線接続している機器がすべて切断されます。本機能設定後は、以下を参考にしてもう一度無線接続を行ってください。
  - 「AOSSで接続する方法」（P.36）
  - 「WPSで接続する方法」（P.37）
  - 「暗号化キーを使って接続する方法（手動設定）」（P.34）

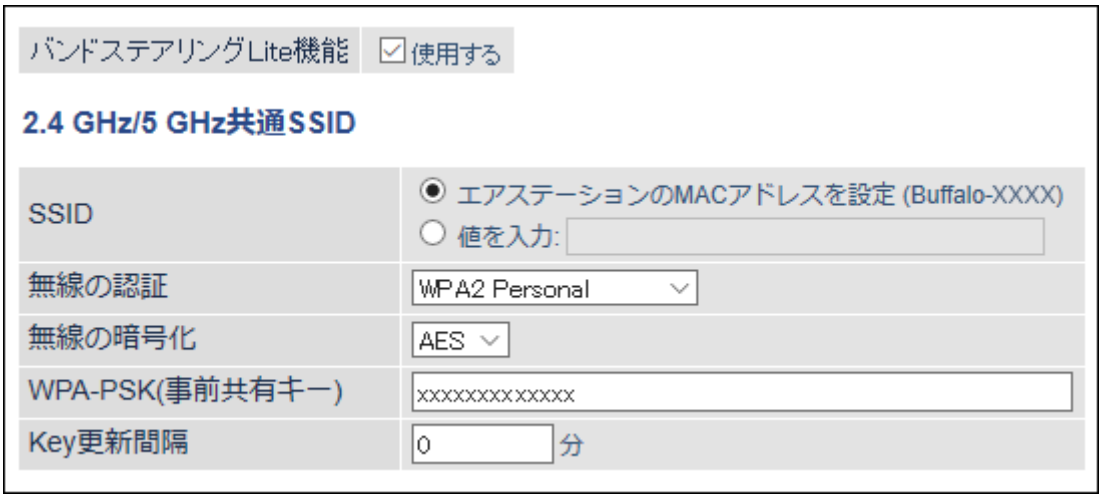
  SSIDや暗号化キーは、手順4で設定したものを使用してください。
- 2.4GHz帯、5GHz帯のどちらかにしか対応していない端末で本機能を使用すると、端末の対応バンドでのみ通信を行います（端末が対応していないバンドには切り替わりません）。
- ANY接続やプライバシーセパレーターと本機能を併用する場合は、「詳細設定」－「無線」－「2.4GHz（11ax/n/g/b）」および「詳細設定」－「無線」－「5GHz（11ax/ac/n/a）」の画面でそれらの設定を行ってください。
- 本機能を有効にすると、端末が通信中であってもバンドが切り替わります。
- バンドが切り替わる際、端末は本製品から一時的に切断されます。しばらくすると自動的に再接続されて通信できるようになります。

1 **「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。**

2 **「詳細設定」－「無線設定」－「バンドステアリングLite」をクリックします。**

3 **バンドステアリングLite機能で「使用する」にチェックを入れます。**

4 **バンドステアリングLite機能で使用する2.4GHzと5GHzの共通SSID、無線の認証、事前共有キーなどを設定し、［設定］をクリックします。**



以上で設定は完了です。

AOSS接続を解除する

ANY接続拒否設定やMACアクセス制限の設定を行うには、いったんAOSS接続を以下の手順で解除する必要があります。
AOSS接続を解除すると、本製品のSSIDや暗号化キーは、AOSS接続を行う前の値に戻るとともに、本製品に接続していたすべての無線機器が本製品から切断されます。各機器の取扱説明書を参照して、もう一度無線機器を本製品に接続してください。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.38)を参照してください。

2 「詳細設定」－「無線設定」－「AOSS」をクリックします。

3 AOSS接続解除ボタン をクリックします。

以上で設定は完了です。

ほかの機器から本製品を検索できなくする（ANY接続拒否設定）

本製品に無線接続するには、SSIDと暗号化キーが必要です。ANY接続拒否設定を行うと、本製品のSSIDが隠蔽されて、ほかの機器から本製品を検索することができなくなるため、外部からの不正アクセスを受けにくくすることができます。
設定は、以下の手順で行います。

メモ:

- AOSSとANY接続拒否設定は同時に使用できません。以下の設定を行う前に、「AOSS接続を解除する」（P.70）を参照してあらかじめ設定を変更してください（以下の設定を行った後にAOSSを使って無線接続すると、ANY接続が「許可する」に設定変更されます）。
- 以下の設定を行って本製品のSSIDを隠蔽しても、暗号化設定がされていないと外部からの不正アクセスを受けることがあります。暗号化設定を解除しないでください。
- ANY接続を無効にした周波数帯では、WPS接続を実行することはできません。
- EasyMeshでメッシュネットワークを構築している場合、ANY接続拒否設定は使用できません（コントローラ側で設定は可能ですが、エージェントには引き継ぎされません）。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」（P.38）を参照してください。

2 「詳細設定」－「無線設定」－「2.4GHz（11ax/n/g/b）」または「詳細設定」－「無線設定」－「5GHz（11ax/ac/n/a）」をクリックします。

メモ: 本設定は無線の周波数帯（2.4GHzまたは5GHz）ごとに設定できます。

3 ANY接続の「許可する」をクリックし、チェックを外して［設定］をクリックします。

以上で設定は完了です。

アクセスできる機器を制限する（MACアクセス制限）

本製品に接続する機器のMACアドレスをあらかじめ登録しておき、その機器のみ本製品へのアクセスを許可できます。設定は以下の手順で行います。

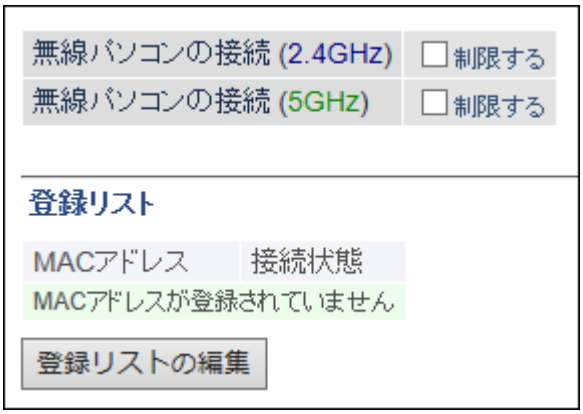
メモ: AOSSとMACアクセス制限は同時に使用できません。MACアクセス制限を設定する場合は、「AOSS接続を解除する」（P.70）を参照して本製品の設定を変更してください。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」（P.38）を参照してください。

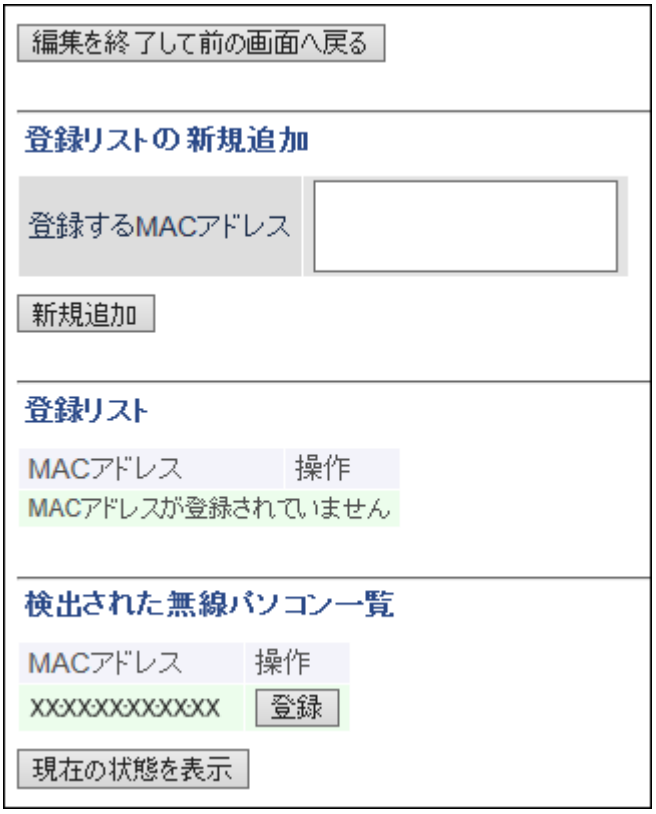
2 「詳細設定」－「無線設定」－「MACアクセス制限」をクリックします。

3 ［登録リストの編集］をクリックします。



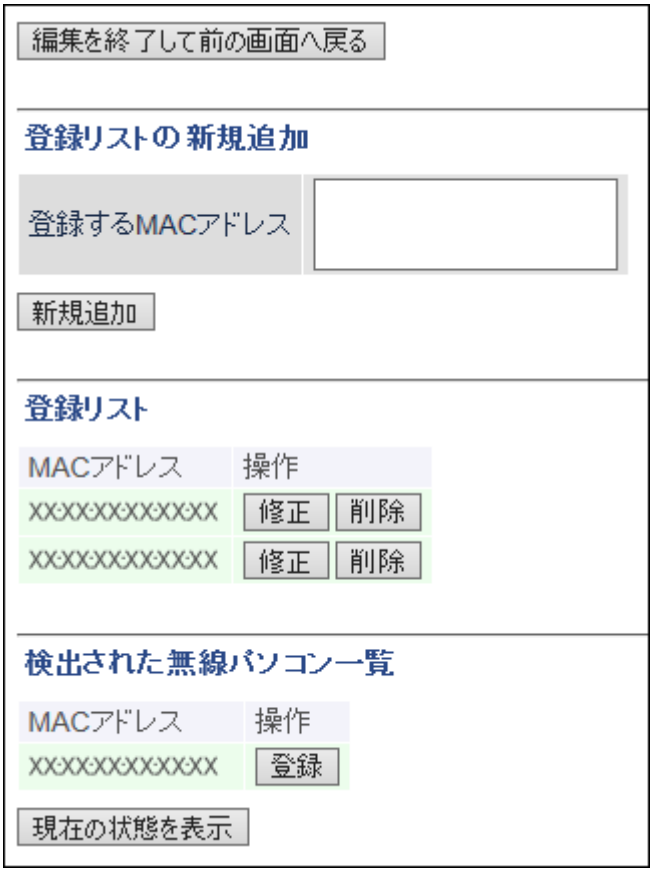
4 無線で接続できる機器を指定します。「検出された無線パソコン一覧」には、現在接続されている機器のMACアドレスが表示されています。

ここで、接続可能にする機器のMACアドレスのみを［登録］をクリックして登録します。



「検出された無線パソコン一覧」に表示されていない機器を登録する場合は、「登録するMACアドレス」欄に接続する機器のMACアドレスを入力し、［新規追加］をクリックします。MACアドレスを入力するときは、2桁ずつコロン(:)で区切って入力します。登録できるMACアドレスは64個までです。
例）12:34:56:78:90:AB

5 **登録が終わったら、[編集を終了して前の画面へ戻る]をクリックします。**



6 **「制限する」をクリックしてチェックを入れ、[設定]をクリックします。**

メモ: 本設定は無線の周波数帯(2.4GHzまたは5GHz)ごとに設定できます。

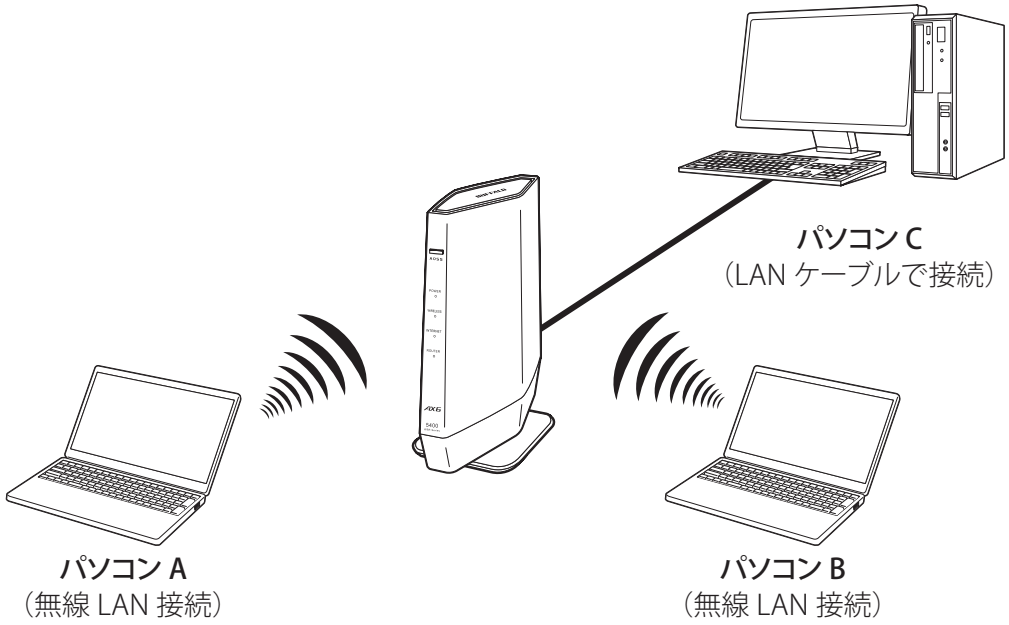
7 **「無線パソコンのMACアクセス制限を有効にします」と表示されたら、[設定]をクリックします。**

以上で設定は完了です。

機器同士の無線通信を禁止する（プライバシーセパレーター）

プライバシーセパレーター機能を使用すると、本製品に接続している機器同士の通信（共有フォルダーなどへのアクセス）を禁止できます。

メモ: 本製品にLANケーブルを使って接続している機器がある場合は、プライバシーセパレーターを有効にしても、アクセスを禁止できません。たとえば、以下の図のような接続の場合、プライバシーセパレーターを有効にすることで、パソコンA－B間で共有フォルダーへのアクセスはできなくなりますが、パソコンA－C間やパソコンB－C間はアクセスできます。



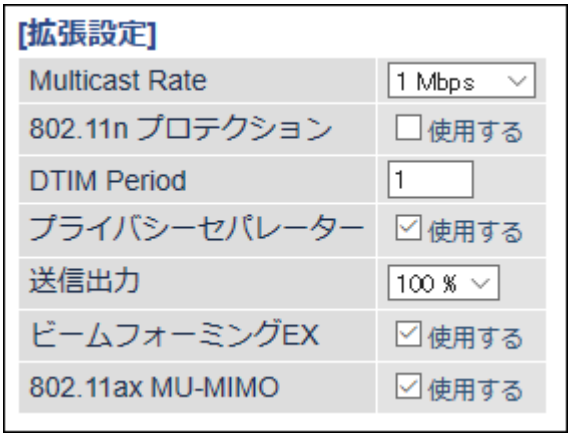
1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」（P.38）を参照してください。

2 「詳細設定」－「無線設定」－「2.4GHz（11ax/n/g/b）」または「詳細設定」－「無線設定」－「5GHz（11ax/ac/n/a）」をクリックします。

メモ: 本設定は無線の周波数帯（2.4GHzまたは5GHz）ごとに設定できます。

3 「プライバシーセパレーター」欄の「使用する」をクリックしてチェックを入れ、［設定］をクリックします。



[拡張設定]

Multicast Rate	1 Mbps
802.11n プロテクション	☐ 使用する
DTIM Period	1
プライバシーセパレーター	☑ 使用する
送信出力	100 %
ビームフォーミングEX	☑ 使用する
802.11ax MU-MIMO	☑ 使用する

以上で設定は完了です。

ポートを開放する（ポート変換設定）

ポート変換することで、インターネットゲームを楽しんだり各種サーバーを公開できます。

メモ:

- サーバーを公開する場合、固定グローバルIPアドレスの取得およびプロバイダーと別途契約が必要な場合があります。
- 手順はお使いの環境によって異なります。

  ネットワークゲームや各種サーバーを公開する場合など、あらかじめ利用するポート番号が分かっている場合は、以下を参照してください。
  利用するポート番号が不明な場合は、「利用するポート番号が不明な場合」(P.78)を参照してください。

ネットワークゲームや各種サーバーを公開する場合など、あらかじめ利用するポート番号が分かっている場合

本製品がルーターとして動作している場合にのみ、以下の設定が行えます。

メモ:

- 「transix」、「クロスパス」をお使いの場合は、ポート変換できません。
- 「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合、回線仕様により、ポート変換設定をしても通信が転送されないことがあります。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.38)を参照してください。

2 「詳細設定」－「セキュリティー」－「ポート変換」をクリックします。

3 各項目を設定し、[新規追加]をクリックします。

グループ:
登録するルールが属するグループを指定します。[新規追加]を選択すると、新たなグループを作成し、そのグループに追加されます。新規追加時には半角英数字で16文字までのグループ名を付けることが可能です。

Internet側IPアドレス：
公開する各種サーバーの固定グローバルIPアドレスを設定します。Internet側IPアドレスをPPPoEサーバーから取得している場合は各PPPoE接続先のInternet側IPアドレスを設定します。手動設定を選択したときは、手動設定欄にIPアドレスを指定する必要があります。プロバイダーから複数の固定グローバルIPアドレス指定を受けている場合には、「手動設定」で本製品のInternet側IPアドレスに設定してあるアドレス以外のグローバルIPアドレスを設定することが可能です。

プロトコル：
アドレス変換機能を使用するポートの種類を選択します。[TCP/UDP]を選択したときは、ポートを設定します。

LAN側IPアドレス：
インターネットからのアクセスの宛先となるプライベートIPアドレスを設定します。

LAN側ポート：
変換プロトコルでTCP/UDPを指定し、単独のポート番号を指定したときは、LAN側のポート番号を変更できます。

以上の設定の組み合わせにより、最大32種類の組み合わせを設定できます。

メモ: WWW(HTTP)サーバーを公開する場合は、以下のように設定すると、インターネットからのアクセスを任意のLAN側のWWWサーバーIPアドレスに転送できます。

グループ：
任意の名称(例：group1)を入力します。

Internet側IPアドレス：
[エアステーションのInternet側IPアドレス]を選択します。

プロトコル：
TCP/UDPを選択し、[HTTP(TCPポート：80)]を選択します(任意のTCP/UDPポートは空欄)。

LAN側IPアドレス/LAN側ポート：
LAN側IPアドレスは、サーバーIPアドレス(例：192.168.11.210)を入力します。LAN側ポートは、空欄にします。

4 設定内容が登録されていることを確認します。

ポート変換登録情報

グループ	Internet側IPアドレス LAN側IPアドレス	プロトコル LAN側ポート	操作		
group1	エアステーションのInternet側IPアドレス 192.168.11.210	TCP ポート:80 TCP ポート:80	OFF	修正	削除

以上で設定は完了です。

利用するポート番号が不明な場合

本製品がルーターとして動作している場合にのみ、以下の設定が行えます。

メモ:

- 「transix」、「クロスパス」をお使いの場合は、DMZを設定しても動作しません。
- 「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合、回線仕様により、DMZを設定しても通信が転送されないことがあります。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.38)を参照してください。

2 「詳細設定」－「セキュリティー」－「DMZ」をクリックします。

3 DMZのアドレスを設定し、[設定]をクリックします。

メモ:

- DMZのアドレスは、インターネット側から送られてきたデータの宛先ポートが不明な場合に、そのデータが転送されるLAN上のIPアドレスです。ここで設定されたIPアドレスの機器でのみ、ネットワークゲームなどを利用できます。
- ポート変換の設定で[LAN側IPアドレス]を設定した場合は、そちらの設定が優先されます。
- DMZを使用する場合は、機器側のIPアドレスをここで設定した値に固定する必要があります。
- 使用するソフトや契約しているプロバイダーによっては、DMZを設定してもソフトウェアが動作しない場合があります。
- DMZに設定した機器は、ほかのパソコンに比べてセキュリティーが低下するため、重要なデータなどをその機器に保存しないことをおすすめします。
- 安全のため、ファイアウォールの設定画面で、「NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する」を有効にしておくことをおすすめします。

以上で設定は完了です。

本製品のIPアドレスを変更する

エアステーション設定ツールを使用すると、本製品のIPアドレスを変更できます。ここでは、エアステーション設定ツールを使ったIPアドレスの変更方法について説明します。

Windowsをお使いの場合

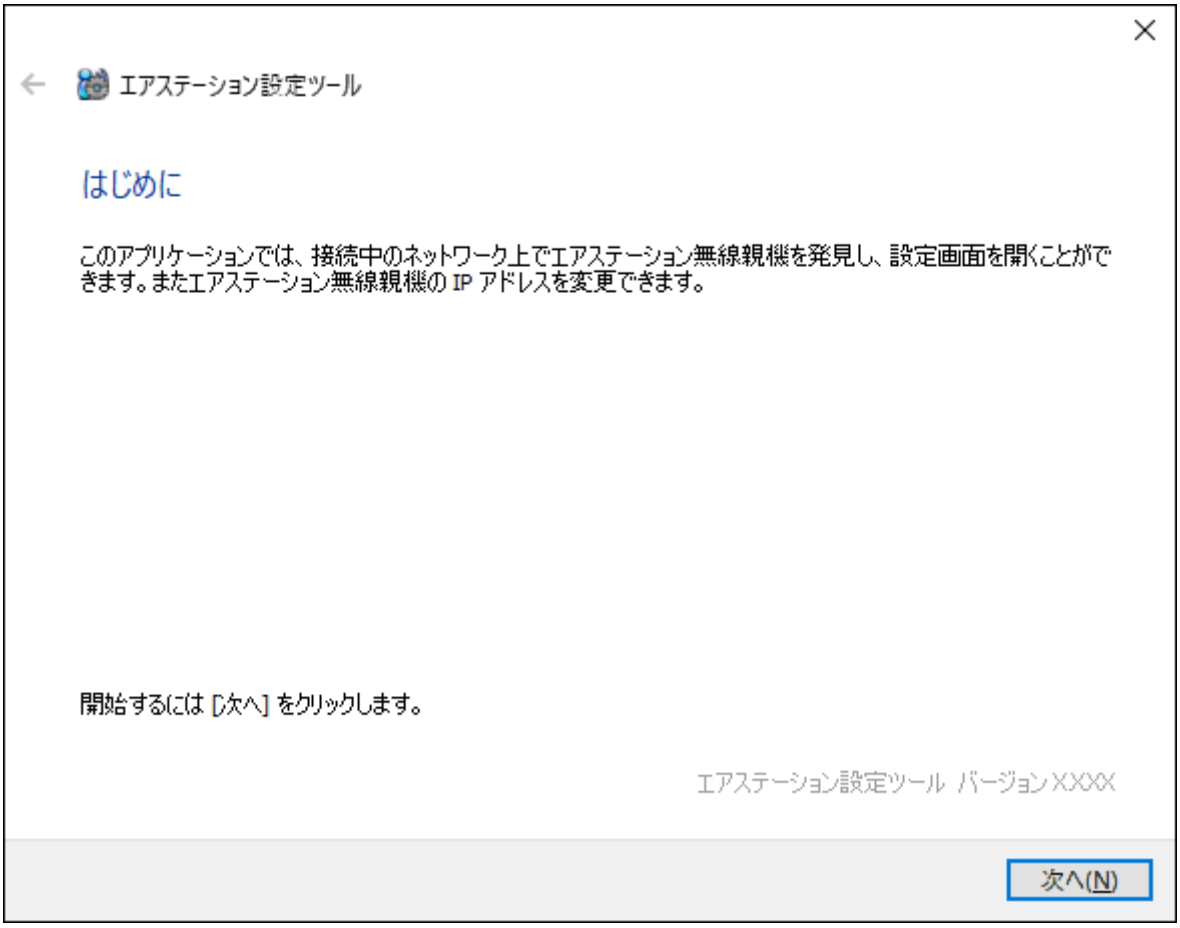
メモ:

- エアステーション設定ツールは、当社ホームページ(https://86886.jp/airset/)でダウンロードできます。
- パソコンを本製品に接続した状態で設定してください。
- 本製品のIPアドレスは、設定画面の[詳細設定]－[LAN]－[LAN]からも変更できます。

1 エアステーション設定ツールを起動します。

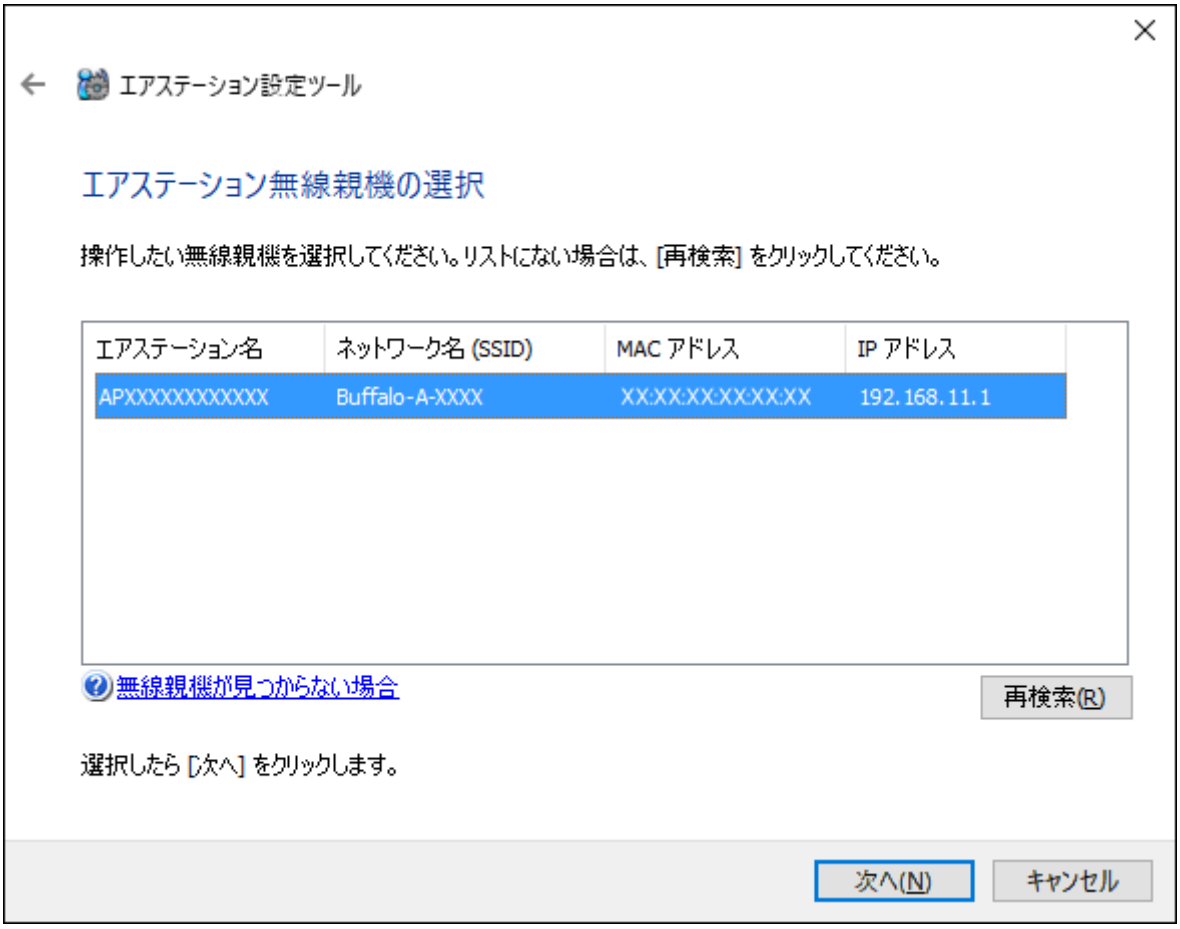
インストール時にデスクトップ上に作られた「エアステーション設定ツール」のショートカットをダブルクリックします。

2 [次へ]をクリックします。



メモ: パソコンに複数のネットワークアダプターが搭載されている場合、「2つ以上のネットワーク接続がつながっています」というメッセージが表示されます。その場合は、使用していないネットワークアダプターを取り外すか無効にしてから[再実行]をクリックしてください。

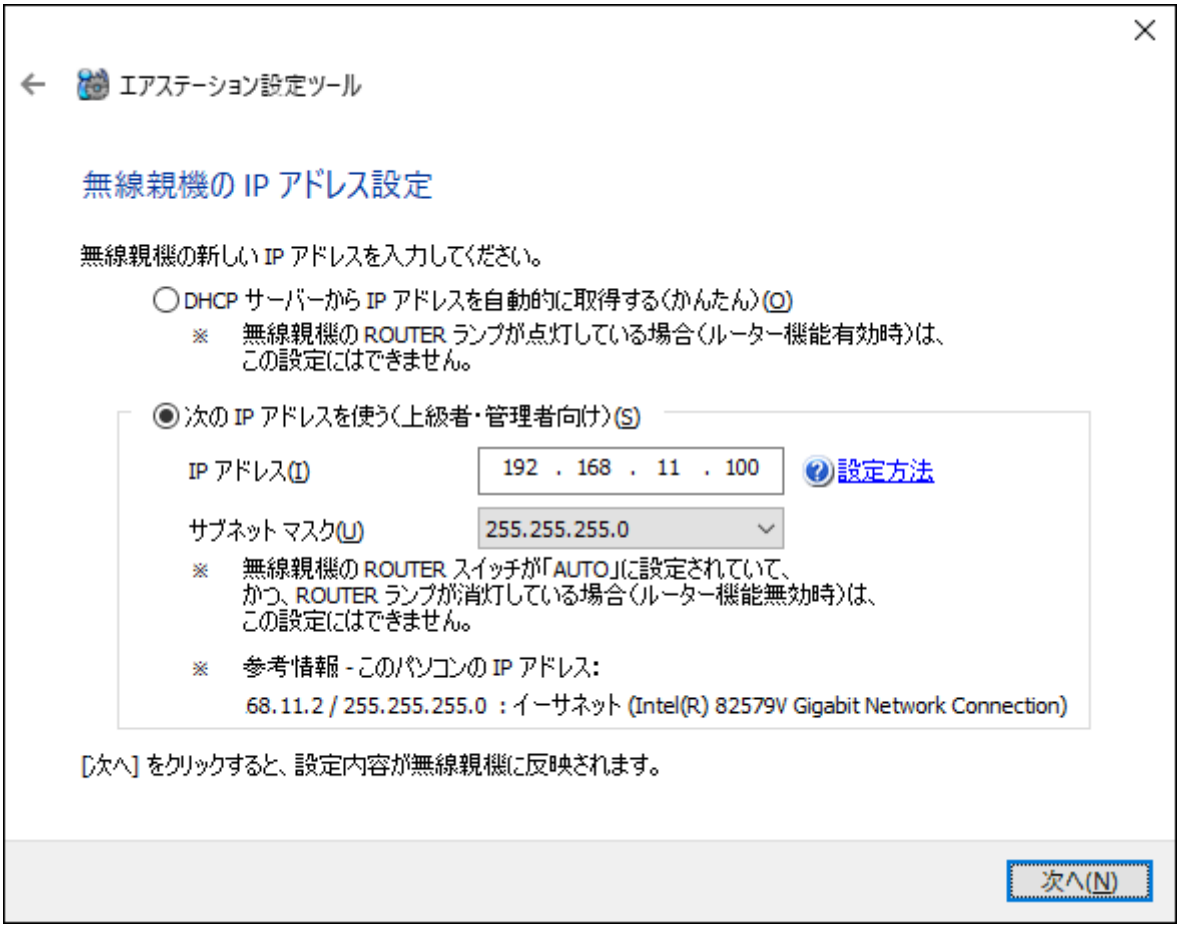
3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、[次へ]をクリックします。



メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

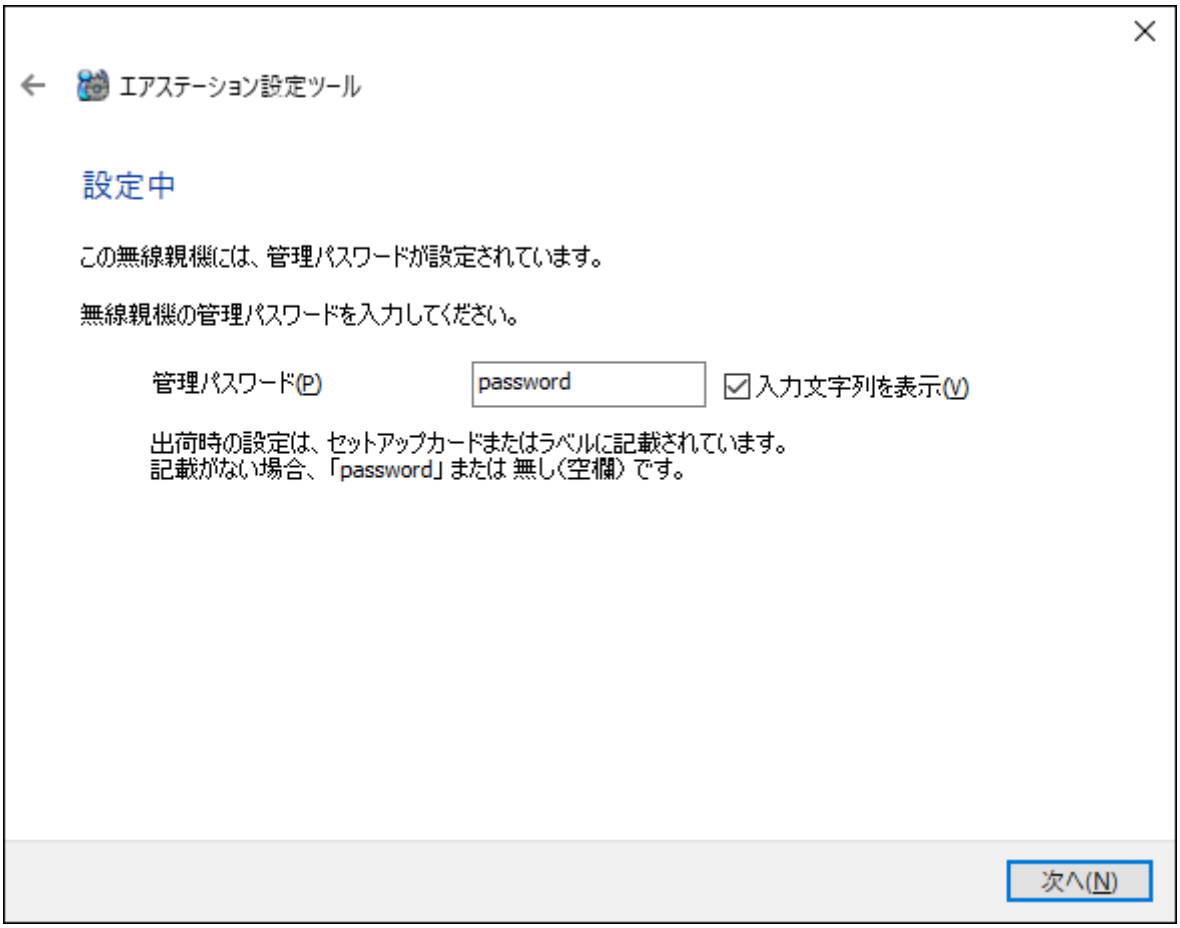
4 ［この無線親機のIPアドレスを設定する］をクリックします。

5 新しく設定するIPアドレスを入力して[次へ]をクリックします。

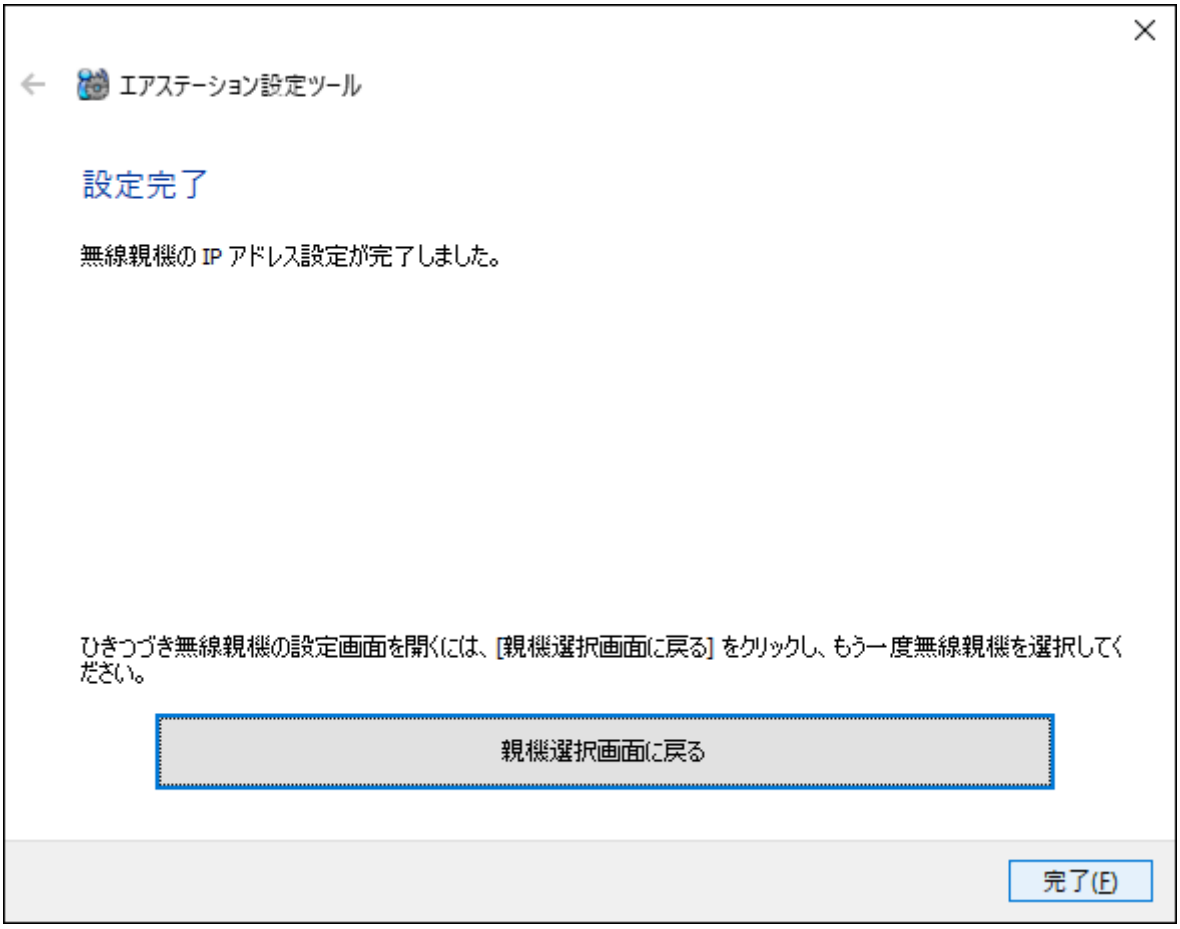


メモ: 本製品とパソコンのIPセグメントが異なる場合は、「入力したアドレスは、ネットワークセグメントがこのパソコンと異なります」という画面が表示されます。設定を続ける場合は、[はい]をクリックしてください。

6 **本製品に設定されている管理パスワード（出荷時状態ではセットアップカードに記載されている「本機ログイン用パスワード」）を入力し、［次へ］をクリックします。**



7 [完了]をクリックします。



以上で設定は完了です。

Macをお使いの場合

メモ:

- エアステーション設定ツールは、当社ホームページ(https://86886.jp/airset/)でダウンロードできます。
- Macを本製品に接続した状態で設定してください。
- 本製品のIPアドレスは、設定画面の[詳細設定]－[LAN]－[LAN]からも変更できます。

1 **エアステーション設定ツールを実行します。**

2 **[続ける]をクリックします。**

3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、[続ける]をクリックします。

メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

4 [この無線親機のIPアドレスを設定する]をクリックします。

5 新しく設定するIPアドレスを入力して[続ける]をクリックします。

メモ: 本製品とMacのIPセグメントが異なる場合は、「入力したアドレスは、ネットワークセグメントがこのMacと異なります」という画面が表示されます。設定を続ける場合は、[無視して続ける]をクリックしてください。

6 本製品に設定されているパスワード（出荷時状態ではセットアップカードに記載されている「本機ログイン用パスワード」）を入力し、[続ける]をクリックします。

7 [終了]をクリックします。

以上で設定は完了です。

フレッツ回線向けの設定をする（PPPoEマルチセッション）

本製品のPPPoEマルチセッション機能を使用して、1つの回線契約でプロバイダーとフレッツ回線向けサービス情報サイトに同時に接続するには、以下の設定を行ってください。

メモ:

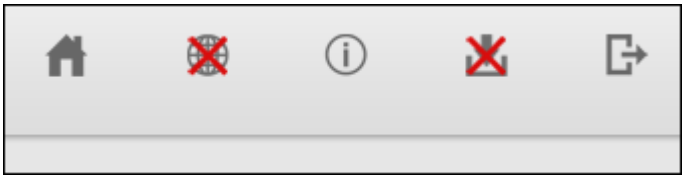
- NTT東日本向けフレッツ・スクウェアは、2011年6月1日より、「サービス情報サイト」に名称が変更されました。
- NTT西日本向けフレッツ・スクウェアは、2011年12月28日をもってサービス終了となりました。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」（P.38）を参照してください。

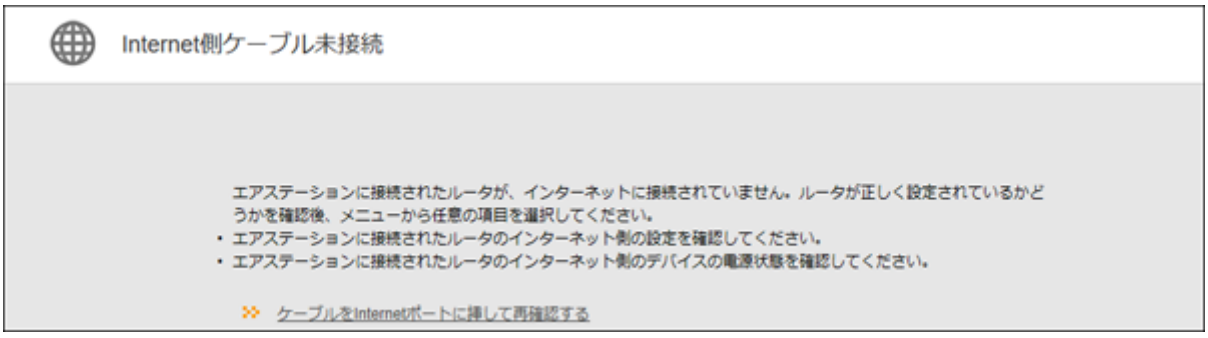
2 本製品背面のINTERNET端子からLANケーブルを取り外します。

3 設定画面右上の **に×マークが付くことを確認します。**

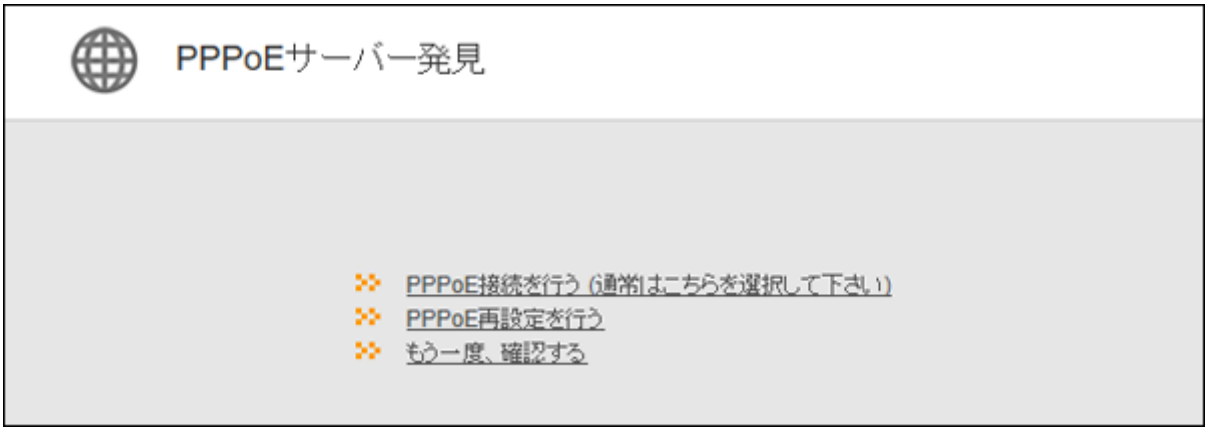


4 **をクリックします。**

5 手順2で抜いたLANケーブルを、本製品背面のINTERNET端子に再接続して、「ケーブルをInternetポートに挿して再確認する」をクリックします。

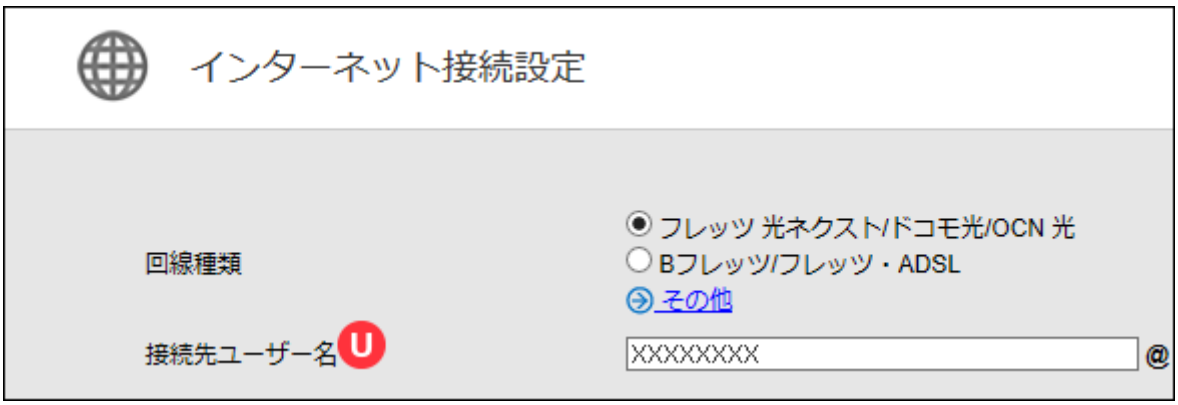


「PPPoE再設定を行う」をクリックします。

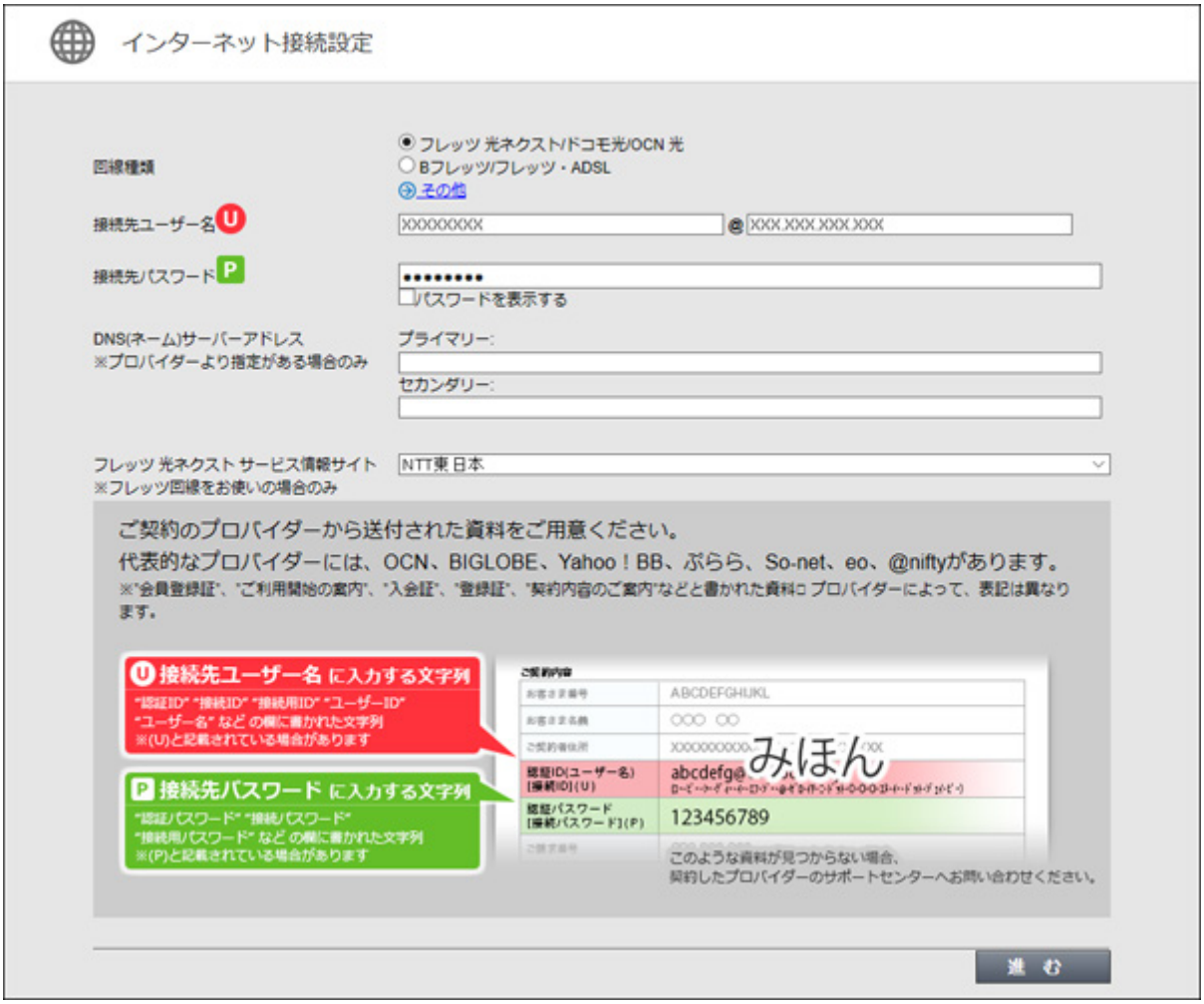


6 お使いの回線の種別に合わせて「回線種類」を選択します。

フレッツ 光ネクストをお使いの方は「フレッツ 光ネクスト/ドコモ光/OCN 光」を、それ以外の回線をお使いの方は、「Bフレッツ/フレッツ・ADSL」を選択してください。



7 「フレッツ 光ネクストサービス情報サイト」欄（フレッツ 光ネクスト用）または「サービス情報サイト」欄（Bフレッツ/フレッツ・ADSL用）で、「NTT東日本」または「NTT西日本」を選択し、［進む］をクリックします。

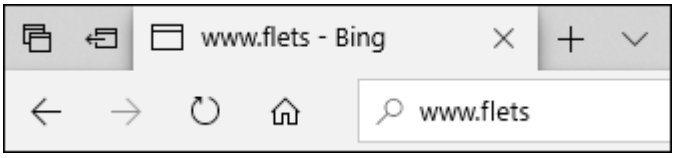


メモ: NTT西日本のサービスが終了しているため、「サービス情報サイト」欄では、「NTT西日本」は選択できません。

8 「接続成功です」と表示されたら、［設定完了］をクリックします。

9 フレッツ 光ライト/フレッツ 光ネクストをご契約の方は、アドレス欄に「v4flets-east.jp」（NTT東日本向け）または「v4flets-west.jp」（NTT西日本向け）と入力して、Enterキーを押します。

Bフレッツ/フレッツ・ADSLをご契約の方は、アドレス欄に「www.flets」と入力して、Enterキーを押します。



10 サービス情報サイトが表示されます。

以上で設定は完了です。

ルーター機能を停止する

本製品のルーター機能を使用しないで、アクセスポイントとして使用する場合は、以下の手順で行います。

メモ: 本製品のルーター機能をOFFにすると、本製品のIPアドレスは下記の設定に変更されます。また、以下の機能が無効になりますのでご注意ください。
ファームウェアバージョン1.01以前：192.168.11.100
ファームウェアバージョン1.02以降：ルーターからの自動取得

- DHCPサーバー（IPアドレス自動割当）機能
- 静的IPマスカレード（アドレス変換）機能
- パケットフィルター機能
- PPPoEマルチセッション機能

1 本製品背面のスイッチを「MANUAL」（下）、「AP」（中央）に設定します。

2 本製品に接続している機器を再起動します。

以上で設定は完了です。

本製品の設定を保存する･復元する

設定の保存

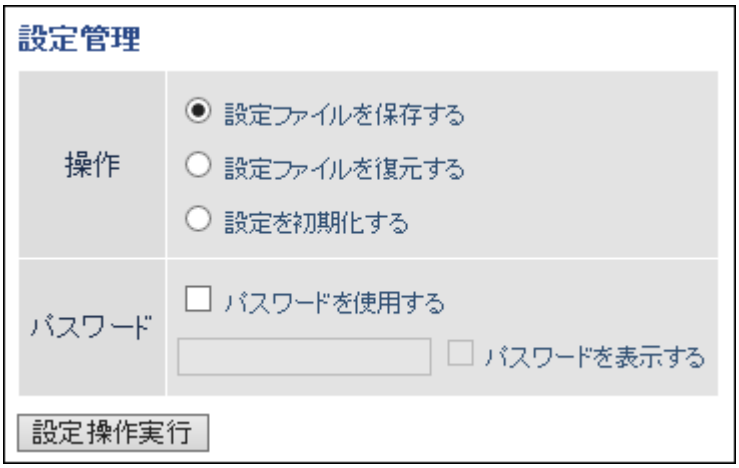
本製品の設定内容の保存は、以下の手順で行います。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.38)を参照してください。

2 「詳細設定」－「管理」－「設定管理/再起動」をクリックします。

3 「設定ファイルを保存する」を選択し、[設定操作実行]をクリックします。



メモ: パスワードを使って設定ファイルを暗号化する場合は、「パスワードを使用する」にチェックを入れ、[設定操作実行]をクリックしてください。

4 画面の表示に従って、設定ファイルを保存します。

設定の復元

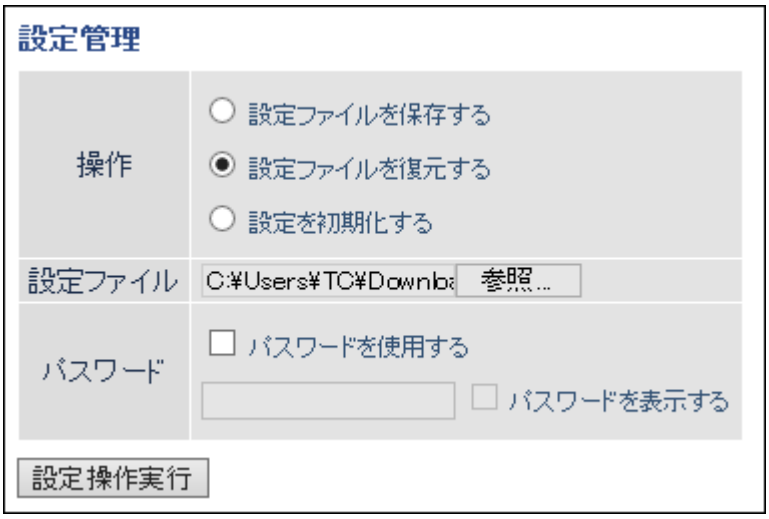
本製品の設定を復元する場合は、以下の手順で行います。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」(P.38)を参照してください。

2 「詳細設定」－「管理」－「設定管理/再起動」をクリックします。

3 「設定ファイルを復元する」を選択し、「設定ファイル」欄の[参照]をクリックして設定ファイルを指定し、[設定操作実行]をクリックします。



メモ: 設定ファイルがパスワードで暗号化されている場合は、「パスワードを使用する」にチェックを入れ、[設定操作実行]をクリックしてください。

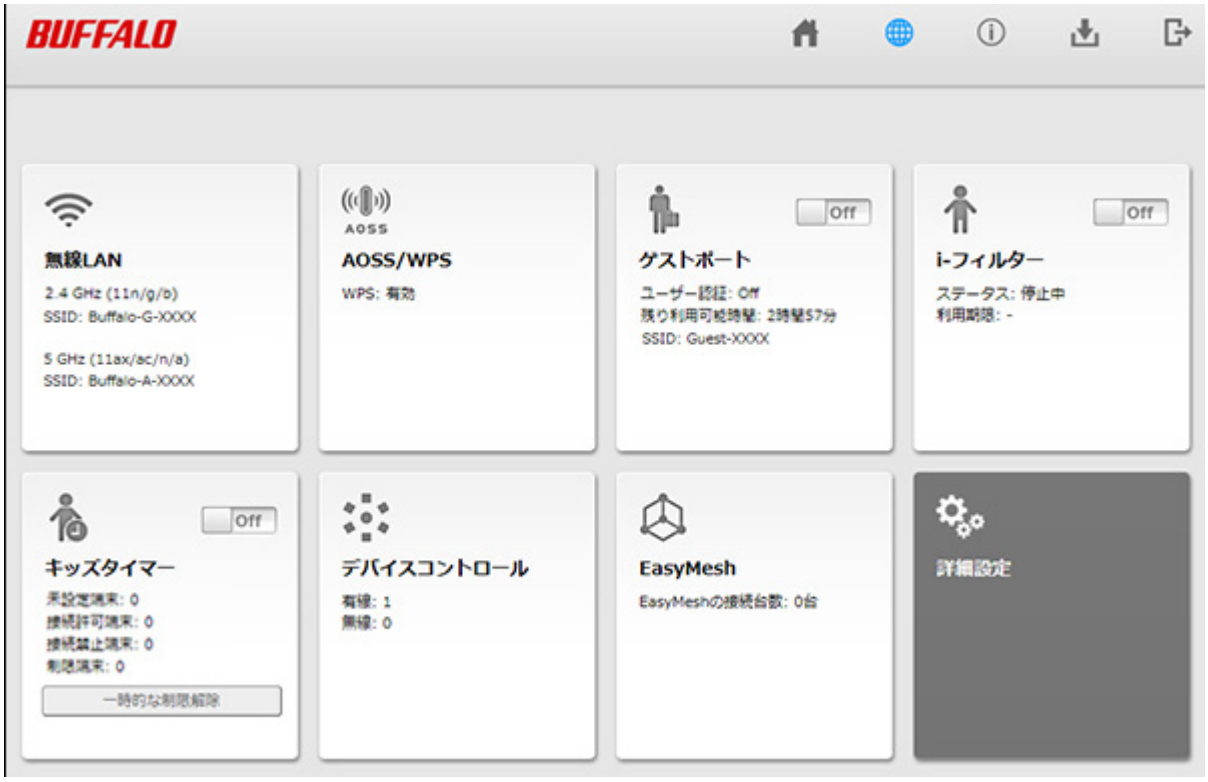
第 3 章　設定画面の詳細情報

本章では、本製品の設定画面について説明します。

かんたん設定と詳細設定について

本製品の設定画面は、各種設定や機器診断を行う画面です。本製品の設定を変更するときや状態を確認したいときに使用します。
設定画面は「かんたん設定」と「詳細設定」に分かれており、用途によって使い分けることができます。少ない操作で設定を済ませたい場合は「かんたん設定」を、より高度な設定を行いたい場合は「詳細設定」を使用してください。

かんたん設定の画面（一例）



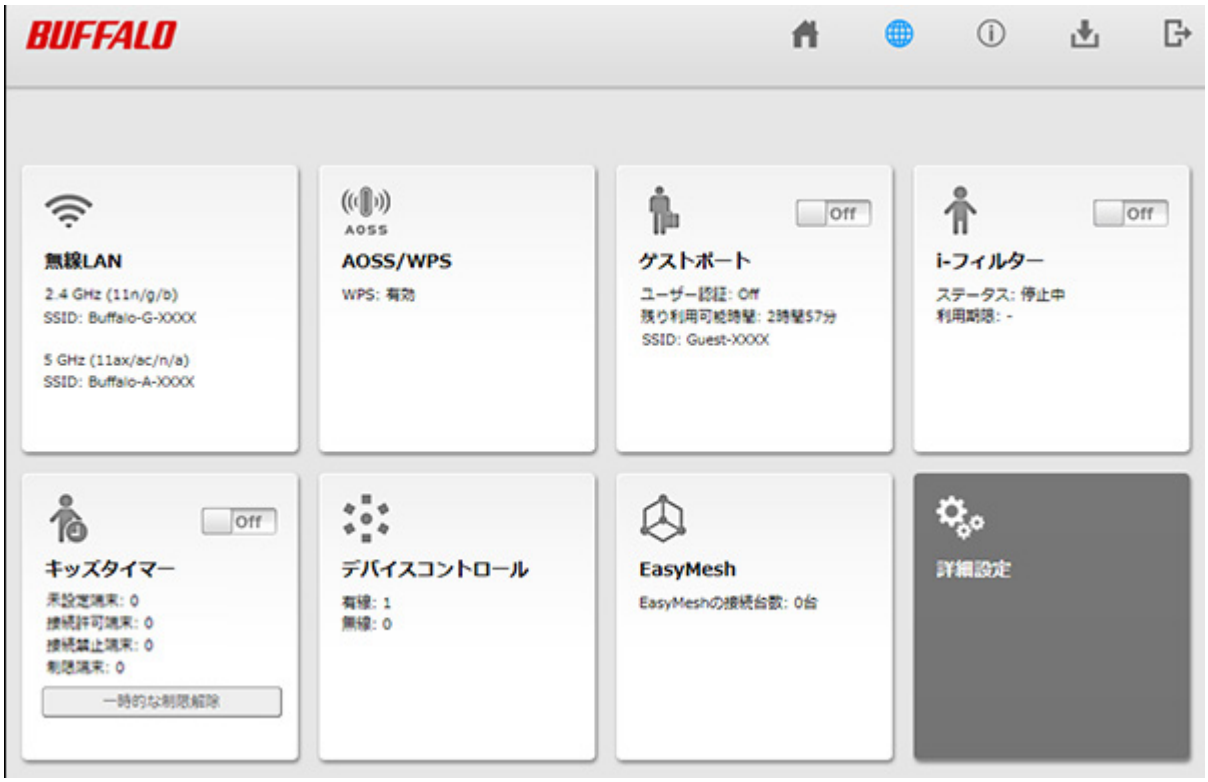
詳細設定画面（一例）

メモ: 設定画面の操作が5分間ない場合、設定画面から自動的にログアウトします。

かんたん設定画面

トップ画面

本製品の設定画面にログインした際、最初に表示される画面です。画面の内容は、本製品の動作モードによって異なります。ここでは、ルーターモード時の画面を例に説明します。



項目	内容
無線LAN	現在の無線LANの状態が表示されます。 クリックすると、無線LANの設定画面が表示されます。
AOSS/WPS	現在のAOSS/WPS設定の状態が表示されます。 クリックすると、「簡単設定を開始します（AOSS/WPSプッシュボタン式）」という画面が表示され、[OK]をクリックすると本製品がAOSS/WPS待ち受け状態になります。
ゲストポート	来訪者用の一時的な接続先（ゲストポート）の状態が表示されます。 ゲストポート機能の有効/無効を切り替えられます。 クリックすると、ゲストポートの設定画面が表示されます。
i-フィルター	有害サイトへのアクセスを制限するサービスの状態が表示されます。 サービスの有効/無効を切り替えられます。 クリックすると、サービスの詳細設定画面が表示されます。
キッズタイマー	特定の機器に対して、無線接続できる時間を制限するサービスの状態が表示されます。 クリックすると、キッズタイマーの設定画面が表示されます。
デバイスコントロール	ネットワークに接続されている機器の台数が表示されます。 クリックすると、機器の状態を確認できます。
EasyMesh	クリックすると、EasyMeshの設定画面が表示されます。
詳細設定	クリックすると、詳細設定画面が表示されます。
	クリックすると、トップ画面が表示されます。
	ルーターモード時のみ表示されます。インターネットへの接続状況を表示します。インターネットに未接続のとき（ が表示されているとき）にクリックすると、インターネット接続の初期設定画面が表示されます。
	中継動作時のみ表示されます。Wi-Fiルーターとの接続状況を表示します。Wi-Fiルーターに未接続のとき（ が表示されているとき）にクリックすると、Wi-Fiルーターとの接続設定画面が表示されます。
	ファームウェアの更新がある場合などに点滅してお知らせします。クリックすると、本製品の動作モードが表示されます。
	インターネットに接続しているときにクリックすると、取扱説明書やソフトウェアなどのダウンロードページが表示されます。
	クリックすると、設定画面からログアウトします。

無線LAN（ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ）

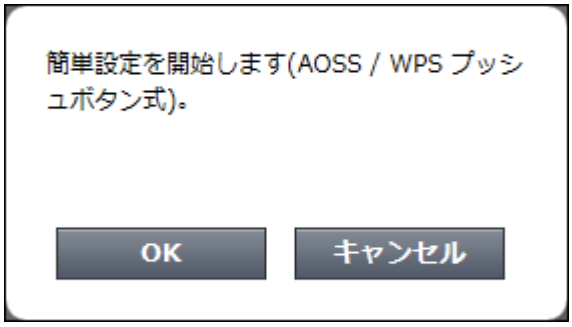
無線LANの基本設定を行う画面です。

項目	内容
	詳細設定画面を表示します。
2.4GHz（11ax/n/g/b） **5GHz（11ax/ac/n/a）**	無線の有効/無効を設定します。
SSID 1、SSID 2	**SSID 1** WPA2 Personal、WPA/WPA2 Personal、および認証を行わない無線用のSSIDです。 **SSID 2** WPA3 Personal、WPA2/WPA3 Personal用のSSIDです。 **メモ:** お使いの機器やOSによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。
SSID	SSIDを半角英数字記号で32文字までで設定します。

項目	内容
暗号化モード	機器との無線接続時の暗号化モードを以下から選択します。 **WPA2 Personal AES** WPA2に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定された機器だけが通信できます。 **WPA/WPA2 Personal AES** WPAまたはWPA2に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定された機器だけが通信できます。 **WPA3 Personal AES** WPA3に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定された機器だけが通信できます。 **WPA2/WPA3 Personal AES** WPA2またはWPA3に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定された無線機器だけが通信できます。 **暗号化なし** 暗号化を行わずに通信します。通信内容が盗聴されますので暗号化なしでのご使用は避けてください。
暗号化キー	機器との認証で使用する暗号化キーを入力します。入力できる暗号化キーは、SSIDごとに異なります。 **SSID1の暗号化キー** 文字列入力の場合、半角英数字（大文字/小文字の区別あり）を8～63文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の64桁で入力します。 **SSID2の暗号化キー** 半角英数字（大文字/小文字の区別あり）を1～64文字で入力します。 **メモ:** 安全のため、暗号化キーは次のように設定することをおすすめします。 • SSID1とSSID2で、別々の暗号化キーを設定する。 • 暗号化キーは、一般的な単語を避けて十分長い文字列を設定する。
チャンネル	無線で使用するチャンネル（周波数帯）を設定します。「自動」を選択すると電波混雑防止機能により、自動的に最適なチャンネルが設定されます。2.4GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。
帯域	無線で使用する帯域幅を設定します。帯域幅を大きくすると、通信速度の向上が見込めますが、周囲の電波状況が悪い場合は、効果が得られないことがあります。

AOSS/WPS

[OK]をクリックすると、本製品がAOSS/WPS待ち受け状態になります。
[キャンセル]をクリックすると、トップ画面に戻ります。



ゲストポート（ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ）

来訪者用の一時的な接続先（ゲストポート）の設定を行います。

メモ: ゲストポートに接続した機器は、IPv6通信できません。

項目	内容
	詳細設定画面を表示します。
SSID	来訪者用のSSIDを半角英数字記号で32文字までで設定します。
暗号化モード	来訪者用の暗号化モードを設定します。
利用可能時間	来訪者がゲストポートを利用できる時間を設定します。

i-フィルター（ルーターモード時のみ）

ホームページの表示を許可/ブロックする「i-フィルター」に関する設定を行う画面です。
クリックすると、「i-フィルター」の詳細設定の画面が表示されます。

メモ: 「i-フィルター」は、IPv4通信にのみ対応しています。IPv6通信では使用できません。

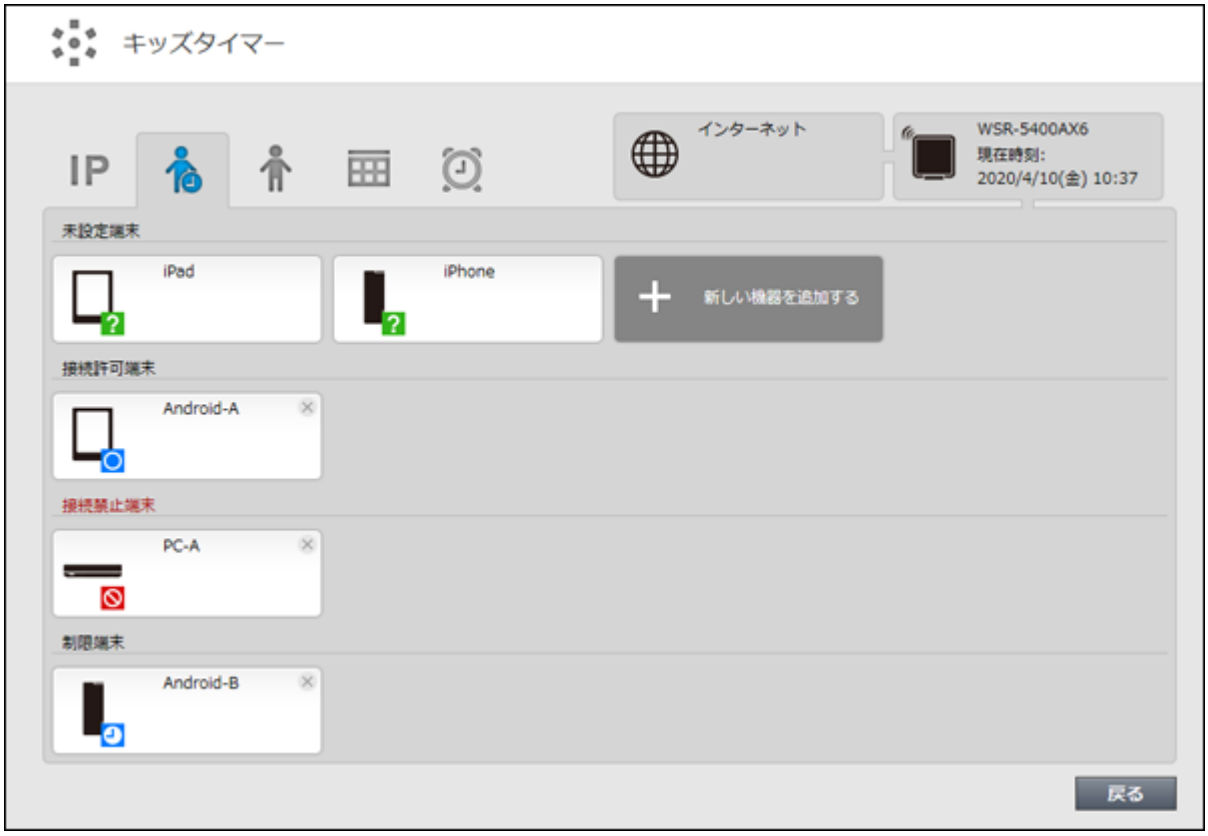
キッズタイマー

本製品に接続できる時間を機器ごとに制限する「キッズタイマー」の設定を行う画面です。

メモ:

- 本製品のファームウェアがバージョン1.02以前の場合、キッズタイマーの対象は、本製品に無線接続している端末のみです。有線（LANケーブル）で接続している端末は、対象外です。
- キッズタイマーとMACアクセス制限は同時に使用できません。MACアクセス制限を使用している場合は、以下の設定を行う前に無効にしてください。

一覧画面

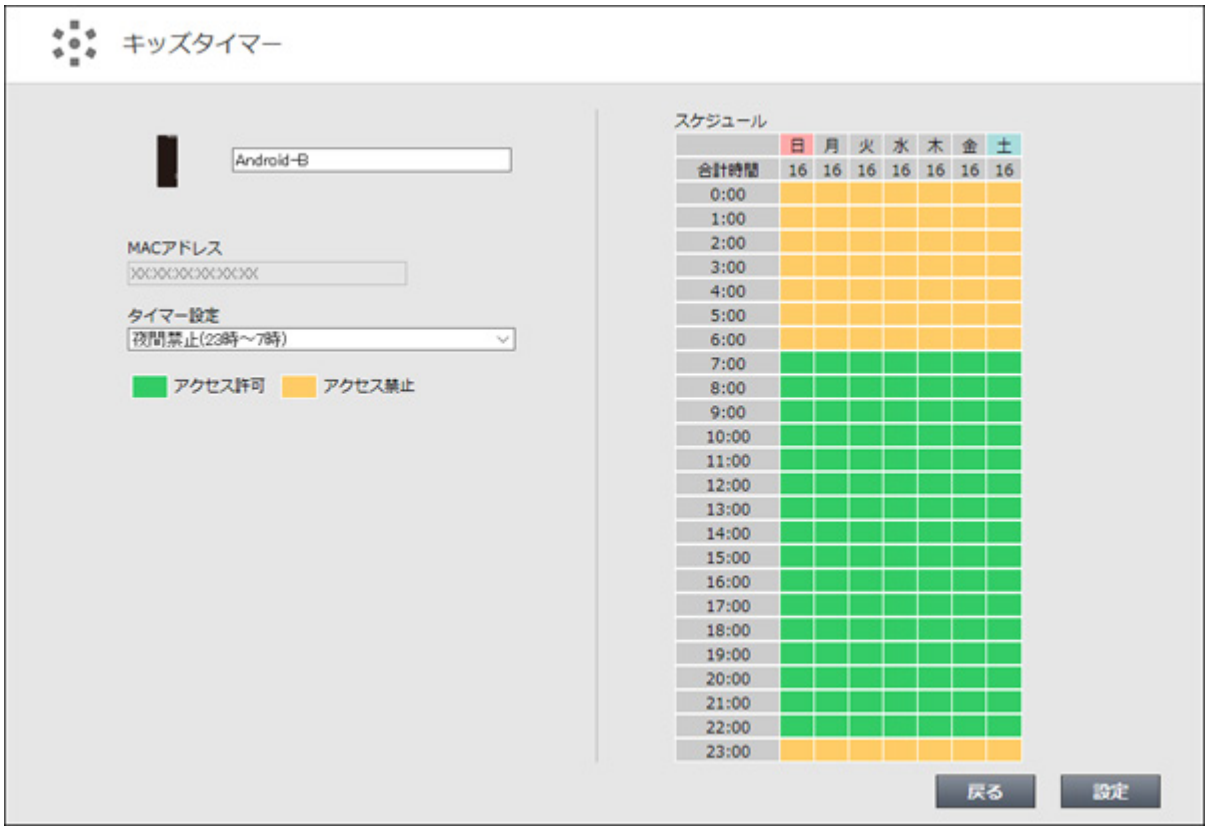


項目	内容
未設定端末	本製品に接続している機器のうち、本機能の設定を行っていない機器を表示します。 「新しい機器を追加する」をクリックすると、スケジュール登録画面（後述）が表示されます。
接続許可端末	本機能のタイマー設定で「制限しない」に設定されている機器を表示します。
接続禁止端末	本機能のタイマー設定で「接続禁止」に設定されている機器を表示します。
制限端末	本機能のタイマー設定で「夜間禁止（23時～7時）」または「手動設定」に設定されている機器を表示します。

項目	内容
	スケジュールが未設定の機器に表示されます。
	接続が許可されている機器に表示されます。
	接続が禁止されている機器に表示されます。
	接続制限がされている機器に表示されます。

メモ: 画面に表示されている機器をクリックすると、スケジュール登録画面（後述）が表示されます。

スケジュール登録画面

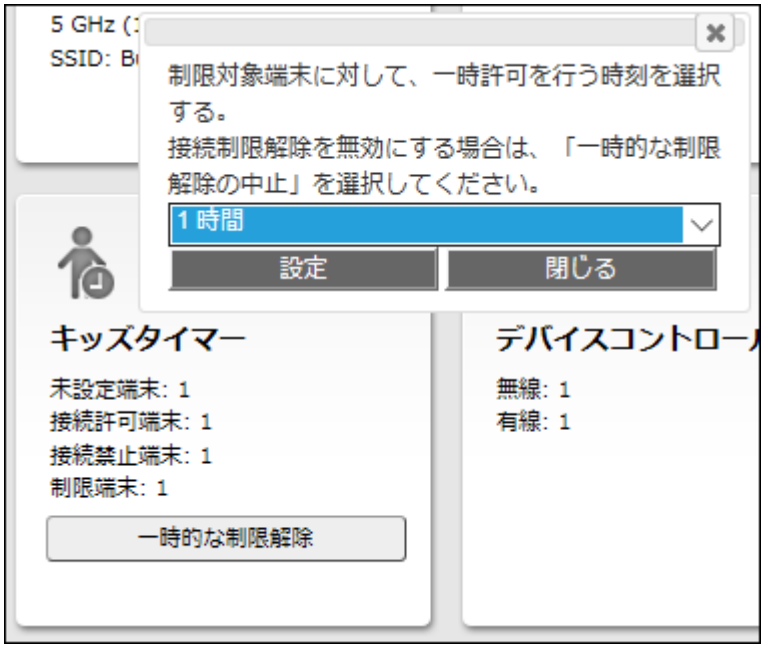


項目	内容
機器名	前述の一覧画面でクリックした機器名が表示されます。「新しい機器を追加する」をクリックした場合は、本機能の対象とする機器の名称を入力してください。 機器名は、半角英数字記号で64文字まで設定できます。
MACアドレス	前述の一覧画面でクリックした機器のMACアドレスが表示されます。「新しい機器を追加する」をクリックした場合は、本機能の対象とする機器のMACアドレスを入力してください。

項目	内容
タイマー設定	本機能のプリセット値を選択します。 **制限しない** 選択すると、スケジュールをすべてアクセス許可に設定します。 **接続禁止** 選択すると、スケジュールをすべてアクセス禁止に設定します。 **夜間禁止（23時～7時）** 選択すると、スケジュールの23:00～7:00をアクセス禁止、そのほかをアクセス許可に設定します。 **手動設定** スケジュールを自由に設定したい場合に選択します。 **＜機器名＞と同じ設定** 選択すると、＜機器名＞に選んだ機器のスケジュールを反映します。
スケジュール	マウスのクリック/ドラッグ操作やスマートフォンのタップ操作でスケジュールを設定します。 緑色が「アクセス許可」を、橙色が「アクセス禁止」を示しています。

一時的な制限解除画面

トップ画面の「キッズタイマー」のパネルで、[一時的な制限解除]をクリックすると、「制限端末」に設定している機器のアクセス制限を一時的に解除できます。



デバイスコントロール（ルーターモード時のみ）

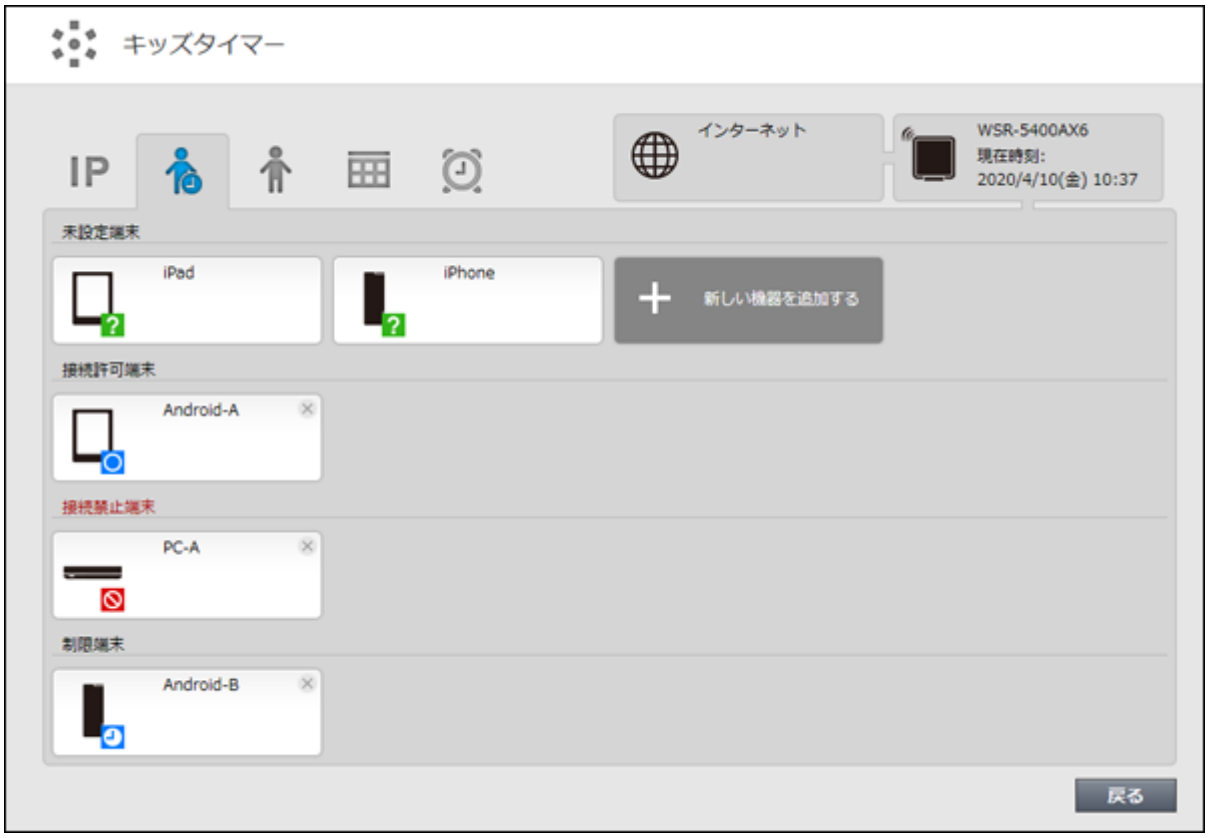
ネットワークに接続されている機器の状態を確認する画面です。

項目	内容
	現在設定画面にアクセスしている機器のアイコン上に表示されます。
	本製品に無線接続している機器のアイコン上に表示されます。
	「この端末は未検出でも表示する」にチェックが入っている機器のアイコン上に表示されます。この機器は本製品に接続されていなくても表示されます。

IPアドレス確認画面

本製品に接続している機器のIPアドレスが表示されます。
機器のアイコンをクリックすると、機器の個別設定が表示されます。

キッズタイマー



本製品に接続が許可･禁止されている機器や制限動作中の機器が表示されます。

i-フィルター確認画面

本製品に接続している機器がi-フィルターから除外されているかどうかを表示します。
機器のアイコンをクリックすると、機器の個別設定が表示されます。

機器設定画面へのアクセス画面

本製品に接続している機器が設定画面のインターフェースが利用できる場合、アイコンをクリックするとその機器の設定画面を開きます。設定画面のインターフェースが利用できない場合は、グレー表示されているか、クリックしても表示されません。

Wake-on-LAN実行画面

本製品に接続している機器のアイコンをクリックすると、その機器にWake-on-LANパケットを送信します。
その機器がすでに動作している場合、またはWake-on-LANに対応していない場合は、パケットを送信しても何も起こりません。

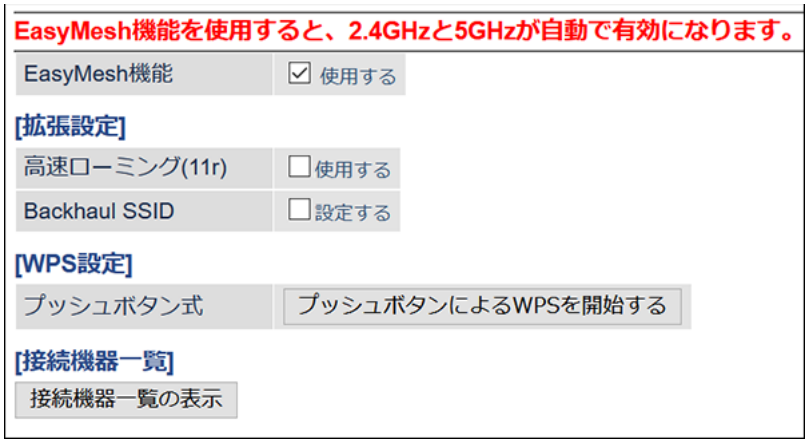
機器の個別設定画面

項目	内容
デバイス設定	機器の名称やアイコンを変更することができます。名称は、半角英数字・記号で64文字まで入力できます。
IPアドレス	機器のIPアドレスが表示されます。
MACアドレス	機器のMACアドレスが表示されます。
i-フィルター	「除外する」にチェックを入れると、その機器ではi-フィルターの対象から除外されます。
デバイス検出	「この端末は未検出でも表示する」にチェックを入れると、本製品はこの機器の情報を記憶し、この機器が本製品に接続されていない状態でもこの機器をデバイスコントロール画面に表示します。

EasyMesh

EasyMeshまたは中継機能(WB)の設定を行う画面です。

●ルーターモード時/アクセスポイントモード時の画面



●中継動作時の画面

接続情報

接続状態	未接続

2.4 GHz (11ax/n/g/b)

SSID	-
セキュリティー	-
2.4GHz MACアドレス	xx:xx:xx:xx:xx:xx
WPA-PSK (事前共有キー)	-

5 GHz (11ax/ac/n/a)

SSID	-
セキュリティー	-
5GHz MACアドレス	xx:xx:xx:xx:xx:xx
WPA-PSK (事前共有キー)	-

EasyMesh対応Wi-Fiルーターと接続する場合は、「Wi-FiルーターとのWPSを開始する」を実行してください。

Wi-Fiルーターと無線接続

EasyMeshまたは 中継機能(WB)で接続	Wi-FiルーターとのWPSを開始する
中継機能(WB)で接続	手動設定をする PINを使用したWPSを開始する

端末と無線接続

WPS	端末とのWPSを開始する

拡張設定

EasyMesh

高速ローミング (11r)　☐ 使用する

中継機能(WB)

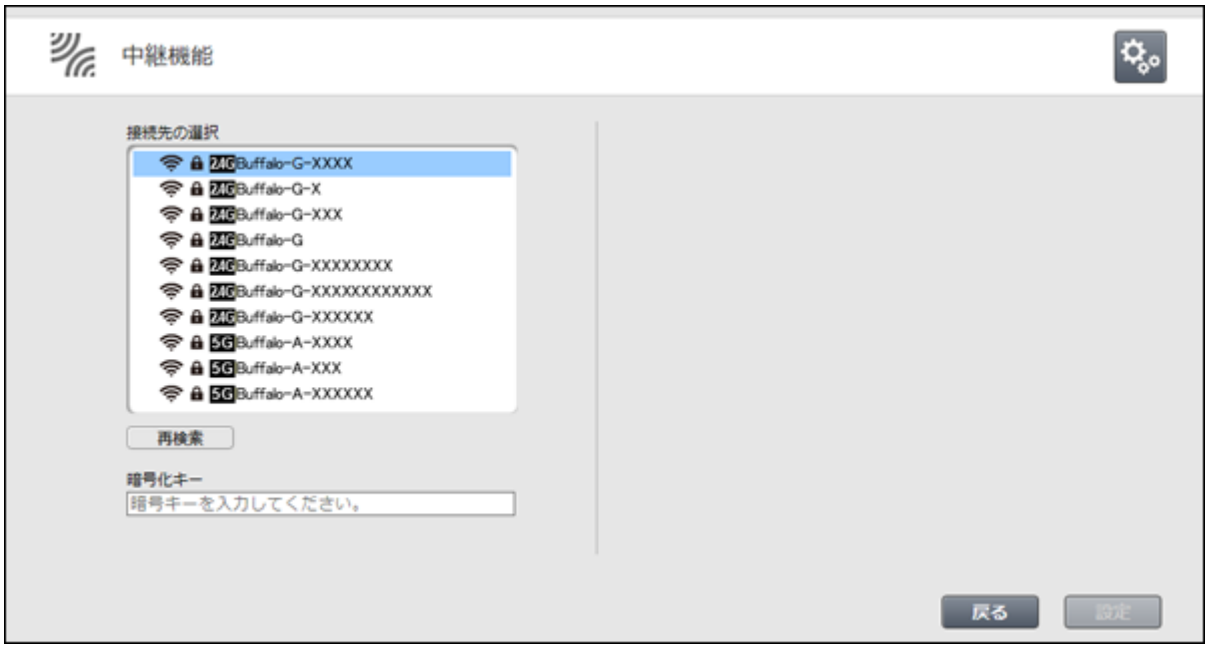
5GHz/2.4GHz 選択	自動(5GHz 優先)
無線LAN親機設定	☑ 接続時に中継機能の設定で動作する

本機の無線LAN親機機能を停止する場合は **2.4GHz (11ax/n/g/b)** 及び **5GHz (11ax/ac/n/a)** から無線機能を停止してください。

「EasyMesh/中継機能(WB)」(P.132)を参照してください。

中継機能（中継動作時のみ）

をクリックすると表示されます。本製品を中継機として動作させるときに接続するSSIDを設定します。
自動的にWi-FiルーターのSSIDが検索されるので、接続するSSIDを選択して暗号化キーを入力し、[設定]をクリックしてください。



項目	内容
	詳細設定画面を表示します。
再検索	Wi-FiルーターのSSIDをもう一度検索します。
暗号化キー	接続するSSIDに設定されている暗号化キーを入力します。

詳細設定画面

注意ボタンについて

上図のアイコンが画面上に表示されている場合は、そのアイコンをクリックしてください。その画面における注意事項が表示されるので、よくお読みになった上で設定を行ってください。

Internet

Internet側ポートの設定を行う画面です。

Internet　＞　Internet（ルーターモード時のみ）

IPアドレス取得方法	◉ インターネット@スタートを行う ☑ インターネット回線の変更時に自動で切り替える ○ DHCPサーバーからIPアドレスを自動取得 ○ PPPoEクライアント機能を使用する ○ transixを使用する ○ v6プラスを使用する ○ IPv6オプションを使用する ○ OCNバーチャルコネクトを使用する ○ クロスパスを使用する ○ その他のDS-Liteを使用する ゲートアドレス ○ 手動設定 IPアドレス サブネットマスク 255.255.255.0

※PPPoE接続先の設定はInternet設定 - PPPoE設定で行ってください.

[拡張設定]

デフォルトゲートウェイ	
DNS(ネーム)サーバーアドレス	プライマリー: セカンダリー:
Internet側MACアドレス	◉ デフォルトのMACアドレスを使用 (XX:XX:XX:XX:XX:XX) ○ 手動設定
Internet側MTU値	1500 バイト

項目	内容
IPアドレス取得方法	インターネット側(IPv4)のIPアドレスの取得方法を指定します。 IPv4 over IPv6通信サービスをお使いの方は、当社ホームページ(https://www.buffalo.jp/support/other/network-ipv6.html)を参照してください。 **インターネット@スタートを行う** インターネット回線の種類を自動的に判別し、インターネットに接続するまでの設定を自動的に行いたい場合に選択します。 通常はこの設定を選択してください。 「インターネット回線の変更時に自動で切り替える」にチェックを入れると、インターネット使用中も回線の自動判別を行い、変更があった場合は自動的に回線を切り替えます。その際、数分間通信ができなくなる場合があります。頻繁に回線が切り替わる場合は、チェックを外して使用してください。 **DHCPサーバーからIPアドレスを自動取得** インターネット側(IPv4)のIPアドレスをDHCPサーバーから自動取得する場合に選択します。 **PPPoEクライアント機能を使用する** PPPoE機能を使用して、プロバイダーからIPアドレスを自動取得する場合に選択します。 **transixを使用する** 「transix」をお使いの場合に選択します。 **v6プラスを使用する** 「v6プラス」をお使いの場合に選択します。 **IPv6オプションを使用する** 「IPv6オプション」をお使いの場合に選択します。 **OCNバーチャルコネクトを使用する** 「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合に選択します。 **クロスパスを使用する** 「クロスパス」をお使いの場合に選択します。 **その他のDS-Liteを使用する** その他のDS-Lite方式(「transix」とは異なるゲートアドレスの設定が必要な回線)をお使いの場合に選択して、ゲートアドレスを入力します。 **手動設定** インターネット側(IPv4)のIPアドレスを手動で設定したい場合に選択します。 **メモ:** 「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」、「クロスパス」をお使いの場合で、本設定を選択しても接続できない場合は、「IPv6」(P.117)で「NDプロキシを使用する」に設定してください。 それでも接続できない場合は、「IPv6」(P.117)で「IPv6ブリッジを使用する」に設定してください。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。
DNS(ネーム)サーバーアドレス	DNSサーバーのIPアドレスを指定します。
Internet側MACアドレス	インターネット側のMACアドレスを設定します。 **メモ:** 不適切なMACアドレスを設定すると、本製品だけでなく、ネットワーク上のほかの機器も使用できなくなる場合があります。この設定は、お客様の責任において行ってください。
Internet側MTU値	インターネットポートで通信を行うときに使用するMTUを578～1500バイトの範囲で設定します。

※「transix」は、インターネットマルチフィード株式会社の登録商標です。
※「v6プラス」は、株式会社JPIXの登録商標です。
※「OCNバーチャルコネクト」は、NTTコミュニケーションズ株式会社の商標です。

※「クロスパス」は、アルテリア・ネットワークス株式会社の商標または登録商標です。

PPPoE

PPPoEの設定画面です。

Internet　＞　PPPoE（ルーターモード時のみ）

項目	内容
デフォルトの接続先	PPPoE接続先リストで複数の接続先を登録している場合、ここで選択した接続先が優先されます。デフォルト以外の接続先を用いるときは、PPPoEの接続先経路設定を別途行う必要があります。
PPPoE接続先リスト	PPPoEの接続先の編集ができます。最大5セッションまで登録可能です。
接続先の編集	クリックすると、接続先の設定を編集する画面が表示されます。

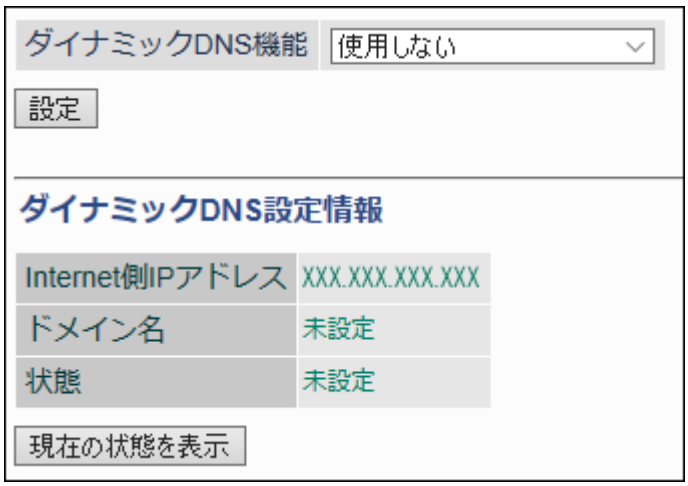
項目	内容
PPPoE接続先リスト	[接続先の編集]をクリックすると表示されます。 **接続先名称** 接続先を識別するための名称を32文字までの半角英数字記号で入力します。 **接続先ユーザー名** PPPoEの認証に使用するプロバイダー指定のユーザー名を64文字までの半角英数字記号で設定します。 **接続先パスワード** PPPoEの認証に使用するプロバイダー指定のパスワードを64文字までの半角英数字記号で設定します。 **サービス名** プロバイダーからサービス名の指定がある場合のみ64文字までの半角英数字記号で設定します。 プロバイダーから指定されなければ、空欄のままにします。 **接続方法** 本製品がプロバイダーに接続するタイミングを指定します。 **自動切断** 接続方法が「オンデマンド接続」または「手動接続」のときに、通信が停止してから、回線の使用を停止するまでの時間を0～1440分の範囲で設定します。 **認証方法** プロバイダーとの認証方法を設定します。 **MTU値** PPPoEで通信を行うときに使用するMTU値を578～1492バイトの範囲で設定します。 **MRU値** PPPoEで通信を行うときに使用するMRU値を578～1492バイトの範囲で設定します。 **キープアライブ** 有効にすると、本製品はPPPoEサーバーとの接続を維持するためにLCPエコーリクエストを1分に1度発行します。このとき、6分以上サーバーの応答がない場合は、回線が切断されたものと判断し、接続をいったん切断します。頻繁にPPPoE接続が切断される場合は、キープアライブに応答を返さないサーバーである可能性があるため、無効に設定してください。
接続先経路の表示	接続先経路を設定すると、設定した情報が表示されます。
接続先経路の編集	クリックすると、接続先経路を編集する画面が表示されます。
接続先経路の新規追加	[接続先経路の編集]をクリックすると表示されます。 **接続先** 「宛先アドレス」や「送信元アドレス」が一致する通信の場合にPPPoE接続を行う接続先です。PPPoE接続先リストに登録されている接続先から選択します。 **宛先アドレス** 通信の宛先アドレスです。このアドレス宛へ通信を行うと、設定した「接続先」へ通信します。 **送信元アドレス** 通信の送信元アドレスです。この送信元アドレスから通信を行うと、設定した「接続先」へ通信します。

Dynamic DNS

ダイナミックDNSに関する設定を行う画面です。

メモ:「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」、「クロスパス」などのサービスをお使いの場合、ダイナミックDNSは使用できません。

Internet　＞　Dynamic DNS（ルーターモード時のみ）



項目	内容
ダイナミックDNS機能	ダイナミックDNSサービスプロバイダーを「BUFFALOダイナミックDNS」、「DynDNS」、「No-IP」から選択します。
登録/変更設定 （BUFFALOダイナミックDNS選択時のみ）	［登録/設定変更を行う］をクリックすると、バッファローサイトに接続します。画面上の手続きに従って、BUFFALOダイナミックDNSサービスの登録を行ってください。
登録ユーザーID （BUFFALOダイナミックDNS選択時のみ）	BUFFALOダイナミックDNSサービスに登録されているユーザーIDが表示されます。
登録情報の削除 （BUFFALOダイナミックDNS選択時のみ）	［登録情報を削除する］をクリックすると、BUFFALOダイナミックDNSサービスの登録情報が削除されます。
ユーザー名 （DynDNS選択時のみ）	DynDNSに登録したユーザー名を入力します。
パスワード （DynDNS/No-IP選択時のみ）	DynDNSまたはNo-IPに登録したパスワードを入力します。
ホスト名 （DynDNS/No-IP選択時のみ）	DynDNSまたはNo-IPに登録したホスト名を入力します。
Emailアドレス （No-IP選択時のみ）	No-IPに登録したEmailアドレスを入力します。
IPアドレス更新周期 （DynDNS/No-IP選択時のみ）	IPアドレスを通知する周期を指定します。
強制更新を行う （No-IP選択時のみ）	有効にすると、IPアドレスが変更されていなくても通知を行います。
Internet側IPアドレス	InternetポートのIPアドレスが表示されます。

項目	内容
ドメイン名	ダイナミックDNSサービスプロバイダーから割り当てられたドメイン名が表示されます。
状態	ダイナミックDNSサービスの状態が表示されます。

アドレス変換

アドレス変換の設定画面です。

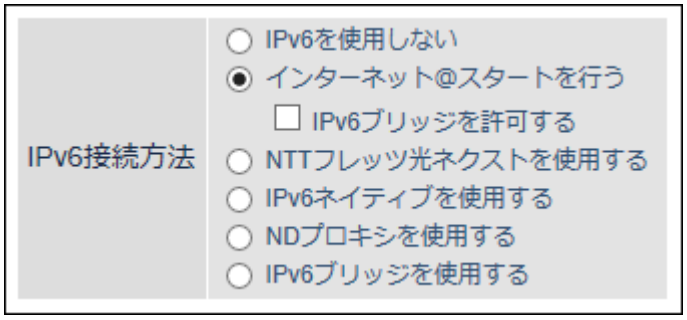
Internet　＞　アドレス変換（ルーターモード時のみ）

項目	内容
アドレス変換	アドレス変換機能を使用するかどうかを設定します。
拡張設定	「表示する」を選択すると、アドレス変換の拡張設定項目が表示されます。
TCPタイムアウト時間	TCP通信におけるNATテーブルの保持期間を300～86400秒（1日）の範囲で設定します。 NATテーブルの不足により通信できなくなる場合に、TCPタイムアウト時間を短くするとで解決できることがあります。 ただし、TCPタイムアウト時間を短くした場合、ゲームなどの通信で切断が発生することがあります。

IPv6

IPv6の接続設定画面です。

Internet　＞　IPv6（ルーターモード時のみ）



項目	内容
IPv6接続方法	IPv6での接続方法を指定します。ご利用の回線がどの接続方法を採用しているかは、お使いのプロバイダーへ確認してください。 **IPv6を使用しない** インターネット回線がIPv6に対応していないときに選択します。 **インターネット@スタートを行う** インターネット回線の種類を自動的に判別し、インターネットに接続するまでの設定を自動的に行います。 IPv6 PPPoEには対応していません。 「IPv6ブリッジを許可する」にチェックを入れると、インターネット@スタートの自動判別で「IPv6ブリッジを使用する」が選択される場合があります。 **NTTフレッツ光ネクストを使用する** プレフィックス長が64ビットより短いNTTフレッツ 光ネクスト回線をお使いの場合に選択します（本設定は、通常は使用しません）。 **IPv6ネイティブを使用する** 後述の「IPv6プレフィックス取得方法」を設定する必要がある場合に選択します。 **NDプロキシを使用する** 下記の「IPv6ブリッジを使用する」よりもセキュリティーを高めた動作モードで、インターネット側とLAN側の間のIPv6通信に対して、ファイアウォールやIPv6フィルターを適用します。 「ひかりTV」などのフレッツIPv6サービスを利用する場合に選択します。 **IPv6ブリッジを使用する** インターネット側とLAN側の間のIPv6通信に対して、ファイアウォールやIPv6フィルターを使用できない場合に選択します。 **メモ:** IPv6ブリッジを使用すると、インターネット側から本製品に接続している機器にアクセスできる場合があります。本製品に接続している機器のセキュリティー設定を確認した上でご使用ください。
IPv6ブリッジを許可する	この項目にチェックが入っていると、「インターネット@スタートを行う」を選択している際、インターネットとLANの間でIPv6パケットが通過できる「IPv6ブリッジ」が選択されることがあります。

項目	内容
IPv6プレフィックス取得方法	「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 IPv6アドレスのプレフィックスを取得する方法を以下から選択します。 **自動取得（DHCPv6-PD）** DHCPv6サーバーから自動的にIPv6プレフィックスを取得します。 **手動設定** IPv6プレフィックスを手動で入力します。グローバルプレフィックスを入力し、プレフィックス長を選択します。 **メモ:** IPv6プレフィックス取得方法を「手動設定」にした場合は、必ずIPv6デフォルトゲートウェイを設定してください。
LAN側IPv6アドレス自動配布方法	「NTTフレッツ光ネクストを使用する」または「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 LAN側ネットワークにIPv6アドレスを配布する方法を指定します。 **ステートレスアドレス自動設定で配布** Router Advertiseプロトコルを用いて、各ホストにアドレスを自動で配布します。 **DHCPv6サーバーで配布** DHCPv6サーバー機能を利用して、各ホストにアドレスを自動で配布します。この方法を選択する場合は、DHCPv6サーバーがアドレスを配布する時間、配布するアドレスの範囲を「リース期間」「リース範囲」にそれぞれ設定します。
IPv6デフォルトゲートウェイ	「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 デフォルトゲートウェイとなるIPv6アドレスを入力します。 **メモ:** IPv6プレフィックス取得方法を「自動取得」にしている場合は設定する必要はありません。「手動設定」にしている場合は、正しく入力しないとIPv6ネットワークと正しく接続できなくなります。
LAN側サブネットID	「NTTフレッツ光ネクストを使用する」または「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 LAN側ネットワークのサブネットIDを16進数で入力します。
LAN側インターフェースID	「NTTフレッツ光ネクストを使用する」または「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 本製品のグローバルアドレスのインターフェースIDを設定します。
DNSサーバーの通知	「NTTフレッツ光ネクストを使用する」または「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 IPv6アドレスがリースされた機器に対して通知するDNSサーバーのIPv6アドレスを設定します。

LAN

LAN側ポートの設定画面です。

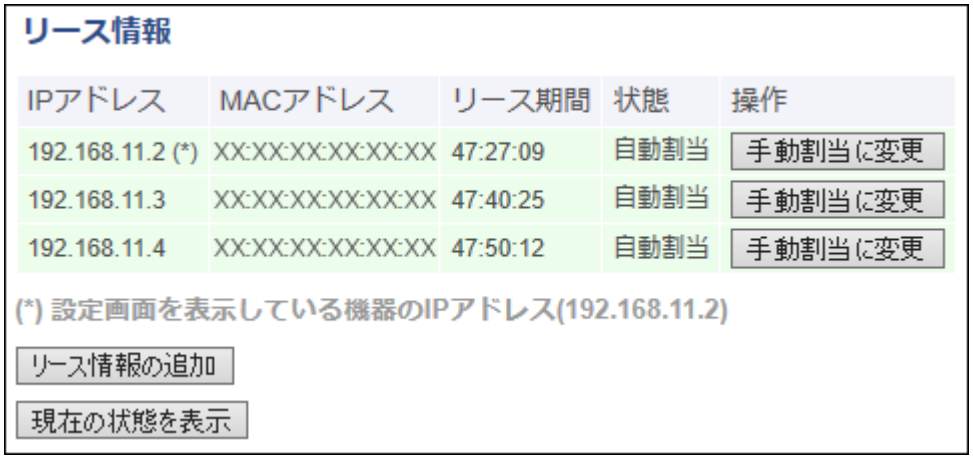
LAN　＞　LAN

項目	内容
LAN側IPアドレス	LAN側IPアドレスとサブネットマスクを設定します。
DHCPサーバー機能	DHCPサーバー(IPアドレス自動割り当て)機能を使用するかどうかを設定します。
割り当てIPアドレス	DHCPサーバー機能で割り当てるIPアドレスの範囲とその範囲から除外するIPアドレスを設定します。
拡張設定	「表示する」を選択すると、DHCPサーバーの拡張設定項目が表示されます。
リース期間	DHCPサーバー機能で割り当てたIPアドレスの有効期間を設定します。
デフォルトゲートウェイの通知	DHCPサーバー機能で通知するデフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。
DNSサーバーの通知	DHCPサーバー機能で通知するDNSサーバーのIPアドレスを設定します。
WINSサーバーの通知	DHCPサーバー機能で通知するWINSサーバーのIPアドレスを設定します。
ドメイン名の通知	DHCPサーバー機能で通知するドメイン名を設定します。

DHCPリース

DHCPリースの設定画面です。

LAN　＞　DHCPリース（ルーターモード時のみ）

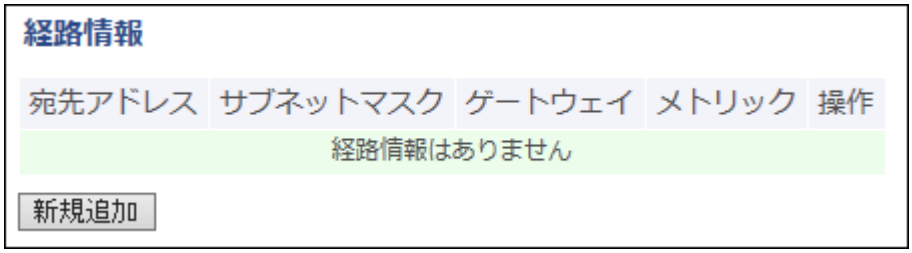


項目	内容
リース情報	現在のリース情報が表示されます。 自動リースされたIPアドレスは、[手動割当に変更]をクリックすると、手動リースに変更できます。
[リース情報の追加]	クリックすると、リース情報の追加画面が表示されます。
リース情報の新規追加	[リース情報の追加]をクリックすると表示されます。 **IPアドレス** 手動リースするIPアドレスを入力します。本製品のLANポートのネットワークアドレスに含まれないIPアドレスは設定できません。 **MACアドレス** 機器を識別するMACアドレスを入力します。

経路情報

本製品が行う通信のIP経路の設定画面です。

LAN　＞　経路情報



項目	内容
宛先アドレス	ルーティングテーブルに追加する宛先IPアドレスとサブネットマスクを表示します。
ゲートウェイ	ルーティングテーブルに追加するゲートウェイのアドレスを表示します。
メトリック	ルーティングテーブルに追加するメトリック(宛先アドレスまでに越えるルーター数)を表示します。
経路情報	手動で追加したルーティングテーブルを確認できます。
[新規追加]	クリックすると、経路情報の追加画面が表示されます。
経路の新規追加	[新規追加]をクリックすると表示されます。 **宛先アドレス** ルーティングテーブルに追加する宛先IPアドレスとサブネットマスクを設定します。 **ゲートウェイ** ルーティングテーブルに追加するゲートウェイのアドレスを設定します。 **メトリック** ルーティングテーブルに追加するメトリック(宛先アドレスまでに越えるルーター数)を設定します。

2.4GHz(11ax/n/g/b)

2.4GHz(11ax/n/g/b)無線の設定画面です。

無線設定　＞　2.4GHz(11ax/n/g/b)

[基本設定]

無線機能	☑使用する
無線チャンネル	自動 (現在のチャンネル: 5)
倍速モード	帯域 : 286 Mbps (20 MHz) (Current: 20 MHz) 拡張チャンネル 4
ANY接続	☑許可する

SSID1

SSID1	☑使用する
隔離機能	☐使用する
SSID	◉ エアステーションのMACアドレスを設定 (Buffalo-G-XXXX) ○ 値を入力:
無線の認証	WPA2 Personal
無線の暗号化	AES
WPA-PSK(事前共有キー)	xxxxxxxxxxxxx
Key更新間隔	0 分

SSID2

SSID2	☑使用する
隔離機能	☐使用する
SSID	◉ エアステーションのMACアドレスを設定 (Buffalo-G-XXXX-WPA3) ○ 値を入力:
無線の認証	WPA3 Personal
無線の暗号化	AES
WPA-PSK(事前共有キー)	xxxxxxxxxxxxx
Key更新間隔	0 分

項目	内容
無線機能	無線機能を使用するかどうかを設定します。
無線チャンネル	無線で使用するチャンネル(周波数帯)を設定します。「自動」に設定すると、電波混雑防止機能により、自動的に最適なチャンネルが設定されます。 手動でチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。
倍速モード	無線通信で使用する帯域を設定します。高速な通信を行う場合は、帯域を573Mbps(40MHz)に設定します。
ANY接続	チェックを外すと、無線機器からSSIDを検索できないようにし、本製品の存在を第三者に知られにくくします。

項目	内容
SSID 1 ～ SSID 5	**SSID 1** WPA2 Personal、WPA/WPA2 Personal、および認証を行わない無線用のSSIDです。 **SSID 2** WPA3 Personal、WPA2/WPA3 Personal用のSSIDです。 **SSID 3** WEP専用のSSIDです。 **SSID 4、SSID 5** 無線引っ越し機能を使用して無線設定を引き継いでいる場合に表示されます。 **メモ:** お使いの機器やOSによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。
隔離機能	設定を有効にすると、そのSSIDに接続している機器はインターネット側とだけ通信可能になります。
SSID	SSIDを半角英数字記号で32文字までで設定します。
無線の認証	各SSIDの認証方式を以下から選択します。 **WPA2 Personal** WPA2に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定された機器だけが通信できます。 **WPA/WPA2 Personal** WPAまたはWPA2に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定された機器だけが通信できます。 **WPA3 Personal** WPA3に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定された機器だけが通信できます。 **WPA2/WPA3 Personal** WPA2またはWPA3に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定された無線機器だけが通信できます。 **認証を行わない** 機器との無線接続の際に認証を行いません。
無線の暗号化	無線通信のデータ暗号化の種類を以下から選択します。 **AES** 暗号化の方式にAESを使用します。 **TKIP/AES mixed mode** 暗号化の方式にTKIPとAESを使用します。 **暗号化なし** 暗号化を行わずに通信します。通信内容が盗聴される恐れがありますので暗号化なしでのご使用は避けてください。

項目	内容
WPA-PSK（事前共有キー）	SSID1とSSID2において、機器との認証で使用する事前共有キー（暗号化キー）を入力します。入力できる事前共有キーは、SSIDごとに異なります。 **SSID1の事前共有キー** 文字列入力の場合、半角英数字（大文字/小文字の区別あり）を8～63文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の64桁で入力します。 **SSID2の事前共有キー** 半角英数字（大文字/小文字の区別あり）を1～64文字で入力します。 **メモ:** 安全のため、事前共有キーは次のように設定することをおすすめします。 • SSID1とSSID2で、別々の事前共有キーを設定する。 • 事前共有キーは、一般的な単語を避けて十分長い文字列を設定する。
Key更新間隔	通信用暗号化キーを更新する間隔を0～1440分の範囲で設定します。
WEP暗号化キー設定	無線を暗号化する暗号化キーを入力します。 WEP暗号化キーは、文字列入力の場合、半角英数字（大文字/小文字の区別あり）を5文字または13文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の10桁または26桁で入力します。
Multicast Rate	マルチキャストパケットの通信速度を設定します。
802.11nプロテクション	従来規格（11g/11b）の機器が混在している環境でも、コリジョンなどによって性能が低下しないようにする802.11nプロテクションを使用するかどうかを設定します。
DTIM Period	機器に通知するビーコン応答間隔（1～255）の設定をします。機器のパワーマネージメント設定を有効にした場合のみ、この設定が有効になります。
プライバシーセパレーター	無線による機器間の通信を許可するかどうかを設定します。 「使用する」に設定すると、本製品に無線接続している機器同士が通信できなくなります。 本製品に有線で接続している機器と、ほかの機器は通信できます。
送信出力	本製品が無線送信を行うときの電波送信出力を設定します。
ビームフォーミングEX	有効にすると、本製品に無線接続している機器の位置を自動的に判別し、電波を最適に届けるよう調整します。通常は有効にしたままご使用ください。
802.11ax MU-MIMO	複数の802.11ax対応機器が接続している場合に、802.11ax規格のMU-MIMOによる通信を行うかどうかを設定します。「使用する」に設定すると、複数の802.11ax対応機器と同時通信を行う場合に通信速度の向上や応答速度の改善が見込めます。 **メモ:** 「使用する」に設定後、802.11ax対応機器の同時通信時に通信速度が安定しない、通信速度が低下するなどの現象が発生した場合は、「使用する」のチェックを外してください。

5GHz(11ax/ac/n/a)

5GHz(11ax/ac/n/a)無線の設定画面です。

無線設定　＞　5GHz(11ax/ac/n/a)

[基本設定]

無線機能	☑ 使用する
無線チャンネル	自動 (現在のチャンネル: 140) ※DFSありの場合、気象レーダー等を感知すると自動的にチャンネルが変更されます
倍速モード	帯域 : 4803 Mbps (160 MHz) (Current: 160 MHz)
ANY接続	☑ 許可する

SSID1

SSID1	☑ 使用する
隔離機能	☐ 使用する
SSID	◉ エアステーションのMACアドレスを設定 (Buffalo-A-XXXX) ○ 値を入力:
無線の認証	WPA2 Personal
無線の暗号化	AES
WPA-PSK(事前共有キー)	xxxxxxxxxxxxx
Key更新間隔	0 分

SSID2

SSID2	☑ 使用する
隔離機能	☐ 使用する
SSID	◉ エアステーションのMACアドレスを設定 (Buffalo-A-XXXX-WPA3) ○ 値を入力:
無線の認証	WPA3 Personal
無線の暗号化	AES
WPA-PSK(事前共有キー)	xxxxxxxxxxxxx
Key更新間隔	0 分

項目	内容
無線機能	無線機能を使用するかどうかを設定します。
無線チャンネル	無線で使用するチャンネル(周波数帯)を設定します。DFSに対応したチャンネルを設定した場合は、本製品が気象レーダーなどを感知すると、自動的にチャンネルが変更されます。 「自動」に設定すると電波混雑防止機能により、自動的に最適なチャンネルが設定されます。
倍速モード	無線通信で使用する帯域を設定します。高速な通信を行う場合は、帯域を4803Mbps(160MHz)に設定してください。
ANY接続	チェックを外すと、無線機器からSSIDを検索できないようにし、本製品の存在を第三者に知られにくくします。

項目	内容
SSID 1 ～ SSID 5	**SSID 1** WPA2 Personal、WPA/WPA2 Personal、および認証を行わない無線用のSSIDです。 **SSID 2** WPA3 Personal、WPA2/WPA3 Personal用のSSIDです。 **SSID 3** WEP専用のSSIDです。 **SSID 4、SSID 5** 無線引っ越し機能を使用して無線設定を引き継いでいる場合に表示されます。 **メモ:** お使いの機器やOSによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。
隔離機能	設定を有効にすると、そのSSIDに接続している機器はインターネット側とだけ通信可能になります。
SSID	SSIDを半角英数字記号で32文字までで設定します。
無線の認証	各SSIDの認証方式を以下から選択します。 **WPA2 Personal** WPA2に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定された機器だけが通信できます。 **WPA/WPA2 Personal** WPAまたはWPA2に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定された機器だけが通信できます。 **WPA3 Personal** WPA3に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定された機器だけが通信できます。 **WPA2/WPA3 Personal** WPA2またはWPA3に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定された無線機器だけが通信できます。 **認証を行わない** 機器との無線接続の際に認証を行いません。
無線の暗号化	**AES** 暗号化の方式にAESを使用します。 **TKIP/AES mixed mode** 暗号化の方式にTKIPとAESを使用します。 **暗号化なし** 暗号化を行わずに通信します。通信内容が盗聴される恐れがありますので暗号化なしでのご使用は避けてください。

項目	内容
WPA-PSK（事前共有キー）	SSID1とSSID2において、機器との認証で使用する事前共有キー（暗号化キー）を入力します。入力できる事前共有キーは、SSIDごとに異なります。 **SSID1の事前共有キー** 文字列入力の場合、半角英数字（大文字/小文字の区別あり）を8～63文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の64桁で入力します。 **SSID2の事前共有キー** 半角英数字（大文字/小文字の区別あり）を1～64文字で入力します。 **メモ:** 安全のため、事前共有キーは次のように設定することをおすすめします。 • SSID1とSSID2で、別々の事前共有キーを設定する。 • 事前共有キーは、一般的な単語を避けて十分長い文字列を設定する。
Key更新間隔	通信用暗号化キーを更新する間隔を0～1440分の範囲で設定します。
WEP暗号化キー設定	無線を暗号化する暗号化キーを入力します。 WEP暗号化キーは、文字列入力の場合、半角英数字（大文字/小文字の区別あり）を5文字または13文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の10桁または26桁で入力します。
Multicast Rate	マルチキャストパケットの通信速度を設定します。
802.11nプロテクション	従来規格の機器が混在している環境でも、コリジョンなどによって性能が低下しないようにする802.11nプロテクションを使用するかどうかを設定します。
DTIM Period	機器に通知するビーコン応答間隔（1～255）の設定をします。機器のパワーマネージメント設定を有効にした場合のみ、この設定が有効になります。
プライバシーセパレーター	無線による機器間の通信を許可するかどうかを設定します。 「使用する」に設定すると、本製品に無線接続している機器同士が通信できなくなります。 本製品に有線で接続している機器と、ほかの機器は通信できます。
送信出力	本製品が無線送信を行うときの電波送信出力を設定します。
ビームフォーミングEX	有効にすると、本製品に無線接続している機器の位置を自動的に判別し、電波を最適に届けるよう調整します。通常は有効にしたままご使用ください。
802.11ax MU-MIMO	複数の802.11ax対応機器が接続している場合に、802.11ax規格のMU-MIMOによる通信を行うかどうかを設定します。「使用する」に設定すると、複数の802.11ax対応機器と同時通信を行う場合に通信速度の向上や応答速度の改善が見込めます。 **メモ:** 「使用する」に設定後、802.11ax対応機器の同時通信時に通信速度が安定しない、通信速度が低下するなどの現象が発生した場合は、「使用する」のチェックを外してください。

バンドステアリングLite

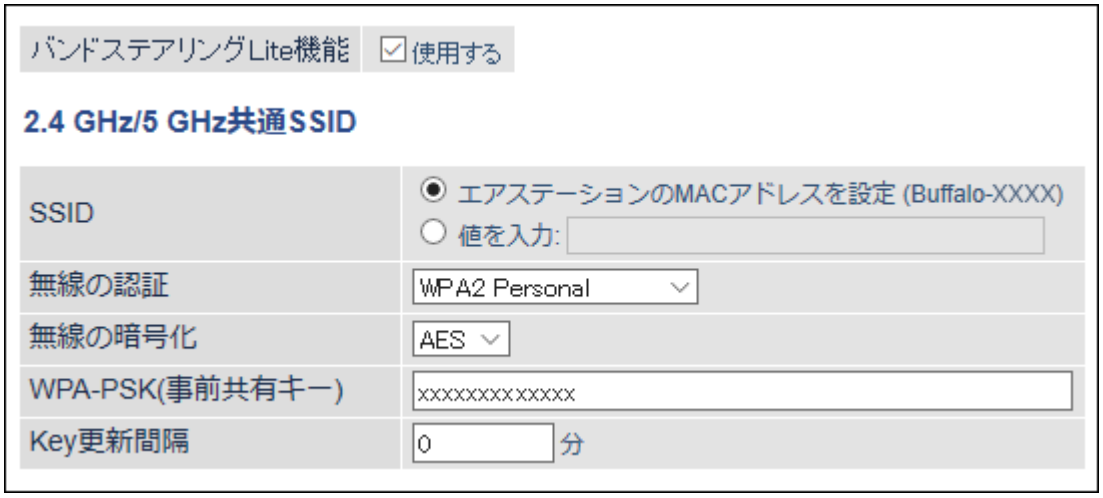
バンドステアリングLiteに関する設定を行う画面です。
バンドステアリングLiteは、本製品が機器との電波強度と対応バンド（帯域）をチェックして、最適なバンドに自動的に接続できるように機器を誘導する機能です。

メモ: 本機能を使用すると、本製品に接続している機器がすべて切断されます。本機能設定後は、以下を参考にしてもう一度無線接続を行ってください。

- 「AOSSで接続する方法」（P.36）
- 「WPSで接続する方法」（P.37）
- 「暗号化キーを使って接続する方法（手動設定）」（P.34）

SSIDや暗号化キーは、この画面で設定したものを使用してください。

無線設定　＞　バンドステアリングLite（ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ）



項目	内容
バンドステアリングLite機能	バンドステアリングLiteを使用するかどうかを設定します。
SSID	バンドステアリングLiteで使用する2.4GHzと5GHzの共通SSIDを作成します（半角英数字または記号で32文字まで）。
無線の認証	共通SSIDの認証方式を以下から選択します。 **認証を行わない** 機器との無線接続の際に認証を行いません。 **WPA2 Personal** WPA2に準拠した認証を行います。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。 **WPA/WPA2 Personal** WPAまたはWPA2に準拠した機器の認証を行います。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。

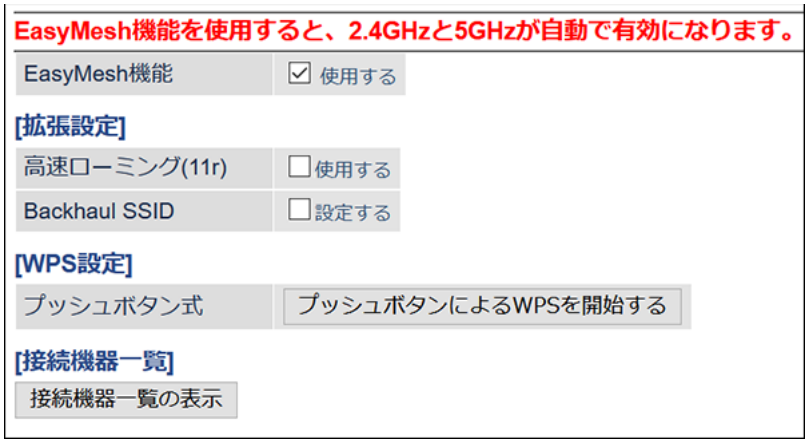
項目	内容
無線の暗号化	無線通信のデータ暗号化の種類です。 無線の認証を設定すると、本項目も自動的に設定されます。 **暗号化なし** 暗号化を行わずに通信します。通信内容が盗聴される恐れがありますので暗号化なしでのご使用は避けてください。 無線の認証で「認証を行わない」を選択した場合のみ使用可能です。 **AES** 暗号化の方式にAES（強固な次世代暗号化方式）を使用します。事前共有キーを使用して機器と無線通信します。 無線の認証で「WPA Personal」、「WPA2 Personal」を選択した場合のみ使用可能です。 **TKIP/AES mixedmode** TKIP、AESの認証・通信を同時に行うことができます。 無線の認証で「WPA/WPA2-mixed mode」を選択した場合のみ使用可能です。
WPA-PSK（事前共有キー）	機器との認証で使用する事前共有キーを入力します。 事前共有キーは、文字列入力の場合、半角英数字（大文字/小文字の区別あり）を8～63文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の64桁で入力します。
Key更新間隔	通信用暗号化キーを更新する間隔を0～1440分の範囲で設定します。

EasyMesh/中継機能(WB)

EasyMeshまたは中継機能(WB)の設定を行う画面です。

無線設定　＞　EasyMesh(ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ)

●ルーターモード時/アクセスポイントモード時の画面



項目	内容
EasyMesh機能	「EasyMesh機能」の有効/無効を設定します。
高速ローミング(11r)	「高速ローミング(11r)機能」の有効/無効を設定します。 **メモ:** 通信中に移動した場合でも電波を途切れにくくしたいときは、[使用する]に設定してください。お使いの端末によっては、[使用する]に設定すると、接続が失敗する場合や、接続が不安定になることがあります。そのようなときは、[使用する]のチェックを外して[設定]をクリックしてください。
Backhaul SSID	メッシュネットワークでのBackhaul SSIDを設定します。
プッシュボタンによるWPSを開始する	このボタンをクリックすると、WPS待ち受け状態になります。
接続機器一覧の表示	メッシュネットワーク内にある、コントローラとエージェントの情報を一覧表示します。

無線設定　＞　EasyMesh/中継機能(WB)(中継動作時のみ)

●中継動作時の画面

項目	内容
接続状態	中継機能の状態を表示します。

項目	内容
SSID	本製品の接続先のSSIDが表示されます。
セキュリティー	接続先との接続で使用しているセキュリティーの種類が表示されます。
接続バンド	2.4GHz、5GHzどちらの帯域の電波を使用しているかが表示されます。
MACアドレス	Wi-Fiルーターに接続する際の2.4GHzと5GHzのMACアドレスが表示されます。MACアクセス制限を使用する場合、こちらのMACアドレスをWi-Fiルーターに登録します。
Wi-FiルーターとのWPSを開始する	Wi-FiルーターのWPSボタンを押してからこのボタンをクリックすると、Wi-FiルーターとのWPS接続を行います。
手動設定をする	ボタンをクリックすると、本製品周辺のWi-Fiルーターが検索されます。 接続したいWi-Fiルーターを選択し、暗号化キーを入力すると、接続処理が完了します。
PINを使用したWPSを開始する	接続に必要なPINコードが発行され、本製品周辺のWi-Fiルーターが検索されます。接続したいWi-Fiルーターを選択して[PIN実行]をクリックすると、本製品はWPSの待ち受け状態になります。 接続先のWi-Fiルーターに対して、2分以内にPINコードを登録すると、接続処理が完了します。
端末とのWPSを開始する	本製品に接続する端末でWPS接続を開始してからこのボタンをクリックすると、端末とのWPS接続を行います。
高速ローミング（11r）	EasyMeshでの接続において、高速ローミング（11r）を使用します。 **メモ:** 通信中に移動した場合でも電波を途切れにくくしたいときは、[使用する]に設定してください。お使いの端末によっては、[使用する]に設定すると、接続が失敗する場合や、接続が不安定になることがあります。そのようなときは、[使用する]のチェックを外して[設定]をクリックしてください。
5GHz/2.4GHz 選択	接続先と接続する際の優先順位を設定します。
無線LAN親機設定	「接続時に中継機能の設定で動作する」にチェックを入れると、本製品は、接続先に設定されているSSIDと暗号化の設定を引き継ぎます。

WPS

WPSの設定や状況を確認する画面です。

無線設定　＞　WPS（ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ）

項目	内容
WPS機能	WPS機能を使用するかどうかを設定します。 **メモ:**「ANY接続」を無効にしている周波数帯では、WPSを実行できません。
外部Registrar	WPS機能を使用する際に、外部Registrarからのconfigure要求を受け付けるかどうかを設定します。 AOSS接続を行うと、外部Registrarの要求を受け付けなくなります。
エアステーションのPINコード	本製品のPINコードが表示されます。[PIN生成]をクリックすると、新しいPINコードが生成されます。
EnrolleeのPINコード	機器のPINコードを入力して[OK]をクリックすると、本製品の内部Registrarが、そのPINコードを持つ機器からの接続要求を受け付ける状態になります。
WPS用無線セキュリティー設定	本製品のWPS状態と現在設定されているSSID、セキュリティー、暗号鍵が表示されます。

AOSS

AOSSの設定や状況を確認する画面です。

無線設定　＞　AOSS（ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ）

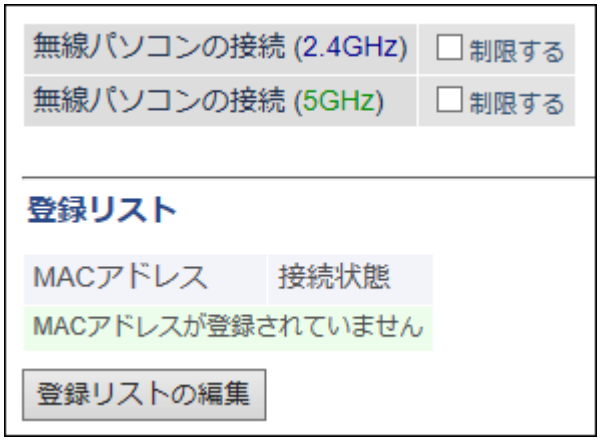
項目	内容
AOSS状態	現在のAOSSの状態を表示します。AOSS有効時に、 をクリックすると、AOSS接続が解除されます（その際、SSIDや暗号化キーもAOSSを使用する前の値に戻ります）。
WEPをゲーム専用にする	設定を有効にすると、本製品にWEPで接続できる機器は、WEPのみをサポートした機器となり、WPA（またはWPA2）とWEPの両方に対応した機器は、WEPでは接続できなくなります。
本体側AOSSボタン	「使用する」のチェックを外した場合は、本製品のAOSSボタンを押してもAOSS接続は実行されず、WPS接続のみが実行されます。

項目	内容
AOSS接続先情報	本製品とAOSS接続した機器、および本製品と無線通信中の機器の情報が表示されます。 **接続先情報** 本製品とAOSS接続した機器、および本製品と無線通信中の機器の名称が表示されます。 **MACアドレス** 本製品とAOSS接続した機器、および本製品と無線通信中の機器のMACアドレスが表示されます。 **対応暗号化方式** 本製品とAOSS接続した機器、および本製品と無線通信中の機器の対応可能な暗号化の種類が表示されます。 **無線** 現在、接続している無線方式が表示されます。 **AOSS** AOSSで接続しているときに表示されます。

MACアクセス制限

機器からのアクセス制限を設定する画面です。

無線設定　＞　MACアクセス制限

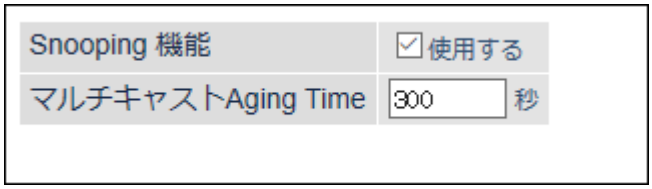


項目	内容
無線パソコンの接続	機器からの接続を制限するかどうかを設定します。
登録リスト	MACアクセス制限で、接続を許可する機器のMACアドレスが表示されます。 MACアドレスの登録は、[登録リストの編集]をクリックして行います。 **MACアドレス** MACアクセス制限で接続を許可するMACアドレスの一覧が表示されます。 **接続状態** リストに登録した機器が、現在接続しているかどうかを表示します。接続中であれば「○」、未接続であれば「×」が表示されます。
登録リストの編集	登録したMACアドレスを編集できます。 **MACアドレス** リストに登録した機器のMACアドレスが表示されます。 **操作** [修正]をクリックすると、登録したMACアドレスを修正できます。 [削除]をクリックすると、登録したMACアドレスが削除されます。
登録するMACアドレス	接続を許可する機器のMACアドレスを入力します。 [新規追加]をクリックすると、MACアドレスがリストに登録されます。
検出された無線パソコン一覧	本製品に接続している機器のMACアドレスをリストに登録できます。 **MACアドレス** 本製品に接続している機器のMACアドレスが表示されます。 **操作** [登録]をクリックすると、MACアドレスがリストに登録されます。[現在の状態を表示]をクリックすると、現在の状態が表示されます。

マルチキャスト制御

無線LANポートに不必要なマルチキャストパケットが転送されないように制限する設定を行う画面です。

無線設定　＞　マルチキャスト制御



項目	内容
Snooping機能	IGMPなどのマルチキャスト管理パケットを監視し、不必要な有線・無線各ポートへのマルチキャストの転送を抑制できる、マルチキャストSnooping（スヌーピング）機能を使用するかどうかを設定します。
マルチキャストAging Time	マルチキャストSnooping機能によって学習した情報を保持する時間を10～3600（秒）の範囲で設定します。IGMP/MLDクエリー間隔よりも十分に大きな値を入力する必要があります。

ゲストポート

来客用の無線接続ポート(ゲストポート)の設定を行う画面です。

メモ: ゲストポートに接続した機器は、IPv6通信できません。

無線設定　＞　ゲストポート(ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ)

項目	内容
ゲストポート機能	来客用にインターネット回線を提供するための「ゲストポート機能」の有効/無効を設定します。
ゲストユーザー認証機能	ゲストとして登録したユーザーだけが通信できるように認証を行うかどうかを設定します。
ゲストポート用LAN側IPアドレス	ゲストユーザーに提供するLAN側IPアドレスを設定します。手動設定の場合、[推奨値を設定する]をクリックすると、ゲストポート用LAN側IPアドレスの推奨値が入力されます。
ゲストポート用DHCPサーバー機能	ゲストユーザー用にDHCPサーバー(IPアドレス自動割り当て)機能を使用するかどうかを設定します。
利用可能時間	ゲストポート機能を有効にしてから無効になるまでの時間を設定します。指定した時間が経過すると自動的にゲストポート機能が無効になります。
SSID	ゲストユーザー用のSSIDを半角英数字記号で32文字以内で設定します。
無線の認証	ゲストユーザーが接続の際に使用する認証方式を指定します。
無線の暗号化	ゲストユーザーが接続の際に使用する暗号化方式を指定します。
WPA-PSK(事前共有キー)	ゲストユーザーが接続の際に使用する事前共有キーを指定します。

項目	内容
Key更新間隔	通信用暗号化キーの更新間隔を設定します。
ゲストユーザーの表示/操作	ゲストユーザーの編集を行うことができます。 **ユーザー名** ゲストユーザーの認証に使用するユーザー名を半角英数字記号64文字以内で登録します。 **パスワード** ゲストユーザーの認証に使用するパスワードを半角英数字記号64文字以内で登録します。

無線引っ越し機能

無線引っ越し機能を使用した際の無線設定の引き継ぎ状況を表示する画面です。

無線設定　＞　無線引っ越し機能

項目	内容
無線引っ越し状態	無線の引っ越しを実施したかどうかを表示します。
無線引っ越し機能用セキュリティー設定	無線引っ越し機能を使用して引き継いだ無線設定情報を表示します。
引っ越しした設定を全削除	クリックすると、無線引っ越し機能で引き継いだ無線設定をすべて削除します。

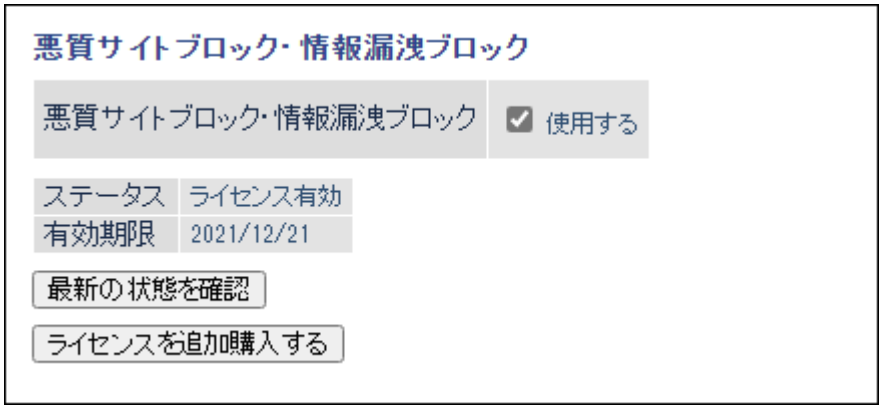
メモ:

- 無線の引っ越し方法は、製品に同梱の「セットアップガイド」を参照してください。
- 無線の引っ越しを実施した状態でもう一度無線の引っ越しを行いたい場合は、[引っ越しした設定を全削除]をクリックして設定を削除してから実施してください。

セキュリティー基本設定

ウイルスやマルウェアの通信を検知して遮断し、LAN側に接続された機器を保護する「悪質サイトブロック・情報漏洩ブロック」に関する設定を行う画面です。

ネット脅威ブロッカー　＞　セキュリティー基本設定



項目	内容
悪質サイトブロック・情報漏洩ブロック	有効にすると、ウイルスやマルウェアの通信を遮断します。
ステータス	悪質サイトブロック・情報漏洩ブロックのライセンスの状態を表示します。
有効期限	悪質サイトブロック・情報漏洩ブロックのライセンスの有効期限を表示します。有効期限が切れると本機能を利用できません。利用を継続する場合は、ライセンスを追加購入してください。
［最新の状態を確認］	クリックすると、画面を最新の状態に更新します。
［ライセンスの有効化］	ライセンスを有効化するための外部ページを表示します。ライセンスを有効化したら、［最新の状態を確認］をクリックして、ステータス欄でライセンスの状態を確認してください。
［ライセンスを追加購入する］	ライセンスを購入するための外部ページを表示します。ライセンスを購入したら、［最新の状態を確認］をクリックして、ステータス欄でライセンスの状態を確認してください。

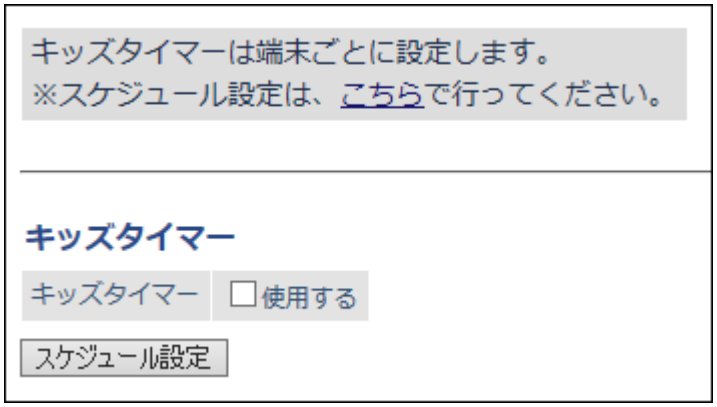
キッズタイマー

本製品に接続できる時間を機器ごとに制限する「キッズタイマー」の設定を行う画面です。

メモ:

- 本製品のファームウェアがバージョン1.02以前の場合、キッズタイマーの対象は、本製品に無線接続している端末のみです。有線（LANケーブル）で接続している端末は、対象外です。
- キッズタイマーとMACアクセス制限は同時に使用できません。MACアクセス制限を使用している場合は、以下の設定を行う前に無効にしてください。

セキュリティー　＞　キッズタイマー



項目	内容
キッズタイマー	キッズタイマー機能を使用するかどうかを設定します。
スケジュール設定	クリックすると、キッズタイマーの設定画面を表示します。

ファイアウォール

ファイアウォールの設定画面です。

セキュリティー　＞　ファイアウォール（ルーターモード時のみ）

項目	内容
ファイアウォール設定-IPv4	IPv4接続で簡易フィルターを使用するかどうかを設定します。 各フィルターの内容は以下のとおりです。 **NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する** 有効にすると、インターネット側からLAN側およびLAN側からインターネット側へのMicrosoftネットワーク共有機能は使用できなくなります。 **IDENTの要求を拒否する** 有効にすると、インターネット側からのIDENTの認証要求に対して拒否パケットを送ります。メール送信、ftp、ブラウザーなどのネットワークアプリケーションの通信が遅くなる場合に設定してください。アドレス変換設定で、IDENTの要求をLAN側パソコンに転送する設定（DMZまたはTCPポート：113）になっている場合、そちらの設定が優先され、この設定を有効にしても機能は動作しません。 **Internet側からのPINGに応答しない** 有効にすると、インターネット側からのPINGに応答しなくなります。 **メモ:** 「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」、「クロスパス」などのサービスをお使いの場合 • 本項目は設定変更できません。 • 本項目の回線側を含めた動作は、本項目の表示に関わらず回線仕様に従います。

項目	内容
ファイアウォール設定-IPv6	IPv6接続で簡易フィルターを使用するかどうかを設定します。 各フィルターの内容は以下のとおりです。 **Microsoft-DS/SMB2.0のルーティングを禁止する** 有効にすると、外部のWindowsパソコンとのIPv6を利用したWindowsファイル共有機能によるファイル共有を遮断します。 **IDENTの要求を拒否する** 有効にすると、インターネット側からのIDENTの認証要求に対して拒否パケットを送ります。メール送信、ftp、ブラウザーなどのネットワークアプリケーションの通信が遅くなる場合に設定してください。アドレス変換設定で、IDENTの要求をLAN側パソコンに転送する設定（DMZまたはTCPポート：113）になっている場合、そちらの設定が優先され、この設定を有効にしても機能は動作しません。 **Internet側からのPINGに応答しない** 有効にすると、インターネット側からのPINGに応答しなくなります。 **Internet側からの接続要求を転送しない** 有効にすると、インターネット側からの接続要求を遮断します。 **メモ:** 以下の場合は、ファイアウォールは動作しません。 • 「IPv6」（P.117）で、IPv6接続方法を「IPv6ブリッジを使用する」に設定している場合 • インターネット@スタートの自動判別で「IPv6ブリッジ」が選択された場合

IPフィルター

LAN側とInternet側の間で通過するパケットに関する、IPフィルターの編集を行う画面です。

セキュリティー　＞　IPフィルター（ルーターモード時のみ）

項目	内容
動作	対象パケットの処理方法を指定します。
方向	対象パケットの通信方向を指定します。
IPアドレス	対象パケットの送信元IPアドレスと宛先IPアドレスを指定します。
プロトコル	対象パケットのプロトコルを選択します。
IPフィルター登録情報	登録されているIPフィルターを一覧で表示します。

IPv6フィルター

LAN側とインターネット側の間で通過するパケットに関する、IPフィルターの編集を行う画面です。IPv6接続の場合はこの画面で設定を行ってください。

メモ: 以下の場合は、IPv6フィルターは動作しません。

- 「IPv6」(P.117)で、IPv6接続方法を「IPv6ブリッジを使用する」に設定している場合
- インターネット@スタートの自動判別で「IPv6ブリッジ」が選択された場合

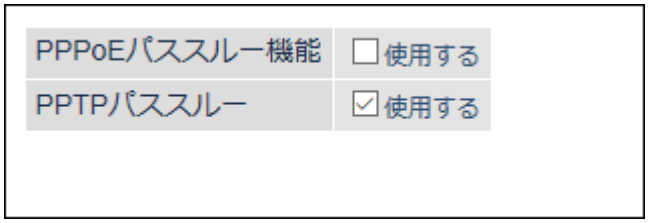
セキュリティー　＞　IPv6フィルター(ルーターモード時のみ)

項目	内容
動作	対象パケットの処理方法を指定します。
方向	対象パケットの通信方向を指定します。
IPアドレス	対象パケットの送信元IPアドレスと宛先IPアドレスを指定します。
プロトコル	対象パケットのプロトコルを選択します。
IPv6フィルター登録情報	登録されているIPフィルターを一覧で表示します。

パススルー

PPPoEパススルー、PPTPパススルーに関する設定画面です。

セキュリティー　＞　パススルー（ルーターモード時のみ）



項目	内容
PPPoEパススルー	PPPoEブリッジ機能を使用するかどうかを設定します。 PPPoEブリッジ機能を使用すると、PPPoEパケットがInternet － LAN間ですべて通過可能となり、LAN側に接続したパソコンでPPPoEプロトコルを使用してプロバイダーからIPアドレスを自動取得できるようになります。
PPTPパススルー	アドレス変換において、PPTPパススルー機能を使用するかどうかを設定します。 **メモ:** 「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」、「クロスパス」などのサービスをお使いの場合、PPTPパススルーは使用できません。

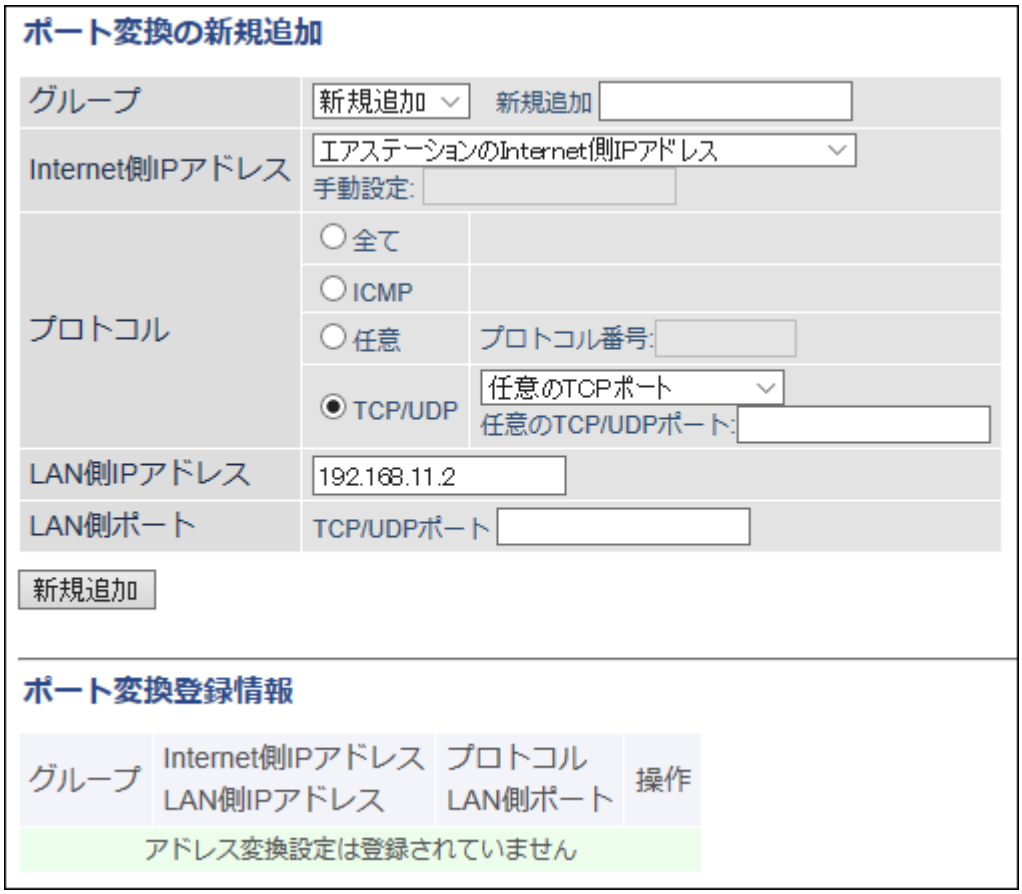
ポート変換

ポート変換に関する設定を行う画面です。

メモ:

- 「transix」、「クロスパス」をお使いの場合は、ポート変換できません。
- 「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合、回線仕様により、ポート変換設定をしても通信が転送されないことがあります。

セキュリティー　＞　ポート変換（ルーターモード時のみ）



項目	内容
利用可能ポート	インターネットへの接続方法によって利用できるポートが制限される場合、利用可能なポート番号が表示されます。
グループ	登録するルールが属するグループを指定します。[新規追加]を選択して新規グループ名を入力すると、新たなグループを作成します。英数字で16文字までのグループ名を付けられます。
Internet側IPアドレス	ポート変換テーブルに追加するInternet側（変換前）のIPアドレスを設定します。
プロトコル	ポート変換テーブルに追加するInternet側（変換前）のプロトコルを設定します。
LAN側IPアドレス	ポート変換テーブルに追加するLAN側（変換後）のIPアドレスを設定します。
LAN側ポート	ポート変換テーブルに追加するLAN側（変換後）のポート番号（1～65535）を設定します。
ポート変換登録情報	現在設定されているポート変換テーブルの有効/無効の指定を行います。

DMZ

LAN側からの通信と無関係な通信パケットの転送先を設定する画面です。

メモ:

- 「transix」、「クロスパス」をお使いの場合は、DMZを設定しても動作しません。
- 「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合、回線仕様により、DMZを設定しても通信が転送されないことがあります。

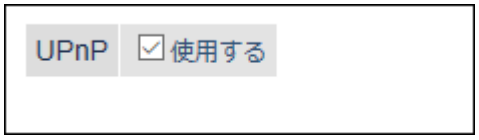
セキュリティー　＞　DMZ（ルーターモード時のみ）

項目	内容
DMZのアドレス	ポート変換テーブルに設定されていないパケットの転送先IPアドレスを設定します（RIPプロトコル（UDPポート番号520）のパケットは、転送されません）。

UPnP

UPnP（Universal Plug and Play）の設定画面です。

セキュリティー　＞　UPnP（ルーターモード時のみ）



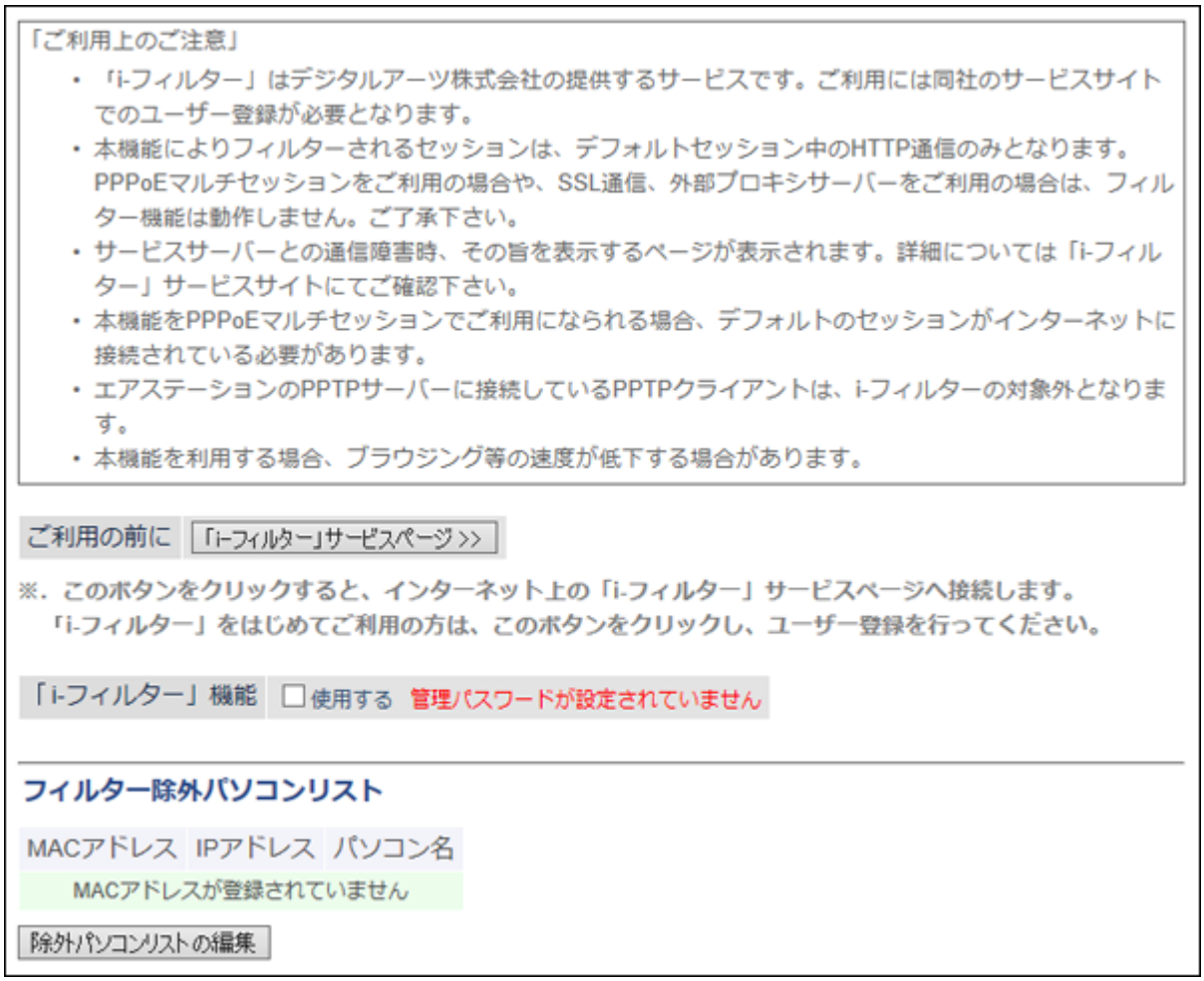
項目	内容
UPnP	Universal Plug and Play（UPnP）機能を使用するかどうかを設定します。

i-フィルター

ホームページの表示を許可/ブロックする「i-フィルター」に関する設定を行う画面です。

メモ: 「i-フィルター」は、IPv4通信にのみ対応しています。IPv6通信では使用できません。

セキュリティー　＞　i-フィルター（ルーターモード時のみ）

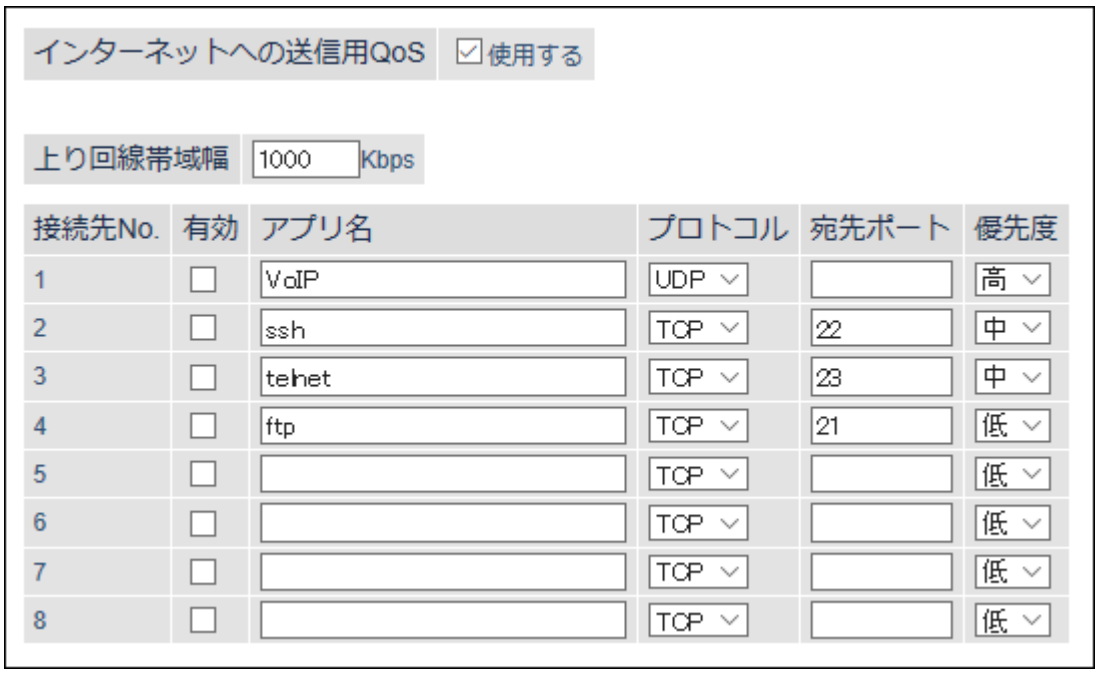


項目	内容
「i-フィルター」サービスページ >>	「i-フィルター」を利用するためのユーザー登録を行う機能です。
「i-フィルター」機能	チェックをすることで有効になります。無効時は他の設定機能を表示しません。管理パスワードの入力によって閲覧禁止が解除できるようになりますので管理パスワードの設定を推奨します。管理設定メニューのパスワードから変更できます。
利用期限	「i-フィルター」機能有効時、かつ認証サーバーより、契約期間が取得済みの場合、YYYY/MM/DDの形式で表示します。
閲覧禁止カテゴリー	閲覧禁止カテゴリーを設定します。
フィルター除外パソコンリスト	フィルターの除外パソコンの一覧が表示されます。

QoS

インターネットへ送信するパケットの優先制御を設定する画面です。

アプリケーション　＞　QoS（ルーターモード時のみ）



項目	内容
インターネットへの送信用QoS	インターネットへの送信するパケットを優先制御するかどうかを設定します。優先制御をする場合は、チェックを入れて、以下の内容を設定します。
上り回線帯域幅	本製品からインターネット側への上り回線の通信帯域（実際の値）をkbps単位で指定します。
有効	そのリストの有効/無効を切り替えます。
アプリ名	アプリケーション名を入力します。
プロトコル	TCP、UDPのいずれかを選択します。
宛先ポート	宛先ポートを1～65535で指定します。空欄にすると、任意のポートが対象になります。
優先度	高、中、低のいずれかを選択します。 インターネットへの送信用QoSで、設定に該当しない通信は、中と低の中間の優先度になります。

スケジュール

本製品の節電機能の設定を行う画面です。

アプリケーション　＞　スケジュール

項目	内容
省電力	あらかじめ登録したスケジュールに従って、節電機能を使用するかどうかを設定します。

項目	内容
ユーザー定義モード	節電の内容について、「ランプ」、「LAN側有線」、「LAN側無線」を組み合わせて設定します。 **ランプ** 節電時のランプの動作を設定します。 通常動作の場合、ランプが点灯します。 オフの場合、ランプがOFFになります。 **メモ:**「オフ」に設定した場合でも、POWERランプは消灯しません（点灯したままとなります）。 **LAN側有線** 節電時の有線LANの動作を設定します。 通常動作の場合、最大1000Mbpsで通信を行います。 エコ（低速動作）の場合、最大通信速度が100Mbps/10Mbps自動で動作します。 オフの場合、有線LANがOFFになります。 **LAN側無線** 節電時の無線LANの動作を設定します。 通常動作の場合、無線LANをご利用いただけます。 オフの場合、無線LANがOFFになります。
週間スケジュール	「スケジュール登録」で設定したスケジュールが表示されます。
スケジュール登録	節電の開始/終了スケジュールについて、「動作モード」、「開始時間」、「終了時間」、「曜日」を組み合わせて設定します。 **動作モード** 節電時の動作モードを設定します。 通常動作の場合、省電力機能を使用せず動作します。 スリープの場合、すべてのランプ、Internet、有線LAN、無線LANがOFFになります。スリープ中にAOSSボタンを押すと、一時的に（60～90分間）スリープ状態が解除されます。 ユーザー定義の場合、「ユーザー定義モード」で設定した動作を行います。 **開始時間** 開始時間を0:00～23:30まで30分単位で設定します。 **終了時間** 終了時間を0:30～24:00まで30分単位で設定します。 **曜日** スケジュールを実行する曜日を設定します。

システム設定

本製品のシステムに関する設定画面です。

管理　＞　システム設定

項目	内容
エアステーション名	本製品の名称を半角英数字と「-」で、64文字までで設定します。
管理ユーザー名	本製品の設定画面へログインするときのユーザー名です。「admin」以外に変更できません。
管理パスワード	本製品の設定画面へログインするときのパスワードです。半角英数字と「_」で、1～8文字で設定します。
無線LANからの設定を禁止する	本製品の無線ポートに接続された機器から本製品の設定をできないようにします。
有線LANからの設定を禁止する	本製品のLANポートに接続された機器から本製品の設定をできないようにします。

項目	内容
Internet側リモートアクセス設定を許可する	Internetに接続されたネットワーク機器から本製品の設定画面へのアクセスを制限するかどうかを設定します。 アクセスを許可する場合は、許可IPアドレスと許可ポートを別途設定します。 **メモ:**「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」、「クロスパス」などのサービスをお使いの場合、Internet側リモートアクセスは使用できません。
デバイスに対しポートスキャンを実行する	チェックを入れると、本製品は設定画面を持つ機器の検出を行います。 セキュリティーソフトなどが本製品からのポートスキャンを警告する場合は、チェックを外してください。
NTP機能	本製品の内部時計を、NTPサーバーを使って設定するかどうかを指定します。
サーバー名	NTPサーバーの名称をホスト名、ドメイン名つきホスト名、IPアドレスのいずれかで設定します。
確認時間	NTPサーバーに時刻を問い合わせる周期（1～24時間ごと）を設定します。
日付	本製品の内部時計の日付を手動で設定します。
時刻	本製品の内部時計の時刻を手動で設定します。
タイムゾーン	本製品の内部時計のタイムゾーン（グリニッジ標準時からの時差）を指定します。

ログ

syslogによる本製品のログ情報を転送するための設定画面です。

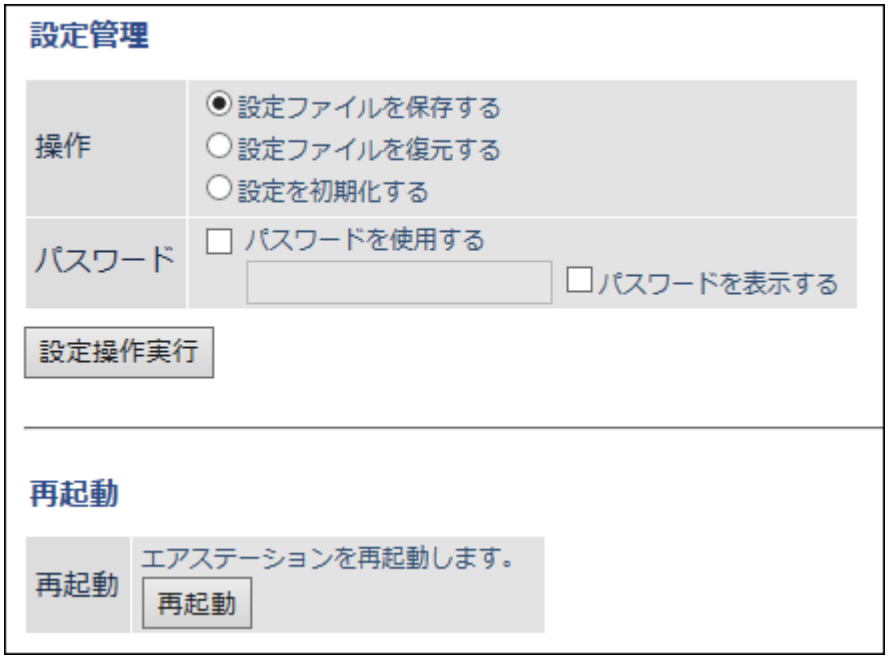
管理　＞　ログ

項目	内容
ログ情報転送機能	ログ情報転送機能を使用するかどうかを設定します。
syslogサーバー	syslogサーバーのアドレスをホスト名、ドメイン名つきホスト名、IPアドレスのいずれかで設定します。
転送するログ情報	表示するログ情報の種類を設定します。
詳細なログ取得	「アドレス変換」、「IPフィルター」、「ファイアウォール」、「アクセスフィルター」に関するログ情報を取得するかどうかを設定します。

設定管理/再起動

本製品の設定を保存･復元したり､本製品の初期化/再起動を行う画面です。

管理　＞　設定管理/再起動

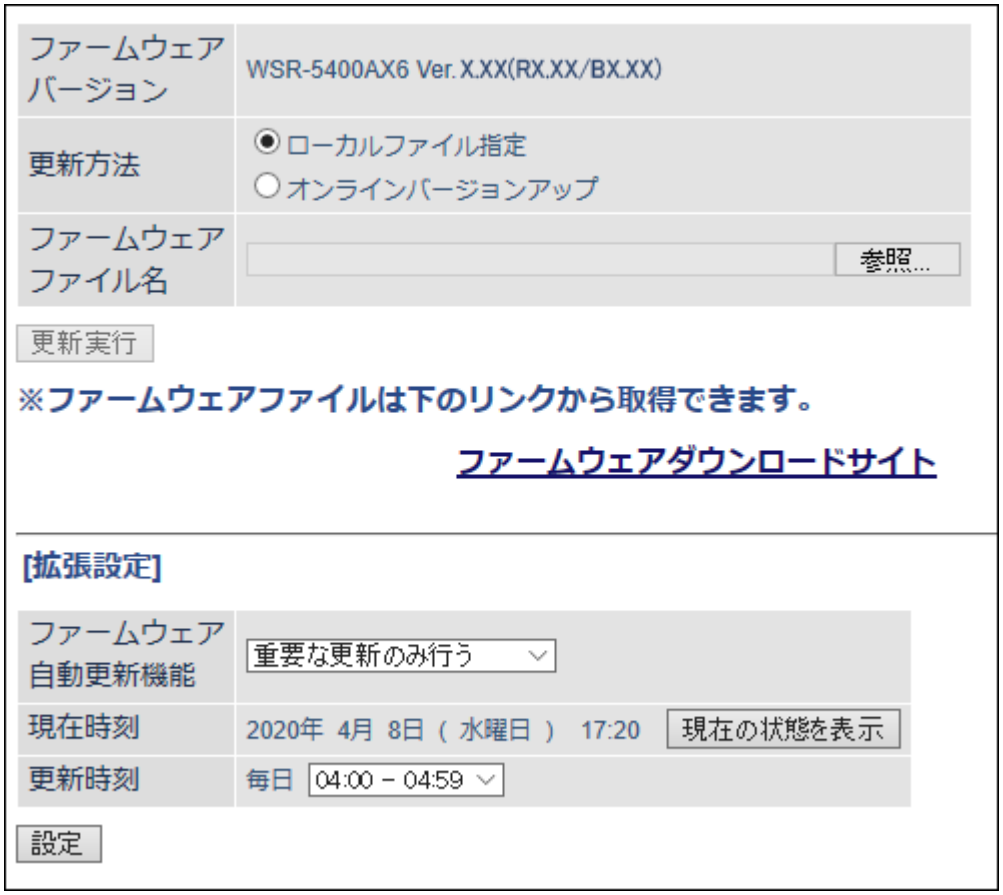


項目	内容
操作	操作内容を選択します。 **設定ファイルを保存する** 本製品の設定内容を設定ファイルに保存します。 [設定操作実行]をクリックしてください。 設定ファイルをパスワードで暗号化する場合は､｢パスワードを使用する｣にチェックを入れ､[設定操作実行]をクリックしてください。 パスワードは､半角英数字と｢_｣で､1～8文字で設定します。 **設定ファイルを復元する** 本製品の設定を､設定ファイルから復元します。 ｢設定ファイル｣欄の[参照]をクリックして設定ファイルを指定し､[設定操作実行]をクリックしてください。 設定ファイルがパスワードで暗号化されている場合は､｢パスワードを使用する｣にチェックを入れ､[設定操作実行]をクリックしてください。 **設定を初期化する** 本製品の設定を初期化して､再起動します。 [設定操作実行]をクリックしてください。
再起動	クリックすると､本製品が再起動します。

ファームウェア更新

本製品のファームウェアを更新するための画面です。

管理　＞　ファームウェア更新



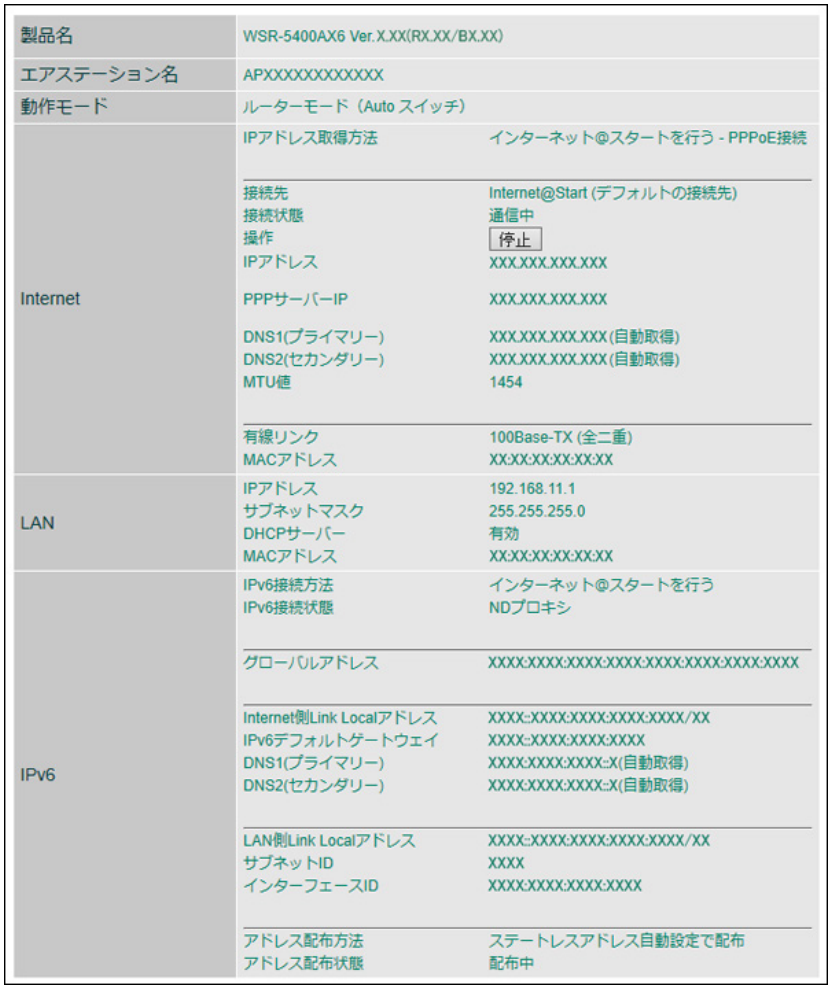
項目	内容
ファームウェアバージョン	現在のファームウェアバージョンを表示します。
更新方法	ファームウェアの更新方法を設定します。 **ローカルファイル指定** パソコンに保存されているファームウェアファイルを使用して更新を行います。 **オンラインバージョンアップ** インターネットから自動的に最新のファームウェアファイルをダウンロードして更新を行います。
ファームウェアファイル名	「ローカルファイル指定」時にファームウェアファイル名を指定します。

項目	内容
ファームウェア自動更新機能	ファームウェアの自動更新方法を設定します。 **重要な更新のみ行う** セキュリティーに関わる脆弱性の対応など、重要な更新があった場合、ファームウェアを自動的にダウンロードして本製品へ適用します。 **常に最新版に更新する** 本製品の新しいファームウェアがリリースされると、自動的にダウンロードして本製品へ適用します。 **更新せずに通知のみ行う** 新しいファームウェアがリリースされたときに、設定画面に通知します。本製品への適用は行いません。 **更新しない** 新しいファームウェアがリリースされても、設定画面への通知や本製品へ適用は行いません。
現在時刻	現在の時刻が表示されます。
更新時刻	自動更新を行う時間帯を設定します。

システム

本製品の現在の状態が表示されます。

ステータス　＞　システム



製品名	WSR-5400AX6 Ver.X.XX(RX.XX/BX.XX)	
エアステーション名	APXXXXXXXXXXXX	
動作モード	ルーターモード（Auto スイッチ）	
Internet	IPアドレス取得方法	インターネット@スタートを行う - PPPoE接続
	接続先	Internet@Start (デフォルトの接続先)
	接続状態	通信中
	操作	停止
	IPアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX
	PPPサーバーIP	XXX.XXX.XXX.XXX
	DNS1(プライマリー)	XXX.XXX.XXX.XXX(自動取得)
	DNS2(セカンダリー)	XXX.XXX.XXX.XXX(自動取得)
	MTU値	1454
	有線リンク	100Base-TX (全二重)
	MACアドレス	XX:XX:XX:XX:XX:XX
LAN	IPアドレス	192.168.11.1
	サブネットマスク	255.255.255.0
	DHCPサーバー	有効
	MACアドレス	XX:XX:XX:XX:XX:XX
IPv6	IPv6接続方法	インターネット@スタートを行う
	IPv6接続状態	NDプロキシ
	グローバルアドレス	XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX
	Internet側Link Localアドレス	XXXX::XXXX:XXXX:XXXX:XXXX/XX
	IPv6デフォルトゲートウェイ	XXXX::XXXX:XXXX:XXXX
	DNS1(プライマリー)	XXXX:XXXX:XXXX::X(自動取得)
	DNS2(セカンダリー)	XXXX:XXXX:XXXX::X(自動取得)
	LAN側Link Localアドレス	XXXX::XXXX:XXXX:XXXX:XXXX/XX
	サブネットID	XXXX
	インターフェースID	XXXX:XXXX:XXXX:XXXX
	アドレス配布方法	ステートレスアドレス自動設定で配布
	アドレス配布状態	配布中

項目	内容
製品名	本製品の製品名とファームウェアのバージョンが表示されます。
エアステーション名	エアステーション名が表示されます。
動作モード	現在の動作モードが表示されます。
Internet	Internetポートの情報が表示されます。
LAN	LANポートの情報が表示されます。
IPv6	IPv6接続に関する情報が表示されます。
無線（2.4GHz）	2.4GHz帯の無線LANポートの情報が表示されます。
無線（5GHz）	5GHz帯の無線LANポートの情報が表示されます。
EasyMesh機能	本製品をコントローラとしてEasyMeshで接続している場合に、EasyMeshでの接続情報が表示されます。
ゲストポート機能	ゲストポートの情報が表示されます。
i-フィルター	i-フィルター機能に関する情報が表示されます。
エコモード	節電の状態が表示されます。

ログ

本製品に記録されているログ情報を確認する画面です。

ステータス　＞　ログ

項目	内容
表示するログ情報	表示するログ情報の種類を設定します。
ログ	本製品に記録されているログ情報が表示されます。

通信パケット

本製品が通信したパケットの合計を確認する画面です。

ステータス　＞　通信パケット

インターフェース	送信パケット数		受信パケット数	
	正常	エラー	正常	エラー
Internet側有線	441	0	260	0
LAN側有線(#1)	33317	0	28598	0
LAN側有線(#2)	0	0	0	0
LAN側有線(#3)	0	0	0	0
LAN側有線(#4)	0	0	0	0
LAN側無線(2.4GHz)	0	0	0	0
LAN側無線(5GHz)	0	0	0	0
PPPoE No.1: Internet@Start	441	0	260	0

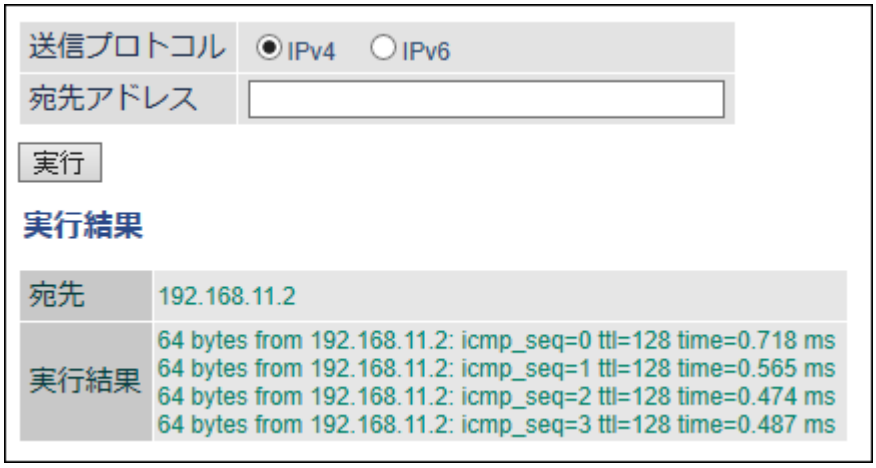
現在の状態を表示

項目	内容
送信パケット数	LAN側有線、Internet側有線、LAN側無線、PPPoEに送信したパケット数とエラーパケット数が表示されます。
受信パケット数	LAN側有線、Internet側有線、LAN側無線、PPPoEから受信したパケット数とエラーパケット数が表示されます。

診断

本製品からネットワーク上のほかの機器との接続確認を行う画面です。

ステータス　＞　診断



項目	内容
送信プロトコル	Pingテストを行うプロトコルを選択します。
宛先アドレス	接続確認を行う機器のIPアドレス、またはホスト名を入力し、[実行]をクリックすると、「実行結果」欄に結果が表示されます。

第４章　困ったときは

IPv4 over IPv6通信サービスを契約しても、インターネット接続方式が切り替わらない

原因1　IPv4 over IPv6通信サービスへ切り替わるまでに時間がかかっている

申し込み後、サービスが切り替わるまでに時間がかかる場合があります。
切り替え状況については、プロバイダーに確認してください。

原因2　本製品にPPPoE接続設定が残っている

本製品にPPPoE接続設定が残っている場合、新しいサービス（IPv4 over IPv6通信サービス）を検出する前に、今までのサービス（PPPoE）でつながる場合があります。
以下の手順で、PPPoE接続設定をOFFにしてください。

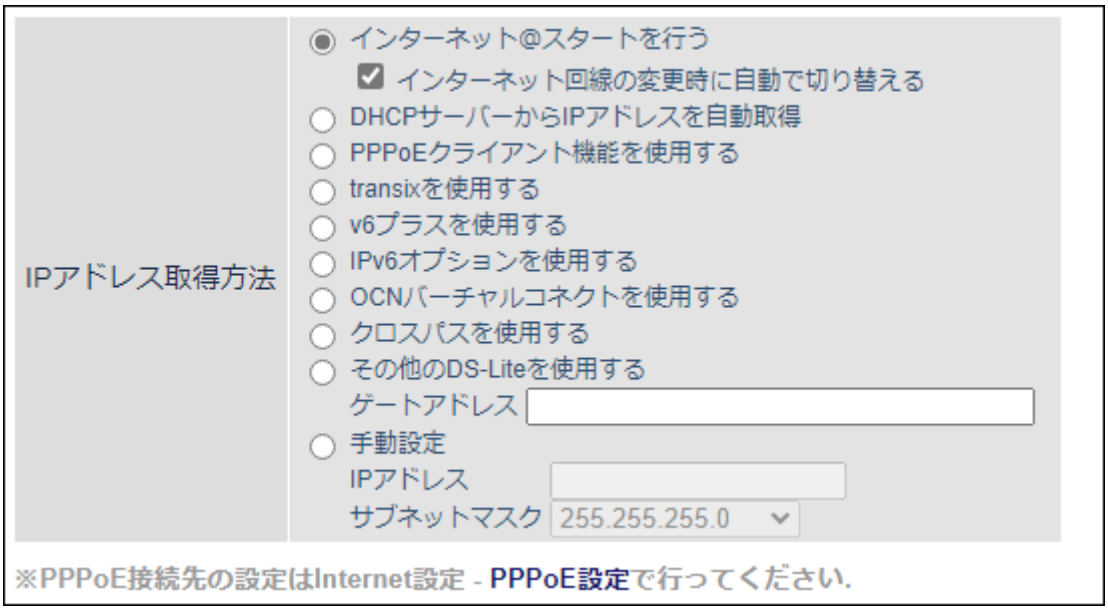
1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「本製品の設定を変更するには」（P.38）を参照してください。

2 ［詳細設定］－［Internet］－［Internet］をクリックします。

3 IPアドレス取得方法の設定を確認します。

「インターネット＠スタートを行う」設定の場合（以下のいずれかの場合）は、手順4以降を行ってください。



メモ:「インターネット＠スタートを行う」以外の場合は、以下の手順4以降は不要です。サービスが切り替わるまでに時間がかかっていることが考えられるため、切り替え状況をプロバイダーに確認してください。

4 **[詳細設定]－[Internet]－[PPPoE]をクリックします。**

5 **PPPoE接続リストの[接続先の編集]をクリックします。**

6 **PPPoE接続先リストの表示/操作で、操作欄にある[OFF]をクリックします。**

7 **手順6でOFFにした設定の状態が「無効」になったことを確認します。**

以上で完了です。

インターネットにつながらない

原因1　動作モードの設定が間違っている

動作モードの設定が間違っていることが考えられます。背面のスイッチを「ROUTER」(一番上)に設定してください。

原因2　プロバイダーから提供された機器の電源が入っていない

プロバイダーから提供された機器と本製品がLANケーブルで正しく接続されているにもかかわらずインターネットに接続できない場合は、電源が入っているか確認してください。

原因3　インターネットに接続しようとする機器が本製品に接続されていない

AirStationアプリやエアステーション設定ツールを使用して、リストに本製品が表示されるか確認してください。リストに本製品が表示されない場合は、インターネットに接続しようとする機器と本製品をLANケーブルまたは無線で接続してください。

メモ: 無線での接続方法は、本書の第2章を参照してください。

原因4　インターネットの設定が間違っている

製品添付の取扱説明書を参照して、インターネットの設定をやり直してください。

無線接続が切れる/不安定

原因1　本製品の動作が不安定になっている

本製品への負荷などにより、本製品の動作が不安定になっていることが考えられます。本製品の電源を入れ直してください。

原因2　本製品と無線機器の距離が遠い

本製品と無線機器の距離が遠いため、電波が十分に届いていないことが考えられます。無線機器を本製品に近づけるか、周囲に障害物がある場合は障害物を移動するなど、見通しをよくしてください。

原因3　本製品周辺の電波環境が悪い

電子レンジなど、本製品と同じ2.4GHz帯の電波を発する機器が本製品の周囲で動作している場合、無線による通信が不安定になる場合があります。
それらの機器を本製品から遠ざけるか、使用を一時的に中断してください。2.4GHz帯の電波を発する機器がコードレス電話などであり、本製品から遠ざけることができない場合は、本製品の無線チャンネルを変更してください。2.4GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。

原因4　本製品のファームウェアが古い

上記1～3の対策を行っても、本製品との無線接続が切れたり不安定な状況が続く場合は、本製品のファームウェアを最新版に更新してください。

原因5　無線機器のドライバーが古い

上記1～4の対策を行っても、本製品との無線接続が切れたり不安定な状況が続く場合は、無線機器のドライバー(ソフトウェア)を最新版に更新してください。

原因6　本製品が省電力モードで動作している

本製品の節電機能を使用している場合、設定内容によっては、無線接続が切れる場合があります。節電機能のスケジュール登録を変更するなどして、無線接続が途切れないように設定してください。

無線でつながらない

原因1　本製品の動作が不安定になっている

本製品への負荷などにより、本製品の動作が不安定になっていることが考えられます。本製品の電源を入れ直してください。

原因2　本製品と無線機器の距離が遠い

本製品と無線機器の距離が遠いため、電波が十分に届いていないことが考えられます。無線機器を本製品に近づけるか、周囲に障害物がある場合は障害物を移動するなど、見通しをよくしてください。

原因3　セキュリティーソフトが動作している

無線機器にウイルス対策ソフトなどのセキュリティーソフトがインストールされている場合、無線接続設定に失敗することがあります。いったんセキュリティーソフトを終了して、無線接続設定を完了させてからセキュリティーソフトを起動してください。

原因4　無線接続の設定が間違っている

無線接続の設定が間違っていると、本製品に無線で接続できません。本書の第2章を参照して、接続してください。

原因5　本製品にANY接続拒否やMACアクセス制限の設定がされている

本製品にANY接続拒否の設定がされていると、無線機器から検索しても本製品が表示されません。その場合は、ANY接続拒否を解除してから接続してください。
本製品にMACアクセス制限の設定がされていると、そのままでは本製品に無線接続できません。無線機器のMACアドレスを本製品に登録してから無線接続してください。

原因6　本製品が省電力モードで動作している

本製品の節電機能を使用している場合、設定内容によっては、無線接続できない場合があります。節電機能のスケジュール登録を変更するなどして、無線接続できるように設定してください。

設定画面が表示できない

原因1　本製品の動作が不安定になっている

本製品への負荷などにより、本製品の動作が不安定になっていることが考えられます。本製品の電源を入れ直してください。

原因2　設定用機器が本製品に接続されていない

AirStationアプリやエアステーション設定ツールを使用して、リストに本製品が表示されるか確認してください。リストに本製品が表示されない場合は、インターネットに接続しようとする機器と本製品をLANケーブルまたは無線で接続してください。

メモ: 無線での接続方法は、本書の第2章を参照してください。

無線での通信が遅い

原因1　本製品周辺の電波環境が悪い

電子レンジなど、本製品と同じ2.4GHz帯の電波を発する機器が本製品の周囲で動作している場合、無線による通信が不安定になり、通信速度が低下する場合があります。
それらの機器を本製品から遠ざけるか、使用を一時的に中断してください。2.4GHz帯の電波を発する機器がコードレス電話などであり、本製品から遠ざけることができない場合は、本製品の無線チャンネルを変更してください。2.4GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。

原因2　2.4GHzの帯域が「286Mbps（20MHz）」になっている

本製品の2.4GHz（11ax/n/g/b）の帯域は、出荷時の状態で「286Mbps（20MHz）」に設定されています。
「573Mbps（40MHz）」に設定することで、無線での通信速度が速くなる場合があります。

メモ:

- 本製品の設定だけでなく、お使いの機器の設定も必要になる場合があります。
- 2.4GHz帯を使用する機器が周囲に多くあり、電波環境が悪い場合は、設定を変更しても通信速度が向上しないことがあります。

設定を出荷時の状態に戻したい

本製品の設定を出荷時の状態に戻したい場合は、背面のRESETボタンを前面のPOWERランプが緑色に点滅するまで（約3秒間）押し続けてください。その後、本製品が再起動したら設定の初期化は完了です。

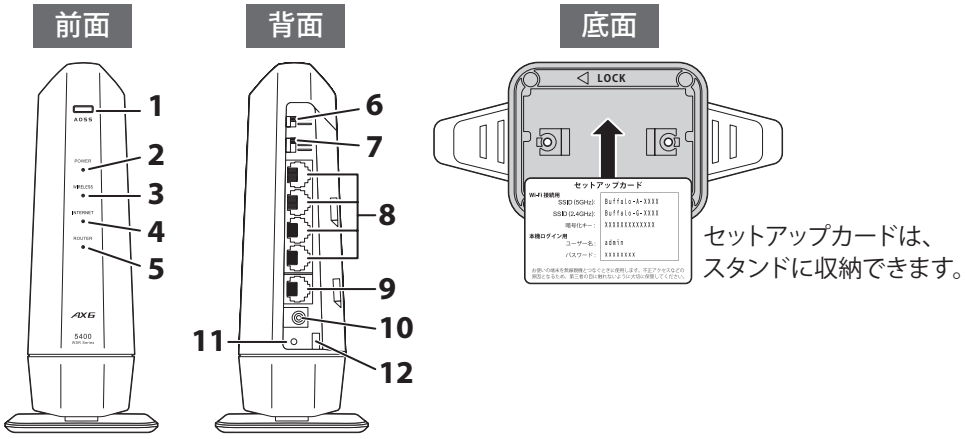
付録

製品仕様

無線LANインターフェース	
準拠規格(最大転送速度)	**5GHz:** IEEE 802.11ax:4803Mbps(160MHz 4x4) IEEE 802.11ac:3466Mbps(160MHz 4x4) IEEE 802.11n:600Mbps(40MHz 4x4) IEEE 802.11a:54Mbps **2.4GHz:** IEEE 802.11ax:573Mbps(40MHz 2x2) IEEE 802.11n:300Mbps(40MHz 2x2) IEEE 802.11g:54Mbps IEEE 802.11b:11Mbps 表示の数値は理論上の最大値であり、実際の転送速度を示すものではありません。
伝送方式	多入力多出力直交周波数分割多元変調(MIMO-OFDMA)方式 多入力多出力直交周波数分割多重変調(MIMO-OFDM)方式 直交周波数分割多重変調(OFDM)方式 直接拡散型スペクトラム拡散(DS-SS)方式 単信(半二重)
周波数範囲(中心周波数)	**5GHz:** W52　36/40/44/48ch(5180～5240MHz) W53　52/56/60/64ch(5260～5320MHz) W56　100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140/144ch (5500～5720MHz) **2.4GHz:** 1～13ch(2412～2472MHz) 本製品と同一の周波数帯を使用する機器がある場合、電波干渉により通信速度が遅くなるなどの障害が発生する可能性があります。
アクセス方式	インフラストラクチャーモード、中継機能
セキュリティー	WPA3 Personal、WPA2 Personal、WPA3/WPA2 Personal、WPA2/WPA Personal、WEP(128bit/64bit)、プライバシーセパレーター、ANY接続拒否/SSIDステルス、MACアクセス制限
有線LANインターフェース	
準拠規格	IEEE 802.3 ab(1000BASE-T)/IEEE 802.3u(100BASE-TX)/ IEEE 802.3(10BASE-T)
データ転送速度	1000/100/10Mbps(自動認識) 表示の数値は理論上の最大値であり、実際の転送速度を示すものではありません。
データ伝送モード	半二重/全二重(自動認識)

伝送路符号化方式	8B1Q4/PAM5(1000BASE-T)/4B5B/MLT-3(100BASE-TX)/マンチェスターコーディング(10BASE-T)
スイッチング方式	ストア&フォワード方式
端子	1000 BASE-T/100 BASE-TX/10 BASE-T 兼用端子(AUTO-MDIX)
その他	
電源	AC 100 50/60Hz
消費電力	14.6W(最大)
外形寸法	59(W)×177(H)×175(D)mm(本体のみ)
質量	約650g(本体のみ)
動作環境	0〜40°C、10〜85%(結露しないこと) 本製品は屋内使用に限ります。

各部の名称



1 AOSSボタン

本製品の電源を入れた状態で、WIRELESSランプが点滅するまで(約1秒間)ボタンを押すと、本製品がAOSS/WPS待ち受け状態になります。
約10秒間押し続けると、無線引っ越し設定の待ち受け状態になります。

2 POWERランプ

点灯(緑):　電源がONの状態、通常状態
点滅(緑):　システムが起動中
点滅(緑と橙の繰り返し):ファームウェア更新中
消灯:　電源がOFFの状態
点滅(橙):　エラー発生時

メモ:

- エラー発生時は、本製品の電源を入れ直してください。再びランプが同じように橙色に点滅している場合や、すべてのランプが橙色に点灯している場合は、当社サポートセンターにお問い合わせください(別紙「はじめにお読みください」に記載のお問い合わせ先を参照してください)。
- 本製品の設定画面「詳細設定」−「アプリケーション」−「スケジュール」−「ユーザー定義モード」でランプを「オフ」に設定しても、POWERランプは消灯しません(点灯したままとなります)。

3 WIRELESSランプ

・ルーターモード時/アクセスポイントモード時
点灯(緑)：　無線LAN動作時/無線LAN通信時
2回点滅(緑)：　AOSS/WPS待ち受け時
高速点滅(緑)：　AOSS/WPS失敗時
消灯：　無線LAN無効時

・中継動作時
点灯(緑)：　Wi-Fiルーターまたはメッシュネットワークと接続時
点灯(橙)：　Wi-Fiルーターまたはメッシュネットワークと接続が未設定
2回点滅(緑)：　WPS待ち受け時
高速点滅(緑)：　WPS失敗時
高速点滅(橙)：有線接続でメッシュネットワークとの接続設定に失敗時
点滅(緑と橙の繰り返し)：　メッシュネットワークとの接続設定が完了後に、メッシュネットワークに未接続時
点滅(橙)：　Wi-Fiルーターとの接続設定が完了後に、Wi-Fiルーターに未接続時

4 INTERNETランプ(緑)

インターネットに接続可能なときに点灯しますが、お使いの環境により消灯する場合もあります。消灯していてもインターネットに接続できるときは、異常ではありませんので、そのままお使いください。

5 ROUTERランプ(緑)

ROUTERモードで動作しているときに点灯します。
APモードおよびWBモード(中継機)で動作しているときは、消灯します。

6 AUTO/MANUALスイッチ

AUTO：　7のスイッチに関係なく、ルーター機能のON/OFFを自動設定します。
MANUAL：　7のスイッチに従ってモードを切り替えます。

7 ROUTER/AP/WBスイッチ

6のスイッチが「MANUAL」のときに、本製品の動作モード(ROUTER/AP/WB(中継機))を切り替えるスイッチです。6のスイッチが「AUTO」のときは、ROUTER/APを自動判別して動作します。

8 LAN端子

パソコンやハブなどを接続します。1000/100/10Mbpsに対応しています。

9 INTERNET端子

プロバイダーから提供された機器(モデムなど)を接続します。1000/100/10Mbpsに対応しています。

10 DC端子

付属のACアダプターを接続します。

11 RESETボタン

本製品の電源を入れた状態で、POWERランプが緑色に点滅するまで(約3秒間)ボタンを押し続けると、本製品が出荷時設定に戻ります。

12 ACアダプター用フック

ACアダプターのケーブルが抜けないように、ケーブルを引っ掛けます。

初期設定一覧

機能	項目	出荷時設定
Internet	IPアドレス取得方法	インターネット@スタートを行う
	デフォルトゲートウェイ	−
	DNS(ネーム)サーバーアドレス	−
	Internet側MACアドレス	デフォルトのMACアドレスを使用
	Internet側MTU値	1500バイト
PPPoE	デフォルトの接続先	未設定
	PPPoE接続先リスト	未設定
	接続先経路の表示	未設定
Dynamic DNS	ダイナミックDNS機能	使用しない
アドレス変換	アドレス変換	使用する
	拡張設定	表示しない
	TCPタイムアウト時間	2500秒
IPv6	IPv6接続方法	インターネット@スタートを行う
LAN	LAN側IPアドレス	IPアドレス:　192.168.11.1 サブネットマスク:　255.255.255.0
	DHCPサーバー機能	使用する
	割り当てIPアドレス	192.168.11.2から64台
	拡張設定	表示しない
	リース期間	48時間
	デフォルトゲートウェイの通知	エアステーションのLAN側IPアドレス
	DNSサーバーの通知	エアステーションのLAN側IPアドレス
	WINSサーバーの通知	通知しない
	ドメイン名の通知	取得済みのドメイン名
DHCPリース	リース情報	未設定
経路情報	経路情報	−

機能	項目	出荷時設定
2.4GHz(11 ax/n/g/b) 5GHz(11 ax/ac/n/a)	**基本設定**	
	無線機能	使用する
	無線チャンネル	自動
	倍速モード	2.4GHz: 286Mbps(20MHz)、拡張チャンネルは自動設定 5GHz: 4803Mbps(160MHz)
	ANY接続	許可する
	SSID 1	
	SSID 1	使用する
	隔離機能	使用しない
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	無線の認証	WPA2 Personal
	無線の暗号化	AES
	WPA-PSK(事前共有キー)	製品付属のセットアップカードに記載の値
	Key更新間隔	0分
	SSID 2	
	SSID 2	使用する
	隔離機能	使用しない
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	無線の認証	WPA3 Personal
	無線の暗号化	AES
	WPA-PSK(事前共有キー)	製品付属のセットアップカードに記載の値
	Key更新間隔	0分
	SSID 3	
	SSID 3	使用しない
	隔離機能	使用しない
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	WEP暗号化キー設定	未設定
	拡張設定	
	Multicast Rate	2.4GHz:　1Mbps 5GHz:　6Mbps
	802.11nプロテクション	使用しない
	DTIM Period	1
	プライバシーセパレーター	使用しない
	送信出力	100%
	ビームフォーミングEX	使用する
	802.11ax MU-MIMO	使用する

機能	項目	出荷時設定
バンドステアリングLite	SSID	使用しない
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	無線の認証	WPA2 Personal
	無線の暗号化	AES
	WPA-PSK(事前共有キー)	製品付属のセットアップカードに記載の値
	Key更新間隔	0分
EasyMesh	EasyMesh機能	使用する
	高速ローミング(11r)	使用しない
WPS	WPS機能	使用する
	外部Registrar	使用する
	エアステーションのPINコード	製品固有の8桁のPINコードが設定済み
	EnrolleeのPINコード	空欄
	WPS用無線セキュリティー設定	WPSステータス:　Configured セキュリティー:　WPA2 Personal AES SSID/暗号鍵:　製品付属のセットアップカードに記載の値
AOSS	AOSS状態	AOSS 無効
	WEPをゲーム専用にする	使用しない
	本体側AOSSボタン	使用する
MACアクセス制限	無線パソコンの接続	制限しない
	登録リスト	未登録
マルチキャスト制御	Snooping機能	使用する
	マルチキャストAging Time	300秒
ゲストポート	ゲストポート機能	使用しない
	ゲストユーザー認証機能	使用しない
	ゲストポート用LAN側IPアドレス	自動設定
	利用可能時間	3時間
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	無線の認証	認証を行わない
	無線の暗号化	暗号化なし
	ゲストユーザー	未登録
無線引っ越し機能	無線引っ越し状態	未実施
ファイアウォール	ファイアウォール設定-IPv4	NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する　無効 IDENTの要求を拒否する　有効 Internet側からのPINGに応答しない　有効
	ファイアウォール設定-IPv6	Microsoft-DS/SMB2.0のルーティングを禁止する　有効 IDENTの要求を拒否する　有効 Internet側からのPINGに応答しない　無効 Internet側からの接続要求を転送しない　有効

機能	項目	出荷時設定
IPフィルター	IPフィルター登録情報	未設定
IPv6フィルター	IPv6フィルター登録情報	未設定
パススルー	PPPoEパススルー機能	使用しない
	PPTPパススルー	使用する
ポート変換	ポート変換登録情報	未設定
DMZ	DMZのアドレス	未設定
UPnP	UPnP	使用する
i-フィルター	「i-フィルター」機能	使用しない
キッズタイマー	キッズタイマー	使用しない
QoS	インターネットへの送信用QoS	使用しない
スケジュール	省電力	使用しない
	ランプ	オフ
	LAN側有線	エコ(低速動作)
	LAN側無線	オフ
	週間スケジュール	未登録
	動作モード	通常動作
	開始時間	0:00
	終了時間	0:30
	曜日	未登録
システム設定	エアステーション名	AP + 本製品のMACアドレス
	管理ユーザー名	admin(変更することはできません)
	管理パスワード	製品付属のセットアップカードに記載の値
	制限項目	無線LANからの設定を禁止する　無効 有線LANからの設定を禁止する　無効 Internet側リモートアクセス設定を許可する　無効 デバイスに対しポートスキャンを実行する　無効
	NTP機能	使用する
	サーバー名	ntp.jst.mfeed.ad.jp
	確認時間	24時間ごと
	タイムゾーン	(GMT + 09:00)東京、大阪、ソウル
ログ	ログ情報転送機能	使用しない
	Syslogサーバー	未設定
	転送するログ情報	アドレス変換、IPフィルター、ファイアウォール、PPPoEクライアント、ダイナミックDNS、DHCPクライアント、DHCPサーバー、AOSS、無線、認証、設定変更、システム起動、NTPクライアント、有線リンク、システム
	詳細なログ取得	取得しない

機能	項目	出荷時設定
ファームウェア更新	更新方法	ローカルファイル指定
	ファームウェアファイル名	空欄
	ファームウェア自動更新機能	重要な更新のみ行う
	更新時刻	毎日04:00〜04:59

参考情報

以下は、本製品を中継機として使用する設定を行う際に参照する参考情報です。

Windows 11の場合の設定

1 タスクバー上のWindowsロゴ（スタート）をクリックして表示される画面から、［すべてのアプリ］－［Windowsツール］－［コントロールパネル］を選択します。

2 「ネットワークの状態とタスクの表示」－「アダプター設定の変更」をクリックします。

3 Wi-Fi接続の場合は「Wi-Fi」を、LANケーブルで接続の場合は「イーサネット」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

メモ: 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［はい］または［続行］をクリックしてください。

4 「インターネットプロトコル バージョン4（TCP/IPv4）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

5 現在の設定内容をメモしてください（中継機の設定完了後、元の設定に戻す際に必要となります）。

6 以下のように設定して、［OK］をクリックします。

- 「次のIPアドレスを使う」を選択
- IPアドレス「192.168.11.135」
- サブネットマスク「255.255.255.0」
- デフォルトゲートウェイは空欄
- 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択
- 優先DNSサーバーと代替DNSサーバーは空欄

7 ［閉じる］をクリックします。

以上で設定は完了です。

Windows 10の場合の設定

1 タスクバー上のWindowsロゴ(スタート)をクリックして表示されるメニューから、[Windowsシステムツール] – [コントロールパネル]を選択します。

2 「ネットワークの状態とタスクの表示」–「アダプター設定の変更」をクリックします。

3 無線接続の場合は「Wi-Fi」を、LANケーブルで接続の場合は「イーサネット」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

メモ: 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい]または[続行]をクリックしてください。

4 「インターネットプロトコル バージョン4(TCP/IPv4)」を選択し、[プロパティ]をクリックします。

5 以下のように設定して、[OK]をクリックします。

- 「次のIPアドレスを使う」を選択
- IPアドレス「192.168.11.135」
- サブネットマスク「255.255.255.0」
- デフォルトゲートウェイは空欄
- 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択
- 優先DNSサーバーと代替DNSサーバーは空欄

6 [閉じる]をクリックします。

以上で設定は完了です。

Windows 8.1の場合の設定

1 デスクトップ画面を表示させます。

2 画面右下隅にポインターを移動させ、そのまま上方向に移動させるとチャームが表示されるので、[設定]をクリックします。

3 [コントロールパネル]をクリックします。

4 「ネットワークの状態とタスクの表示」－「アダプター設定の変更」をクリックします。

5 無線接続の場合は「Wi-Fi」を、LANケーブルで接続の場合は「イーサネット」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

メモ: 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい]または[続行]をクリックしてください。

6 「インターネットプロトコル バージョン4(TCP/IPv4)」を選択し、[プロパティ]をクリックします。

7 以下のように設定して、[OK]をクリックします。

- 「次のIPアドレスを使う」を選択
- IPアドレス「192.168.11.135」
- サブネットマスク「255.255.255.0」
- デフォルトゲートウェイは空欄
- 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択
- 優先DNSサーバーと代替DNSサーバーは空欄

8 [閉じる]をクリックします。

以上で設定は完了です。

Macの場合の設定

1 システム環境設定を表示します。

2 ネットワークをクリックします。

3 無線接続の場合は「Wi-Fi」を、LANケーブルで接続の場合は「Ethernet」を選択します。

4 IPv4の設定で「手入力」を選択します(「Wi-Fi」を選択した場合は[詳細...]をクリックし、「TCP/IP」を選択します)。

5 以下のように設定して、[適用]をクリックします。

- IPアドレスまたはIPv4アドレス「192.168.11.135」
- サブネットマスク「255.255.255.0」
- ルーターは空欄

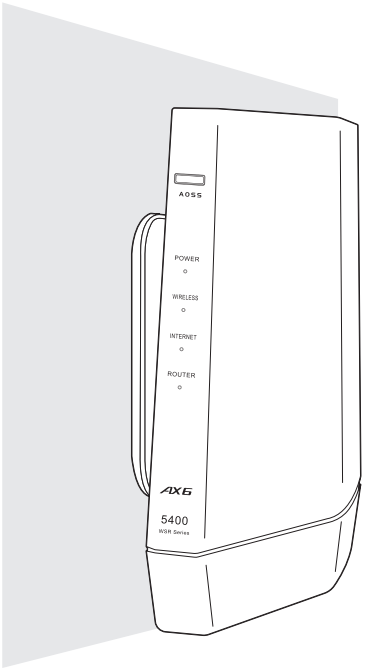
以上で設定は完了です。

壁面への取り付けについて

市販のねじを使用すると、本製品を壁面へ取り付けることができます。
壁面への取り付け手順は、以下を参照してください。

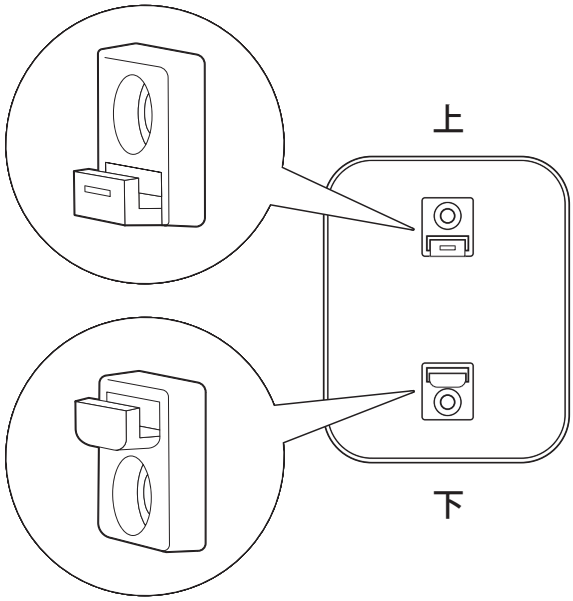
取り付け時のご注意

- 本製品添付の「はじめにお読みください」に記載の「安全にお使いいただくために必ずお守りください」に従って、設置してください。
- 取り付けは確実に行ってください。不十分な場合、落下などにより事故が発生する恐れがあります。
- 壁面の強度が十分であるかをあらかじめ確認して設置してください。
  ベニヤ板などの柔らかい壁には設置しないでください。
- 必ず下図の方向で設置してください。
  天井に設置したり、ランプが上向きや下向きになるように設置した場合、熱がこもり、故障の原因になります。



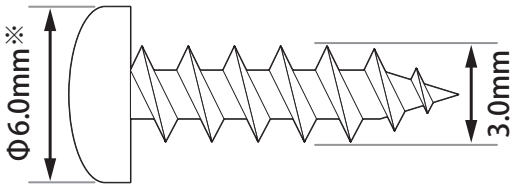
取り付け方

1 **突起部分が下図の向きになるように、スタンドを壁にねじ止めします。**



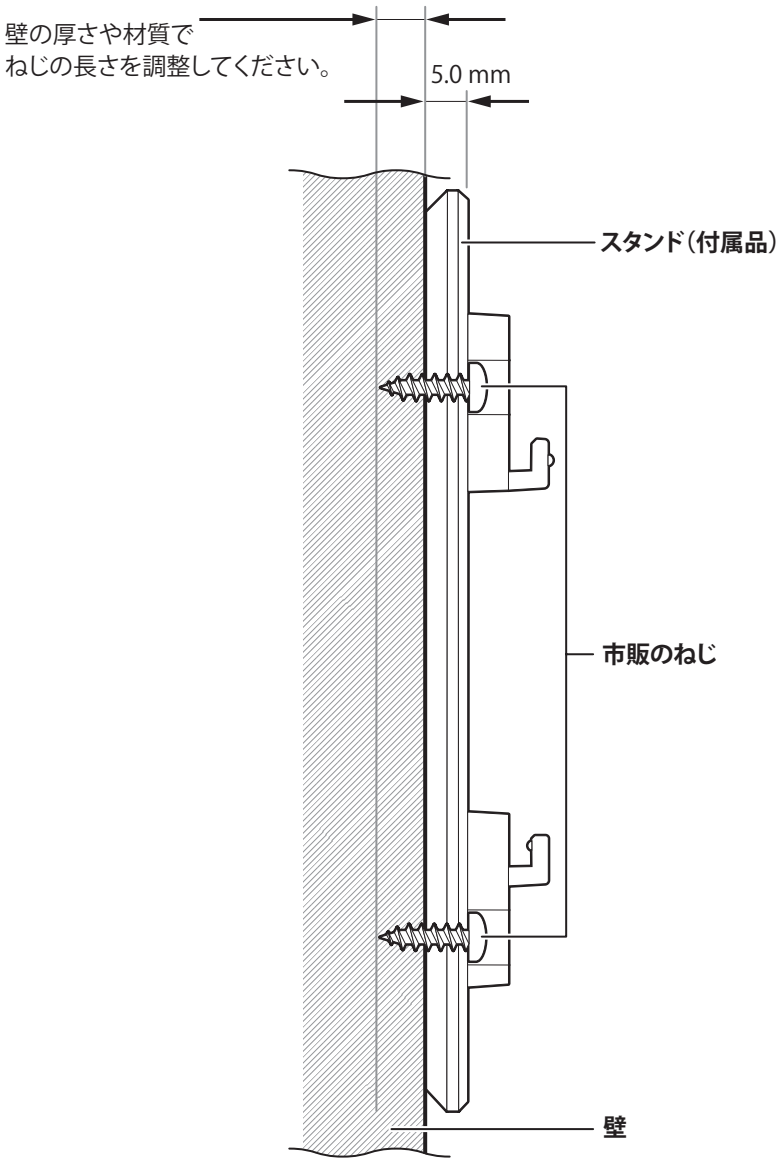
メモ:

- ねじは、M3.0「なべ頭タッピングねじ」を使用してください。

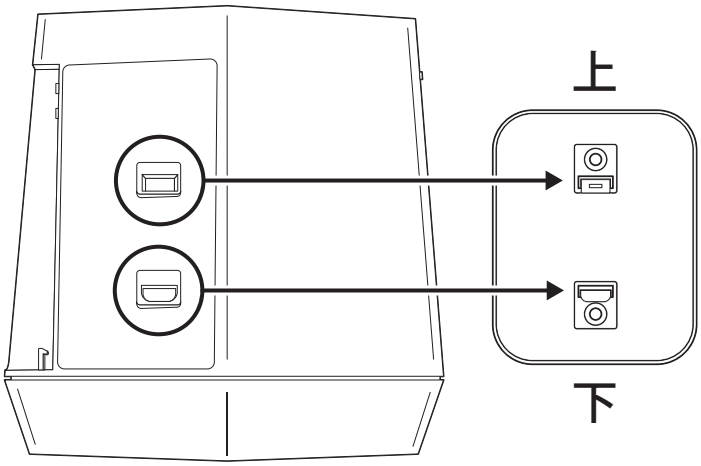


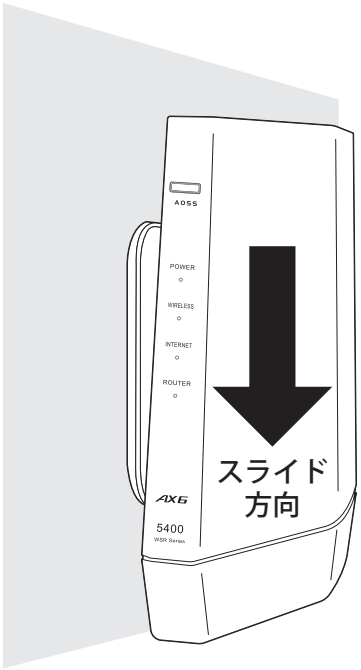
※これより大きいものは使用しないでください。

- ねじの長さは、スタンドの厚さ（5.0mm）と取り付ける壁の材質や厚みに合わせて調整してください。



2 **本製品本体をスタンドに固定します。下図のように、矢印の方向にカチッと音がするまで本製品本体をスライドしてください。**





メモ: 同じ場所に長時間設置した場合、壁紙などが変色(色あせ)することがあります。

以上で壁面への取り付けは完了です。

本書について

- 本書の著作権は当社に帰属します。本書の一部または全部を当社に無断で転載、複製、改変などを行うことは禁じられております。
- 本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、改良のため予告なしに変更される場合があり、現に購入された製品とは一部異なることがあります。
- 本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、お買い求めになった販売店または当社サポートセンターまでご連絡ください。
- 本製品(付属品等を含む)を輸出または提供する場合は、外国為替及び外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。
- 本製品の使用に際しては、本書に記載した使用方法に沿ってご使用ください。特に、注意事項として記載された取扱方法に違反する使用はお止めください。

免責事項

- 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関わる設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、当社ではいかなる責任も負いかねます。設備や設計、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
- 本製品は、日本国内での使用を前提に設計・製造されています。日本国外での使用における故障・不具合についての責任は負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 当社は、製品の故障に関して一定の条件下で修理を保証しますが、記憶されたデータが消失・破損した場合については、保証しておりません。本製品がハードディスク等の記憶装置の場合または記憶装置に接続して使用するものである場合は、本書に記載された注意事項を遵守してください。また、必要なデータはバックアップを作成してください。お客様が、本書の注意事項に違反し、またはバックアップの作成を怠ったために、データを消失・破棄に伴う損害が発生した場合であっても、当社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本製品に起因する債務不履行または不法行為に基づく損害賠償責任は、当社に故意または重大な過失があった場合を除き、本製品の購入代金と同額を上限と致します。
- 本製品に契約の不適合があった場合、無償にて当該契約不適合を修補し、または契約不適合のない同一製品または同等品に交換致しますが、当該契約不適合に基づく損害賠償の責に任じません。
- 本書に記載された責任は、日本国内においてのみ有効です。

商標・登録商標

AirStation™、AOSS™は、株式会社バッファローの商標です。本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。本書では一部を除き、™、Ⓡ、Ⓒなどのマークは記載していません。